

A large, expressive black ink brushstroke graphic that forms a continuous, swirling shape, resembling a stylized 'S' or a calligraphic flourish. It starts from the top left, loops around, and ends with a sharp, sweeping stroke towards the bottom right.

自己点検・評価報告書

2025 年10 月

独立行政法人国立高等専門学校機構
奈良工業高等専門学校

ま え が き

奈良工業高等専門学校（奈良高専）は、昭和 39 年（1964 年）に設立された国立の高等教育機関で、令和 6 年（2024 年）に創立 60 周年という大きな節目を迎えました。本校は、15 歳からの 5 年間一貫教育を核とする高専独自の教育体系を有し、本科卒業後には、全国に先駆けて設置した 2 年間の専攻科に進学することで、より高度な専門力を養うことができます。このように、本校は伝統と実績を兼ね備えた教育機関です。

現在、奈良高専は 5 学科 2 専攻から構成され、学生数は約 1,100 名です。進路選択においては、就職と進学がおおむね 4 : 6 の割合で推移しており、就職希望者は高い求人倍率のもと、日本を代表する企業や官公庁、さまざまな業種へと就職しています。進学者のうち約半数が国立大学へ編入し、約 4 割は本校の専攻科へと進学しています。学生それぞれの興味・関心や能力を活かした多様な進路選択は、本校の教育が学生の自主性を尊重していることの表れといえます。

課外活動でも、奈良高専生の活躍は目覚ましく、各種学会での受賞、高専ロボコンやラグビー大会での優勝など、全国レベルでの実績を多数残しています。令和 7 年（2025 年）7 月に開催された第 57 回国際化学オリンピック（IChO 2025）では、物質化学工学科の学生が日本代表として出場し、見事金メダルを獲得しました。この快挙は、奈良高専の優れた教育環境と、学生の高いポテンシャルを国内外に示すものです。

本校では、産業界のニーズに的確に応え、地域との連携を大切にしながら、グローバルな視点と創造性を併せ持つ「イノベティブなエンジニアリーダー」の育成を目指してきました。平成 30 年度（2018 年度）からは「グローバル工学協働教育プログラム」を開始しました。このプログラムでは、英語運用能力と工学的専門知識の両方を備えた国際的技術者の育成を目指しており、学生の海外派遣や留学生の受け入れなど、国際交流にも積極的に取り組んでいます。さらに、平成 31 年度（2019 年度）からは「しなやかエンジニア教育プログラム」を導入し、感性や表現力といった非認知能力の育成を目的とした STEAM 教育を推進しています。現在、これらの教育プログラムを統合しつつ、生成 AI の急速な進化に象徴される第四次産業革命が進む社会で、AI 時代に求められる思考・共感・創造・倫理・感性を自ら学ぶ力を身に付ける教育を提供し、「変化に対応する力」と「変わらない本質を育む力」の両立を重視し、未来を切り拓く人材の育成に取り組んでいます。

また、令和 9 年度（2027 年度）には改組を予定しており、学科再編（現行の 5 学科を 3 学科 5 コースへ）を伴う組織改革と AI・データサイエンス・ネットワーク技術などの知識やデータ活用能力を持ち、社会課題の解決に貢献できる「情報活用人材」の育成を全学生に向けて展開する教育改革を実施します。こうした取り組みが評価され、令和 7 年（2025 年）6 月には文部科学省の「大学・高専機能強化支援事業、事業計画名：専門にも AI にも強い人材を輩出する奈良高専モデルによる高度情報人材育成」に選定されました。

研究面では、令和3年度（2021年度）から「高専発！Society5.0型未来技術人財育成事業」において、GEAR5.0の防災・減災（エネルギー）分野で中核拠点校として成果をあげてきました。現在は、分散型エネルギーデバイス、物質変換、ICT・AI技術などの最先端研究の成果を研究現場に展開しつつ、実用化研究を推進しています。さらに、「共通機器管理センター」を通じた研究設備の効率的運用と産学官金連携の強化、Gear-Compassとの連携による研究教育の充実などを通じて、地域創生に尽力しています。

また、令和4年（2022年）4月に発足した国立大学法人奈良国立大学機構や奈良先端科学技術大学院大学（NAIST）、奈良県立医科大学など地域の高等教育機関との連携を深め、地域創生や協働教育にも力を入れています。特にNAISTとは、専攻科から大学院への接続性の高さを活かし、日本初の「高専－大学院連携教育プログラム」を令和7年度（2025年度）から開始しました。このプログラムに参加する学生は、専攻科在学中から大学院の教育・研究に触れることができ、大学院進学後は、期間を短縮して学位取得が可能となります。今後も近隣の大学との連携を強化し、イノベーションを牽引する人材の育成を推進していきます。

さらに、社会の多様化が進む中で、ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）の視点も重要視しています。奈良高専では、平成31年度（2019年度）より女子学生比率30%を目標に「女性エンジニアリーダー養成枠」を設けた結果、令和7年度（2025年度）には女子の入学生比率が32.7%に達しました。現在は、令和6年（2024年）から令和11年（2029年）までの第5期中期目標として掲げた「女子学生比率35%」の達成に向け、女子学生の募集活動の強化に加え、女子学生が安心して学べる環境整備や女性教員の研究支援、ライフ・ワーク・バランスの確保など、多様な人材が能力を最大限発揮できる教育環境づくりに取り組んでいます。今後、留学生の受け入れや国際交流事業にも力を入れ、グローバル化に対応し、より多様性を重視した教育を推進していきます。

本報告書では、奈良高専における教育、研究、社会貢献の取り組みと成果を多角的にご紹介しています。記載された内容にとどまらず、学校運営に関するご意見やご提案もぜひお寄せください。今後も奈良高専が、社会の変化に対応した人材育成を通じて、地域および産業界に貢献し続けられるよう、皆様のご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

令和7年10月

独立行政法人国立高等専門学校機構
奈良工業高等専門学校長 近藤 科江

目 次

まえがき

本文編

第1章 重点課題, その他特筆すべき事項	1
1. 1 教務部門	1
1. 2 学生部門	4
1. 3 寮務・グローバル教育部門	6
1. 4 専攻科・研究推進部門	9
1. 5 総務部門	13
1. 6 その他	14
1. 7 管理運営等	18
1. 7. 1 運営組織	18
1. 7. 2 教員組織	21
1. 7. 2. 1 専任教員の配置(現員数)状況	21
1. 7. 2. 2 出身大学等の構成	22
1. 7. 2. 3 年齢構成	23
1. 7. 2. 4 採用・昇任等の手順・基準	24
1. 7. 2. 5 教員人事について	24
1. 7. 3 事務組織	25
1. 7. 4 自己点検・評価	26
第2章 学科総括	28
2. 1 一般教科	28
2. 2 機械工学科	30
2. 3 電気工学科	31
2. 4 電子制御工学科	33
2. 5 情報工学科	35
2. 6 物質化学工学科	36
第3章 研究活動	38
3. 1 教育研究支援室における研究活動	38
3. 2 研究ならびに研究支援以外の活動状況	39
第4章 奈良高専自己点検評価チェックリスト	45

資料編

第1章 教育に関する評価関係

資料1	入試説明会等状況	76
資料2	入学試験状況	78
資料3	編入学試験状況	79
資料4	令和6年度開講科目一覧表	80
資料5	令和6年度年間行事予定表	92
資料6	令和6年度授業時間割表（本科）	94
資料7	令和6年度特別講演会実施一覧	96
資料8	令和6年度第4学年対象進路セミナー実施一覧	97
資料9	令和6年度秋季社会工場見学，専攻科学外研修	98
資料10	年度別博士号取得者一覧	99
資料11	令和6年度クラブ顧問・部員数一覧	100
資料12	令和6年度大会等成績一覧	101
資料13	学生会組織図	103
資料14	学生支援センター相談件数	104
資料15	令和6年度保健室利用学生数	105
資料16	令和5・6年度 学生事故発生件数	106
資料17	入学料免除者数	107
資料18	授業料免除者数	107
資料19	日本学生支援機構貸与奨学生採用者数	108
資料20	日本学生支援機構給付奨学生採用者数	108
資料21	進路状況	109
資料22	単車通学許可申請者	110
資料23	奈良高専学生関係事故等緊急時連絡ルート	111
資料24	学生委員会違反件数	112
資料25	寮生数推移調	113
資料26	学寮の日課表	114
資料27	寮生会の組織	115
資料28	令和6年度学寮の年間行事	116
資料29	専攻科入学者選抜方法	117
資料30	年度別専攻科入学状況	118
資料31	専攻科学力検査科目と学力検査の日時及び検査場(令和7年度)	119
資料32	令和6年度授業時間割（専攻科）	120
資料33	専攻科特別講演会	121
資料34	専攻科修了者の進路	122
資料35	JABEE修了者進路状況	125

資料36	専攻科入学者数の推移（専攻科）	126
資料37	企業・大学等インターンシップ参加者数（専攻科）	127
資料38	専攻科生の論文等の学会発表件数（専攻科）	128
資料39	専攻科生の学外表彰実績（専攻科）	129

第2章 研究に関する評価関係

資料40	科学研究費等受入実績調べ	131
資料41	令和6年度 科学研究費採択状況一覧	132
資料42	令和6年度 受託研究・受託事業・補助金事業一覧	133
資料43	令和6年度 共同研究一覧	134
資料44	令和6年度 奨学寄附金一覧	135
資料45	学会賞等の受賞状況	136
資料46	特許等申請・取得状況	137

第3章 社会との連携，グローバル教育，男女共同参画推進関係

資料47	公開講座実施実績一覧	139
資料48	令和6年度 学市連携事業一覧	141
資料49	令和6年度 学市連携以外派遣事業一覧	142
資料50	令和6年度 展示会・地域連携事業一覧	142
資料51	令和6年度 施設開放状況一覧	143
資料52	留学生年度別受入一覧表	144
資料53	国際交流 派遣・受入事業一覧	145
資料54	教員の兼業状況	146
資料55	非常勤講師の配置状況	146
資料56	教務部門アンケート関係	147
資料57	総務部門アンケート関係	150

あとがき

※凡例

本書は令和6年度実績を元に令和6年度末時点で点検・評価を行い、令和7年10月に発行したものである。

特に記載のない場合、本書において「昨年度」は「令和5年度」、「本年度」または「今年度」は「令和6年度」、「次年度」は「令和7年度」を指す。

本文編

第1章 重点課題, その他特筆すべき事項

1. 1 教務部門

教務委員会

1 教育の質保証

1-1 教育の質保証重点6項目(5項目)の学内展開(継続)

- ・WebClass のポートフォリオへの記入や実験スキル評価を継続的に教務委員を通じて学内にアナウンスし、実施した。令和7年度からは、特別活動の時間内にポートフォリオ記入の時間を設ける日程案を提案した。

1-2 教学 IR 室との連携(継続)

- ・教学 IR 室に対し、入試データと成績の相関関係や各科目が留年・退学に及ぼす影響についての分析を依頼した。これまで外注していた授業アンケートの分析も教学 IR 室に依頼した。

1-3 改組に関する教務案件の整理(新規)

- ・カリキュラムの全体的な枠組みについて提案し、カリキュラムの立案を依頼した。学習意欲の向上と留年防止を目的とした特別活動の標準カリキュラムを策定した。

1-4 令和5年度の数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの運用(継続)

- ・認定を受けたリテラシーレベルの教育プログラムについて PDCA サイクルを実行した。全学科の応用基礎レベルへの申請を目指した規程の変更、カリキュラム、シラバスの作成を行った。

1-5 休退学・原級留置学生の学力向上対策の検討(継続)

- ・スタディサプリの導入を決めた。また、①動画収録システムを使った授業動画の録画と Teams クラス内への公開、②合同オフィスアワーの実施、③不可(A)解消の計画的な実施、④教員の成績評価についての努力目標の実質化、⑤免除科目の拡大などを提案し、各科からの意見聴取を行った。

1-6 ICT 教育の充実(継続)

- ・Microsoft365, WebClass 等の活用を情報システム統括室と連携して実施した。副教材のアンケートを実施し、現状を把握した。また、上記の学力向上対策の一案として動画の活用を提案した。

1-7 新学級担任制度(学年主任導入含む)についての点検・評価(継続)

- ・新担任制度の一部を変更(学年主任は原則1, 2年で1名にする)し、この制度の継続を決定した。

2 教務部門関係業務の効率化

2-1 教務部門における関係業務の整理・効率化と分担・連絡体制の見直し（継続）

- ・免除科目をはじめとする成績処理に関する扱いの簡素化, 授業アンケートの学内実施などにより, 業務の効率化を行った。

2-2 教務システム, 出席管理システムの効率化（新規）

- ・バリエーションシステムのデータを EXCEL マクロで処理し, 進級判定・卒業判定を行うソフトについては, 機能を追加したうえで, 動作検証を行い, 来年度運用予定である。メーカーの都合で現行のバリエーション製教務システムのアップデートが必要となるが, 業者からの見積もりが未提出であるためアップデートできなかった。出席管理システムは, 運用上の問題が生じたため活用に至らなかった。

入試専門部会

1 令和 7 年度入試における女性エンジニアリーダー養成枠の扱いの検討（新規）

- ・特定の学科に女性エンジニアリーダー養成枠の受験生が集中していることに対する対応として令和 6 年 5 月に推薦選抜にかかる調査書点の取り扱いについて審議し, 変更を行った。

2 令和 8 年もしくは令和 9 年に向けた入試制度の変更の検討（新規）

- ・令和 9 年度の改組に向けた入試制度については, 現行制度を踏襲することで大きな変更を行わないこととした。

3 入試倍率向上のための方策の立案と実施（入試制度変更を含む）（新規）

- ・体験入学の動員数は前年度比増（+173 名）であったが, 学校見学・入試説明会の動員組数は前年度比減（-14 名）となった。結果として令和 7 年度本科入試は物質化学工学科が定員割れを起こしたので, 受験者数確保の方策（既存+新規）を検討することとした。

4 令和 8 年度入試より変更した編入学試験の入試方法の周知と運用（新規）

- ・令和 8 年度編入学試験については募集要項を作成した。英語は TOEIC スコアを活用する。

教育支援センター

1 利用環境の充実と利用の促進（継続）

1-1 図書館棟の施設・設備の利用促進（継続）

- ・意見箱を設置し運用して分析をしている。FAB スペースの予約システムを構築し, 利用状況を管理している。アンケートなど要望から, 次年度からラーニングコモンズ利用時間を放課後延長するなど利便性を高めるよう改善した。

1-2 起業家工房の運用方針の作成およびラーニングコモンズ, FAB スペースの運用方針の整理（継続）

- ・ 起業家工房の利用状況から、正課内外活動における運用方針が定まりつつある。FAB スペースに設置の PC については利用方針を決定した。今後も実状に合わせて継続的に改善していく。

1-3 社会実装・起業家教育を支援するしくみの検討（新規）

- ・ 奈良県アントレプレナーシップ教育推進事業（モノづくりスタートアップ塾）の企画・運営を行った。
- ・ 高専 0B の起業家を招くなど座談会を 2 回実施し、スタートアップマインドの育成について試行した。起業家工房運営学生スタッフの委嘱のための予算確保について検討している。
- ・ 高専祭など学生主体イベントにおけるものづくりが実施され、正課外の教育支援が先行して実現している。また、クラウドファンディングの次年度実施に向け実施要項等を作成し体制を整えた。

2 学生主体による学びの支援（新規）

2-1 起業家工房の利用の手引きの策定

- ・ 利用の手引き、各設備のマニュアルを整備、Microsoft アカウントで閲覧可能として運用を開始した。引き続き、マニュアル整備を継続していく。

2-2 運営学生スタッフによるサポート体制の構築

- ・ 運営学生スタッフを雇用し、工房の活用を促進できている。コンテスト参加が促進され、コンテスト入賞など実績を得た。

2-3 正課内外教育活動や学生の対外イベント参加への支援

- ・ しなやかエンジニアリング教育におけるワークショップや、ロボコンなどコンテスト活動における支援体制を構築した。

情報システム統括室

1 新設の情報システム統括室の運営方法の検討・実行・点検（新規）

- ・ 情報システム統括室運営委員会を 3 月まで毎月開催し、運営方法を検討し、1 年間運営した。また、3 月委員会にて年度を通じた運営方法の点検を行った。

2 情報セキュリティ対策の強化（継続）

- ・ 令和 5 年度情報セキュリティ監査の指摘事項の対応策を検討し、情報セキュリティ強化を行った。継続検討事項もあるため、次年度も引き続き検討していく。

3 情報リテラシー教育及び情報セキュリティ教育の充実（継続）

- ・情報セキュリティに関する誓約書（学生用は宣誓書）の事項にて各自が確認する形で教職員及び学生に対する情報セキュリティ教育の充実を図った。
- 4 今後の ICT 環境の整備 (Web サーバ, ネットワーク構成などのシステムの統一を含む) についての方向性の検討 (継続)
 - ・次期高専統一ネットワークにおける本校の ICT 環境の整備について検討し, 使用不可となっていた授業録画システムの復旧等を行い, 学内に周知した。
- 5 IT 担当教職員の育成 (新規)
 - ・IT 人材の採用について校長と相談した。現員の人材教育についても検討を進めた。

1. 2 学生部門

学生委員会

- 1 学生の規範意識の向上および自主的・自発的活動の涵養 (継続)
 - ・学校生活に関する注意喚起として自転車マナー, 盗難防止や歩きスマホの禁止などの指導を継続した。また, 学生会と連携し, 夏の軽装キャンペーンを実施するなど, 自主的・自発的な活動を継続的にサポートした。
- 2 自転車通学の継続的な指導と問題の検討 (継続)
 - ・通学時の交通安全指導体制の充実と全学的な交通安全意識, 学生の登下校の通学マナー向上のため, 毎月, 学生委員会において指導方法の検討を行い, 警察とも連携のうえ指導を実施した。
- 3 校内整備を通じた環境の充実 (継続)
 - ・クラブ等顧問からの安全対策および改善要望の意見聴取を実施し, 可能な範囲でクラブ等への設備を購入した。また, 学生のイベント・休憩スペースとしてアクティブコモンズの整備について学生会と協議した。
- 4 セミナーや講演会を通じた学生生活の充実 (継続)
 - ・令和 4 年度に対象学年を見直し, その学年に適したテーマのセミナー・講演会を設定・実施した。
- 5 奨学金など就学支援体制の強化と効率化 (継続)
 - ・日本学生支援機構給付奨学生在学採用等の各種奨学金関係の周知期間を一昨年度に引き続き 1 か月程度延ばし, 対象者に申請しやすくしている。さらに, 学生掲示板及び Teams 掲示板での周知を行い, 経済的支援を目的としているため, 締切についても柔軟に対応し支援体制の強化を図った。また, 「高校生等奨学給付金」と「日本学生支援機構給付奨学生予約採用」が同時期の申請期間となり, 対象学年及び家計基準が概ね重なることから, 対象者に双方の申請を促し, 事務手続きの効率化を図ることがで

きた。さらに、各府県での高校授業料無償化へ対応を進めた。制度の対象となる可能性がある保護者に対し周知を行い、申請手続きを行った。加えて、令和7年度から多子世帯への授業料等無償化についても、対象となる可能性がある保護者に対して周知を行った。

- 6 課外活動の運営指導体制の継続的な検討、課外活動指導員の配置の検討（継続）
 - ・活動方針として休養日および活動後の下校時間の徹底を行っている。顧問業務の改善のためのアンケートを実施し、顧問の配置を見直した。課外活動指導員の配置について、全国および近畿地区高専の動向を伺いつつ検討を継続している。
- 7 ピアサポートについて教員研修の実施および専門職との連携について学生支援センターと連携しながら検討（継続）
 - ・昨年度に引き続き、TAやチューター以外のピアサポーターの養成を検討している。

学生支援センター

- 1 学生全体の心の状態の把握のために適当な時期にアンケート調査を実施する（継続）
 - ・全学生に対し、6月から7月にかけて「学校生活アンケート」を実施した。
- 2 令和2年7月に制定された「奈良工業高等専門学校いじめ防止等のための基本計画」及び令和6年度の「いじめ防止プログラム」に基づいて、いじめの防止に取り組む（継続）
 - ・5月・10月・1月に「いじめ防止週間」を設定し、学生に対して「いじめアンケート」を実施した。教職員についても1月に「いじめ対応チェックリスト」を実施した。
- 3 合理的配慮のためのフローに基づいて具体的支援内容を協議しながら対象学生の支援を実施する（継続）
 - ・配慮の申し出があった学生に対し、学生支援センター運営委員会にて具体的支援を協議し、必要な支援を行った。
- 4 学生支援センターの機能的な運営体制の構築について検討する（継続）
 - ・昨年度に引き続き、専任センター員が担っていた業務を、センター長・副センター長、事務職員、常勤看護師、SSWで分担している。一昨年度からの懸案事項であった運営体制について、年間業務を踏まえた上で検討することとし、校長から指示されている運営体制の見直しも考慮しつつ、適宜、議論・検討した。
- 5 学生のメンタルヘルスを向上させる方策について検討する（継続）
 - ・1年生向けに、支援センターの仕組みの講演や、支援センタールームを「心の休憩室」と名付け、学生のクールダウン等に利用する運用を行った。
- 6 学生支援に関する情報管理と共有の在り方について検討する。（継続）

- ・情報管理の観点から、情報共有に関する明確な線引きが難しいため、個別の事案毎に担任や関係教職員と情報共有を行なっている。これらの経験を踏まえた上で、可能な範囲での線引きの指針の構築について検討した。
- 7 人権教育およびいじめ防止対策について学外機関と連携して推進する（継続）
- ・人権・いじめ教育について、学外機関に講師を依頼し、講演を行った。

1. 3 寮務・グローバル教育部門

寮務委員会

1 安全な寮生活のための環境整備

1-1 大和郡山ソリデール事業の展開（新規）

- ・大和郡山ソリデール事業について運用を拡大し、令和7年度からは4名が事業による同居を利用予定、1名がマッチング待ちである。今後定期的な聞き取り調査を実施し、さらなる事業の拡大と改善を試みる。

1-2 新寮建設を目指す取り組み（新規）

- ・学寮定員増を目的とした寄宿舍整備計画を立案、機構本部と調整中である。

1-3 その他

- ・昨年度に続いて男子浴槽にてレジオネラ菌が発生した。業者による配管工事と定期的な配管洗浄を実施した。また、男子お風呂（脱衣室、浴室）の改修後の不具合について補修工事を行い、安全な寮生活のための整備につとめた。
- ・年度末に居室の荷物持ち帰りについて、今年度までは経過措置として段ボール2箱分のみ談話室で預かることにした。

2 自律的な寮生会活動を目指した指導

2-1 コロナ禍により中止・縮小された寮生会活動を立て直すために組織や行事の見直し（継続）

- ・各種イベントについて、コロナ前後の開催方法を参考に新たな実施方法を模索した。また、組織の見直しとして、今年度をもって学寮委員会を廃止した。学寮委員会廃止にあたっては、寮生会代表である寮長副寮長との意見交換会を定期的実施する、Teamsを利用する等、より緊密な意見交換を可能とした。

3 教職員の寮業務軽減

3-1 学寮指導員のさらなる拡充を目指した宿直規定の見直し（継続）

- ・学寮指導員により、金土日祝日と入試に伴う特別日課について宿直業務を依頼した。

3-2 職員の負担軽減を目的とした、学寮事務業務を見直し（継続）

- ・年度末に職員が実施していた寮棟居室の清掃を外部委託とし、職員の負担を軽減した。

- ・居室点検の回数を毎月実施から2カ月に1回に減らし、教員の負担を軽減した。

4 その他

- ・現在の寮定員枠不足への対応として、4年次に寮定員枠が減少する3年生に対する継続入寮審査を前倒しして実施した。結果として男子15名、女子6名の継続入寮希望があり、男子10名、女子4名に継続入寮の許可を行った。

グローバル教育センター

1 学術交流の活性化

1-1 短期留学生の受け入れ（継続）

- ・昨年度より協定締結校からの学生受入を再開している。短期留学生の受入人数は学寮の空き状況により変動するが、今年度は6名を受け入れた。（昨年度2名）
- ・平成30年度より中断していた香港IVEからの短期留学生受入を今年度末から再開した。

【短期留学生】

シンガポール NYP・RP：9月30日～12月22日、4名（各校2名）

香港 IVE：3月3日～4月30日、学生2名

1-2 国際交流事業の推進（継続）

- ・新規協定校の開拓を行い、3月末までに計4機関と新規のMOUを締結した。

【締結完了】

1. 台湾 明志科技大学：5月5日締結、令和11(2029)年5月4日まで
2. 韓国 ドウウォン工科大学：9月23日締結、令和11(2029)年9月22日まで
3. タイ キングモンクット工科大学トンブリ校：1月23日締結、令和12(2030)年1月22日まで
4. シンガポール テマセク・ポリテクニク：3月13日締結、令和12(2030)年3月12日まで

2 国際教育の活性化

2-1 グローバルエンジニア育成事業の実施（新規）

- ・昨年度より再開した国際交流派遣プログラムは、今年度はさらに件数を増やし実施した。

【派遣プログラム】

台湾 明志科技大学：8月5日～14日、3名

香港 IVE：8月25日～31日、8名

シンガポール NYP：8月23日～9月18日、2名

タイ高専：2月23日～3月1日，6名

シンガポール：3月9日～15日，19名

台湾：3月24日～27日，2名

- ・協定校からの受入は次のとおり。

【短期受入】

香港 IVE：8月16日～24日 学生19名，教員2名

韓国 ドウウォン工科大学：12月12日，学生19名，教員6名

- ・高専機構「高専生のための海外活動支援事業」予算を活用し，本校主催プログラムのみならず，学生個人の語学研修や他大学主催プログラム等を含む海外活動に対しても支援金の補助を実施した。（採択者2名）
- ・「グローバルエンジニア育成事業」計画の一環で学生向けeラーニングシステムの導入を予定し，12月から使用を開始した。
- ・全学生へ継続してトビタテ！留学 JAPAN への応募を呼びかけた結果，今年度は本科2年生1名が採択され，8～9月にオーストラリアへ留学した。

2-2 グローバル工学協働教育プログラム(GECEP, Neo GECEP)事業の推進（継続）

- ・2年生以上のGECEP履修生は52名。令和6年度入学生を対象としたNeo GECEPには39名から，2年生以上のGECEP選択科目は2名から履修申請があった。
- ・4月，10月，12月に「国際交流報告会」を開催し，GECEP履修生以外の留学に興味のある学生にも参加を推進した。
- ・GECEPプログラムの一環として10月31日に特別講演会を実施。講師に奈良県国際交流員を招き，アメリカ文化の紹介が行われた。異文化に興味のある全学生を参加可能とし，計32名の参加があった。

2-3 語学教育の推進（継続）

- ・TOEIC-IP試験を全本科3・4年生及びGECEP履修2年生を対象に5月11日～12日に実施した。
- ・語学教育の推進のため，来年度からの全本科2年生対象TOEIC Bridgeテストの導入を決定した。対象学年学生及び保護者へ周知している。
- ・英語学習表彰を実施した結果，今年度は優秀賞9名，奨励賞6名を表彰したが，昨年度より減少となった。（昨年度：優秀賞10名，奨励賞13名）
- ・国際学会での学生の発表を促進した結果，国際学会奨励金の申請数は11件であった。（昨年度12件）

3 留学生指導

3-1 令和6年度の正規留学生の受け入れ（継続）

- ・今年度は国費留学生 1 名（モンゴル）、マレーシア政府派遣留学生 3 名を受入れ、留学生は総勢 9 名となった。
- ・来年度は国費留学生 1 名（インドネシア）と本校では初めてタイ高専から 1 名の受入れが確定している。
- ・寮務委員会と連携し、学業及び生活指導を行う他、外部講師による補講やチューターによる学業・寮生活の指導を併せて実施し、学習面と生活面から留学生をサポートした。なお、状況に応じて派遣国の大使館とも連携し留学生のサポートを行った。
- ・その他機関との連携では、郡山警察署と連携し、3 年生 4 名に対して生活指導講習を 7 月 10 日に実施した。また、第 3 ブロック留学生支援拠点校（富山高専）担当教員と留学生及び関係教職員が面談を実施した。

1. 4 専攻科・研究推進部門

専攻科委員会

1 連携教育による新たな人材養成のための教育プログラムの推進（継続）

1-1 豊橋科学技術大学との連携教育プログラムのフォローアップ

- ・令和 2 年度より開始された豊橋技術科学大学との連携教育プログラム「先端融合テクノロジー連携教育プログラム」について、ガイダンスを行ったが、令和 7 年度の履修希望者はいなかった。今年度は連携大学・高専間での協議会は開催されず、豊橋技科大より各高専に次年度のスケジュールが送られて来るのみであった。今後は協議会を開催し、課題を整理して協議を進める必要があると思われる。

1-2 奈良先端科学技術大学院大学との連携教育プログラムの推進

- ・令和 7 年度より実施する奈良先端科学技術大学院大学との「高専－大学院連携教育プログラム」について、5 月 24 日に第 1 回「高専-大学院連携教育プログラム」協議会を開催し、プログラムの円滑な実施に必要な制度や体制整備について協議を進めた。物質創成科学領域を履修希望の 2 名については夏季休業以降研究マッチングを進めて、マッチングを終え、特別学修生の承認を受けた。3 月に新たに情報科学領域を希望する 2 名の学生の申し出があり、研究マッチングを進めることとなった。また、奈良先端科学技術大学院大学で 11 月 15 日に開催された「高等専門学校・奈良先端科学技術大学院大学」意見交換会、12 月 3 日に本校で開催された運営諮問会議において、連携教育プログラムの説明を行った。

2 学生への研究倫理教育の推進（新規）

- ・専攻科生の研究倫理教育の実施に向けて、APRIN e ラーニングシステムの ID を準備した。次年度、どのプログラムを学生に受講させるか、時期も含めて決定のうえ実施

予定である。

3 専攻科入試における Web 出願システムの導入（継続）

- ・専攻科入試における Web 出願システムの導入について、今のところ高専機構からの指示もなく、他高専も特に動きは見られないので、続けて動向を見ながら検討を行う。

産学協働・地域創生研究センター

1 奈良高専地域イノベーションコンソーシアムの充実（更新）

1-1 イノコン会費を財源とした活動の推進

- ・若手・新任教員研究費補助制度に基づき、申請のあった4名の教員に各10万円の研究費補助（イノコン会費が財源）を行った。また、同制度によって昨年度に補助を行った教員5名について、9月に実施した総会で研究紹介・成果報告を行った。
- ・学生チャレンジプロジェクト5件の内、2件計40万円を、イノコン会費を財源として補助を行った。

1-2 学生アイデアチャレンジ報告会など学内イベントの案内

- ・学生アイデアチャレンジについて、高専祭での中間発表（ポスター展示）、年度末の成果報告会の実施計画をコンソーシアム総会で案内した。成果報告会には会員企業6社9名が参加した。

2 産学活動の認知度向上のための広報推進（新規）

2-1 技術相談、イノベーションコンソーシアム、共同研究等を紹介するパンフレットの配布

- ・昨年度末に作成したイノコンおよび本校の産学連携活動を紹介するパンフレットを各学科に配布し、就職面談などでの配布を依頼した。イノベーションコンソーシアム総会やシーズ紹介イベントなどでも配布を進めている。

2-2 シーズ発表会、TECHNO-Café 等イベントの推進、研究紹介動画の検討

- ・以下の7件を実施した。

6月 奈良高専 TECHNO-Café 参加企業12社16名

7月 県内企業との産学交流会 参加企業8社15名

8月 MOBIO-Café『奈良高専』 参加企業31社35名

9月 県内企業との産学交流会 参加企業8社14名

10月 技術相談会（池田泉州銀行協力）開催

10月 けいはんなビジネスメッセ2024出展

11月 ビジネスチャンス発掘フェア出展

2月 京都ビジネス交流フェア出展

また、シーズ発表会など各種展示会で利用できる、研究紹介動画の作成について検討を進め、研究クラスターに協力を依頼したが、作業時間の確保が難しいことから作成には至らなかった。

3 地域創生事業の推進（継続）

3-1 奈良市・奈良先端大・奈良女子大との具体的連携活動の推進

- ・以下を実施した。

4月 起業家支援事業「NARA STAR PROJECT」 協力

5月 産学連携共同研究補助金 共同研究1件成立

6月 産学連携マッチング（不成立）

7月 企業立地パンフレット インタビュー協力

7月 産学連携マッチング（不成立）

8月 4者ミーティング（奈良市、奈良先端大、奈良女子大、奈良高専）

9月 八条・大安寺周辺地区まちづくりに伴う意見交換会

3月 奈良市産学官連携推進会議

3-2 自治体・企業との共同研究、共創教育の推進

- ・「奈良市産学連携共同研究等に対する補助金」を活用し、企業1社と150万円の共同研究を締結した。
- ・なら産地学官連携プラットフォーム実務者会議（2回）、なら産地学官連携プラットフォームWS、令和6年度総会に参加した。

4 学生アイデアチャレンジの活性化（更新）

- ・今年度より1件あたりの補助額を20万円に増額し、5件の枠に対して7件の応募があった。3名の教員による審査に基づいて5件の採択プロジェクトを決定し、7月に学生に通知した。高専祭での中間発表（ポスター展示）を行った他、年度末の成果報告会には会員企業5社9名が参加した。

共通機器管理センター

1 センターの業務計画及び管理運営に関すること（継続）

1-1 共通機器管理センター経費の使用について円滑な運用体制を構築するためのポリシーの制定

- ・ポリシーを制定し、運用を開始している。日常的に発生する経費は通常経費要求に、突発的事由に関する経費は臨時経費要求で対応することとしている。本年度は申請に対して十分な予算が確保できなかったため、この場合の残高処理に関し、別途規定を設けた。また、互助会制度は制定しないものと決定した。

2 学内及び学外の機器共用推進（継続）

2-1 共通機器予約・管理システムの運営方法の策定

- ・物質化学工学科の学生に関しては4年研究室仮配属時に、他学科5年、専攻科1年生は4月にTeamsでアンケートを取り、5月を目処に配布する方針とした。次年度以降も、方針通り、進める予定である。

2-2 運用機器のリスト化

- ・委員を通して各学科に登録確認を行った。登録したリストをサイボウズに掲載し、各学科に対して科内会議を通じて案内した。

3 組織力の強化（継続）

- ・センター長が校長預かり枠であること、および産学協働・地域創生研究センター運営委員会とは構成メンバーが異なることから、専攻科長の管轄で議論を進めている。

研究推進

1 研究力強化への取り組み（更新）

1-1 科研費獲得のための学内体制整備

- ・令和7年度分の科研費公募に対して、「機構本部実施の査読」、「校長による学内査読」、「教員間による相互査読」のうち、最低でも1種類は受けること、また、45歳以下で昨年度未採択・未提出者は必ず本部科研講習会を受講することとして学内周知したが、目標達成には至らなかった。

1-2 特例適用認定の不適教員解消

- ・特例適用認定で不適を受けた教員に対する不適解消に向けた方策について各学科に意見聴取を行った。各学科からは様々な意見を頂き、残念ながらまとまった一つの方向性を示すことができなかったが、校長とも相談のうえ、今後の方針を決定したいと考えている。

1-3 若手教員の研究力強化

- ・若手教員に対する科研費や外部資金獲得のサポート等、研究力強化のための方策について各学科に意見聴取を行った。各学科からは様々な意見を頂き、残念ながらまとまった一つの方向性を示すことができなかったが、校長とも相談のうえ、今後の方針を決定したいと考えている。

2 GEAR5.0 未来技術の社会実装教育の高度化（継続）

- ・GEAR5.0 最終年度にあたり、事業を円滑に推進させるために、機構本部でGEAR総括リーダーが配置され、全体を統括することとなった。本校としても企業、自治体、大学等の外部機関と広範な連携体制を構築し、高専の社会実装力をアピールできる

ようサポートを続けて行った。次年度は GEAR5.0 エネルギー・環境ユニットと連携して、KOSEN 水素フォーラムを奈良で開催する予定である。

1. 5 総務部門

総務委員会

- 1 教育の内部質保証と外部評価に対応するシステムの構築
 - 1-1 令和 2 年度認証評価に依る改善項目の検討（継続）
 - ・授業チェックシート、成績根拠資料の作成依頼の文書及び成績根拠資料状況確認表に同一の試験問題でないことをチェックする項目を追加した。
 - 1-2 認証評価 4 巡目、KIS、教学 IR に対応するチェックシステムの改善（継続）
 - ・認証評価、KIS の評価項目のチェックリストを作成し、令和 7 年度より自己点検評価に利用することとした。
 - 1-3 成績根拠資料の収集・管理方法の検討（新規）
 - ・他高専における成績根拠資料やエビデンスとなる資料の収集方法について調査した。資料の管理方法については引き続き検討が必要である。
- 2 アセスメントプランに基づいた 3 つのポリシーの整合性点検とアセスメント結果を活用した改善活動（新規）
 - ・アセスメントプランの実施確認表を作成し、3 つのポリシーの整合性点検を行う準備を行った。

広報センター

- 1 令和 4 年度立案の広報戦略に基づいた広報活動の実施とその影響及び効率の評価（継続）
 - ・近隣 66 校の中学 3 年生全員（8610 名）にチラシを配布したが、入学志願者は減少した。体験入学の日数については様々な意見があったことから、企画会議で議論いただくこととし、令和 7 年度は全ての学科で 3 日間とも体験授業を開催することとした。
 - ・中学校等が主催の説明会、塾主催の説明会、他高専との合同説明会に積極的に参加した。
 - ・KOSEN FES 2024（国公私立高専合同説明会）に出展した。
 - ・イオンモール大和郡山との包括連携協定に基づき、科学教室等のイベントを開催した。
- 2 ホームページ全体の改善の計画（継続）
 - ・スマートフォンからの閲覧をしやすくすることを目的としたホームページ全体の改

修作業が終わり、3月末に納入された。

3 広報活動に係る業務の効率化についての検討（新規）

- ・中学校訪問や塾の説明会について総務委員である学科主任に一部対応いただいた。引き続き、より効果的な広報活動について検討を進める。

4 創立 60 周年記念事業との連携（新規）

- ・創立 60 周年記念事業の一環として県道沿いに掲示板を設置し、本校学生の活躍を広く発信することとした。

1. 6 その他

教育研究支援室

1 教育研究支援室運営体制の整備

1-1 室レベル、個人レベルでの PDCA サイクルによる業務推進の定着（新規）

- ・人事評価記録書記入の際「令和 6 年度重点課題進捗管理表」に示す課題を、業務目標の核として活用できる内容として検討し記載した。教育研究支援室予算においては、「特別自己研鑽費」を予算に計上し、科研費(奨励研究)に採択されていない技術職員へ重点的に配分した。また、PC 更新予算も計上し、業務推進環境の充実を図った。スキルマップを作成し、教育研究支援室の運営 PDCA サイクルに活用することを決定し、学内に周知した。

1-2 業務内容の把握と業務の効率的・効率的運用および各業務におけるバックアップ体制の強化(継続)

- ・4月から各技術職員に「業務記録簿」を付けるよう依頼し、技術職員業務の全体像を把握した。また、領域長に「スキルマップ」の作成を依頼し、バックアップ体制の見える化をスタートさせることができた。レポート採点については、正式に技術職員の業務外であることを周知した。

2 教育研究活動・社会貢献活動などへの主体的、積極的貢献

2-1 自己研鑽による専門分野の新規技術の習得と実験実習などへの展開（新規）

- ・各技術職員が持つ技術スキルをまとめた「スキルマップ」が完成した。スキルマップを活用した室運営の PDCA サイクルを決定し、学科との連携方針も明示した。

2-2 公開講座などの社会貢献活動（新規）

- ・教育研究支援室内に 3 名の技術職員からなる公開講座実行委員会を設置し、次年度以降早い時期に教育研究支援室主催の公開講座を実施する体制、ならびにコンテンツの作成を進め、令和 7 年度の公開講座実施計画の提案があり、提案に則って公開講座実施経費要求書が提出された。また、講座内容の充実を図るため、外部資金への申

請を行った。

3 関連部署との連携強化

3-1 教育支援センターとの連携（継続）

- ・ものづくり実験実習棟の実習工場については、管理物品の共用換え、予算項目の変更等を終え、今後は設備機器の更新等の計画を教育支援センター運営委員会においてハンドリングする体制を整備していく。図書館棟の FAB スペースは、起業家工房内の施設として位置づけ、起業家工房を含めて技術職員が今後、運用に協力することを決定した。来年度具体的な協議を教育支援センターと実施することとした。

3-2 情報システム統括室との連携（継続）

- ・パスワード関連相談窓口については、情報システム統括室を兼務する技術職員と、図書・情報系の職員が協力し、申請方法の統一は出来たが各窓口(教育研究支援室と図書館)で同じサービスを提供することが出来ていない。引き続き、学生の利便性向上に向けて検討していく。その他、情報システムに係る業務の適正化については、適宜課題を確認し都度改善に取組んだ。

ダイバーシティ推進委員会

1 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）（継続）

1-1 女性研究者の研究力向上を図るための体制及び取組内容

- ・ダイバーシティ推進センター運営委員会及び連携機関長会議に参加し、事業に関する事項を決定している。また、実務者会議にも出席し、関係機関との連携を図った。加えて本年度が最終年度であるため、成果報告のシンポジウムが開催され、それに出席して成果報告を行った。
- ・「関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワーク」に参加し、連携を行った。
- ・奈良女子大学が運用している保育システムの共同利用を推進し、現在学内で 2 名の申請があった。
- ・新任女性教員を対象に女性教員研究環境支援として研究費支援を実施したが、今年度は応募がなかった。
- ・高専教員職体験（インターンシップ）の受け入れ公募を行ったが、応募がなく実施しなかった。

1-2 女性研究者の上位職への登用に向けた取組

- ・高専機構または他機関主催の講演会等について女性教員に限らず、学内教職員にも周知し、参加を促した。

1-3 連携機関等の研究者への支援を通じた好事例の展開

- ・ダイバーシティ推進委員会のホームページを用いて情報発信を行った。
- ・本校と奈良女子大学、武庫川女子大学で制定した優秀な女性研究者への研究賞を継続実施したが、本校からの応募はなかった。
- ・共同研究スタートアップ支援を 3 機関連携で共同実施したが、本校からは応募がなかった。

1-4 意識啓発や組織改革等を図るための取組

- ・3月10日に「いきサポ座」を講師に招き、ジェンダーアンコンシャスをテーマとしたワークショップを開催した。第3ブロックの高専や連携機関への案内も行ったが、出席者は本校教職員19名であった。
- ・シンポジウム、研修会への参加を促すことにより、ダイバーシティに関する意識の啓発を行った。
- ・女性教職員対象に1月、女子学生対象に2月にFormsを用いて就業・就学環境の改善に関する意見聴取を行い、要望を集約した。対応が可能なものについては、各担当部署と情報共有を次年度に行う。

1-5 女子学生・女性研究者向けキャリアパス支援の取組

- ・女性エンジニア養成推進センターの協力のもと、研究力向上およびリーダー養成のため、リーダー養成セミナー（きららかセミナー）を10月から1月まで5講座、9回開催した。関係機関に告知し、1回だけ参加があった。
- ・高専女子フォーラム in 関西を12月8日（日）に対面で実施し、発表学生4名の参加があった。

2 ダイバーシティ推進委員会女子学生による広報プロジェクト支援（継続）

- ・上述の通り行われた、高専女子フォーラム in 関西での発表学生の支援を行った。
- ・12月22日にイオンモール大和郡山において、フラワーライト製作の女子小中学生向けワークショップを開催した。なでしこプロジェクトの学生9名と多くの受講者の児童生徒・保護者が参加し、盛況であった。

女性エンジニア養成推進センター

1 しなやかエンジニア教育プログラムベーシックコースの円滑な実施（継続）

- ・本科向け（2～4年生）に異分野の学びとして、外部の企業や大学の専門家の協力を得て、通期で、講義11件 / 講演2件 / ワークショップ3件を実施した。

2 しなやかエンジニア教育プログラムアドバンストコースの円滑な実施（継続）

- ・専攻科向けにビジネス系の科目として「エンジニアと経営」、「ビジネスデザイン」、

「リーダーシップと意思決定」の計3科目を、外部の企業や大学の専門家の協力も得ながら実施した。

3 分野横断型能力育成科目に試行プログラムの実施とその検証（継続）

- ・本科向け（5年生）として、7～8月にかけて、「自分のアイデアをデジタル Fab 機器を使ってカタチにする」をテーマに9回の講義を実施した。

4 GCON 支援（新規）

- ・GCON へ参加意欲のある学生に対し、提案内容の確認などの支援を行い、1組が出場した。

5 高専機構内の STEAM 教育の普及に向けて所属ブロック内高専への取り組みの展開とその連携スキームの構築（新規）

- ・鈴鹿高専と連携し、第3ブロック内での STEAM 教育強化の協議会を8月に発足し、3回の推進会議を実施した。また、項目1のしなやかエンジニア教育プログラムの2件の講演をオンライン配信、並びに講義動画共有を行い、第3ブロック内での STEAM 教育の浸透を図った。

施設整備委員会

1 講義棟，本館北棟，専攻科南棟，総合情報棟の4つの総合的な計画の立案（継続）

- ・本館北棟を改組の部屋として改修することが決まった。その他の建物は継続審議となった。

2 情報工学科棟改修工事及び物質化学工学科棟空調改修工事の実施（継続）

- ・物質化学工学科棟は10月31日、情報工学科棟は、当初発注分は2月27日に完成した。執行残を使い追加した分は3月中に完成予定である。

3 令和9年度以降の整備計画の策定（新規）

- ・令和8年度も含め、改修予定事業の要求順位を決定した。

人事管理

1 改組計画に合わせて、第4期教員人員枠（教育体制整備）に基づく人事マネジメントの再検討（継続）

- ・企画会議や人事委員会で、改組後の教員の定員について提案した。また、今後の教員人事の見通しについても共有することができた。

2 働き方改革関連法の対応（年休5日取得，長時間労働者の健康管理，業務量削減（継続）

- ・一斉休業日を3日間設け、年休取得を進めた。業務削減も引き続き検討する。

学内管理運営

- 1 将来計画の策定と年次計画の策定（継続）
 - ・将来計画については、検討に至らなかった。令和6年度の年次計画を策定した。
- 2 改組計画の作成及び「成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金による継続的支援」への応募（継続）
 - ・機構本部への改組委員会を通過し、2月に基金への応募を行った。
- 3 管理運営組織及び事務部組織の見直しによる多忙化の緩和
 - ・学生課の教務係と入試係の統合を行った。多忙化緩和のため、RPAに関するSD研修を12月に実施した。
- 4 危機管理体制の確認と見直し（継続）
 - ・9月にテーブル訓練を実施した。後援会の出資により、2月に災害備蓄倉庫を設置した。食料備蓄物品は4月に提供される予定である。

1. 7 管理運営等

1. 7. 1 運営組織

令和5年6月に学科改組WGを立ち上げ、学内外を問わず、様々な会議等で議論や意見交換を行いながら、令和6年4月に3学科5コースの枠組みを、そして同年7月に令和9年度改組とすることを決定した。本改組の目的は現在の5学科を3学科（システムデザイン工学科3コース、情報科学科2コース、物質創成化学科）とし、全学生を対象とした新しい教育（専門教育×AI教育）を行い、『専門分野にもAI（情報技術）にも強い奈良高専』に再編するものである（2025年10月現在、設置構想中）。これに伴い、教員組織の編成やカリキュラムの改訂、施設・設備等の整備計画、志願者確保のための広報の充実を行う必要があることから、まずは令和7年度から5部門長を副校長とすることにより、各部門長に責任を持たせ、業務の分散化を行うこととした。また、委員会等の整理統合、指示系統・責任の明確化、委員等の数の見直し等による教員負担の軽減を目的として学内組織の見直しを行った。

令和5年12月に発足した情報システム統括準備室が、令和6年4月に情報システム統括室として設置された。学内の情報セキュリティ及びネットワーク並びに学内の情報ネットワーク資源を統合的に企画、管理、運用し、これらを一括管理できるような体制を整備することを目的としており、情報システム統括室長が、情報セキュリティ推進責任者を兼ねることから、情報セキュリティ組織体制の集約化を目指すものである。

事務組織においては、入試業務における入学生受入れから在学中の教務関連業務の一

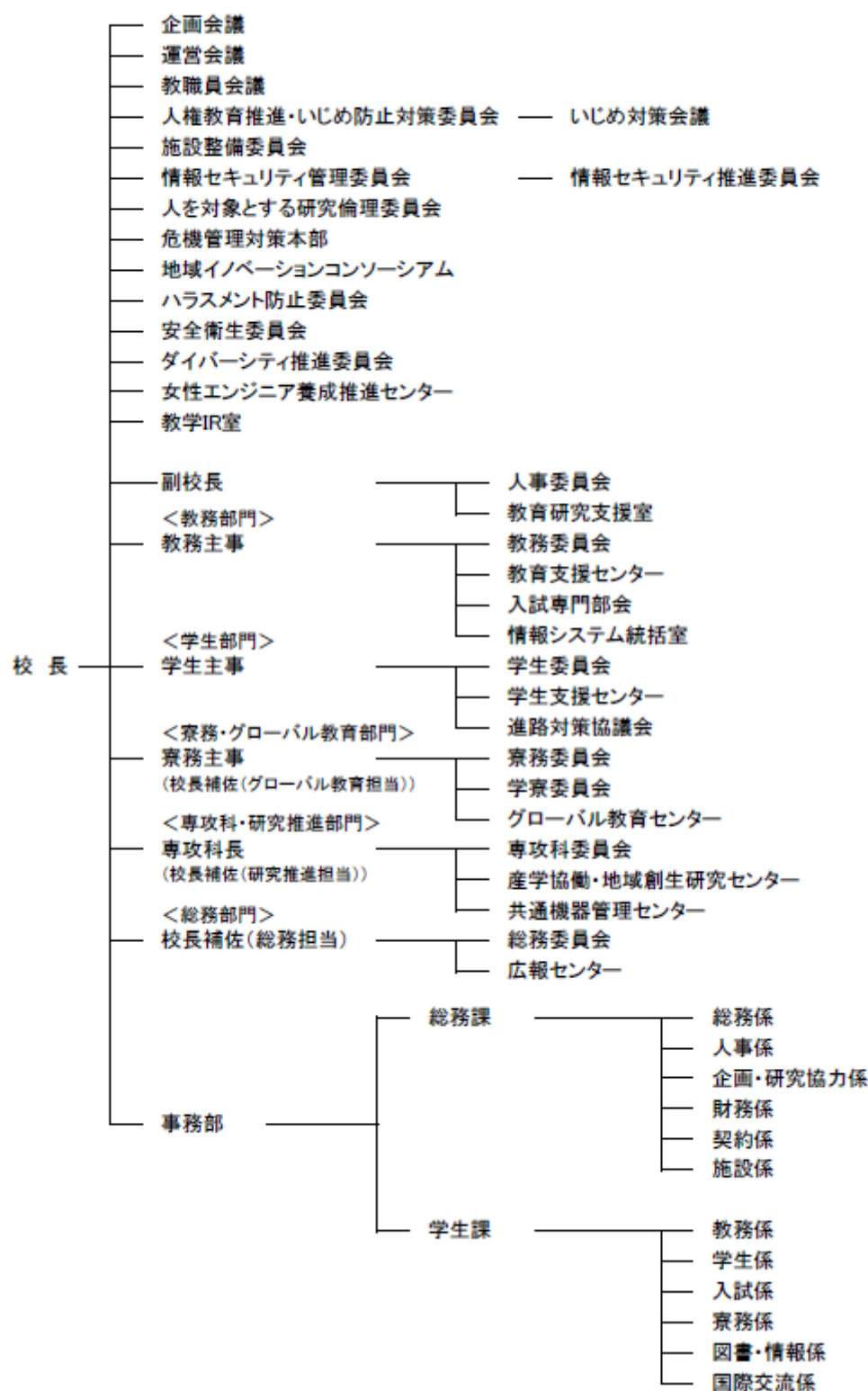
元化，及び学生課が所掌する事務の合理化かつ効率化の推進を目的として，令和6年10月から「教務・入試係」に統合・再編した。

さらには，近年，外部資金の獲得が減少していることから，クラウドファンディング導入のための体制整備や，ネーミングライツ事業の運用，学内における間接経費の配分の見直しなどについて，検討を開始した。

※令和6年度の運営組織図を次ページに示す。

令和6年度の運営組織図

奈良工業高等専門学校運営組織図(令和6年度)



1. 7. 2 教員組織

1. 7. 2. 1 専任教員の配置（現員数）状況

本校教員数の配置（現員数）は次のとおりである。

（令和7年5月1日現在）

所属 職名	校 長	一般教科	機械 工学科	電気 工学科	電子制御 工学科	情報 工学科	物質化学 工学科	合 計
校 長	1							1
教 授		4	6	3	4	6	4	27
准教授		13	2	4	3	3	4	29
講 師		2	0	0	0	0	0	2
助 教		5	0	3	1	1	0	10
合 計	1	24	8	10	8	10	8	69

※その他に次の教員が在籍

一般教科 嘱託教授1名（短時間再雇用教員）

物質化学工学科 嘱託教授1名（短時間再雇用教員）

1. 7. 2. 2 出身大学等の構成

本校教員の出身大学等の構成は、次のとおりである。

(令和7年5月1日現在)

大 学 名	人数	大 学 名	人数
北海道大学	2	山口大学	1
東北大学	2	徳島大学	1
千葉大学	1	九州大学	1
東京大学	1	佐賀大学	1
東京農工大学	1	宮崎大学	1
電気通信大学	1	琉球大学	1
金沢大学	2	富山県立大学	1
岐阜大学	1	大阪府立大学	3
豊橋技術科学大学	5	大阪市立大学	3
名古屋工業大学	1	同志社大学	4
名古屋大学	1	立命館大学	1
京都大学	3	関西大学	1
奈良教育大学	4	近畿大学	1
奈良先端科学技術大学院大学	4	大阪電気通信大学	1
大阪大学	9	関西学院大学	1
神戸大学	3	甲南大学	1
広島大学	2	外国の大学・その他	1
鳥取大学	1	(うち本校卒業者)	8
岡山大学	1		

1. 7. 2. 3 年齢構成

本校教員の年齢構成は次のとおりである。

全教員69名の平均年齢は48.6歳であり、そのうち教授（27名）は54.5歳，准教授（29名）は47.5歳，講師（2名）は43.6歳，助教（10名）は35.4歳である（次表参照）。

（令和7年5月1日現在）

年 齢	校長	教授	准教授	講師	助教	助手	合 計
67	1	0	0	0	0	0	1
66	0	0	0	0	0	0	0
65	0	0	0	0	0	0	0
64	0	1	0	0	0	0	1
63	0	1	1	0	0	0	2
62	0	0	1	0	0	0	1
61	0	4	1	0	0	0	5
60	0	0	0	0	0	0	0
59	0	1	0	0	0	0	1
58	0	3	0	0	0	0	3
57	0	0	0	0	0	0	0
56	0	4	1	0	0	0	5
55	0	0	2	0	0	0	2
54	0	0	0	0	0	0	0
53	0	0	1	0	0	0	1
52	0	3	0	0	0	0	3
51	0	1	0	0	0	0	1
50	0	3	2	0	0	0	5
49	0	2	2	0	0	0	4
48	0	1	0	1	0	0	2
47	0	2	2	0	0	0	4
46	0	0	4	0	0	0	4
45	0	1	1	0	0	0	2
44	0	0	1	0	0	0	1
43	0	0	1	0	0	0	1
42	0	0	3	0	0	0	3
41	0	0	1	0	0	0	1
40	0	0	3	0	1	0	4
39	0	0	1	0	2	0	3
38	0	0	0	1	1	0	2
37	0	0	1	0	0	0	1
36	0	0	0	0	3	0	3
35	0	0	0	0	0	0	0
34	0	0	0	0	1	0	1
33	0	0	0	0	0	0	0
32	0	0	0	0	0	0	0
31	0	0	0	0	0	0	0
30	0	0	0	0	0	0	0
29	0	0	0	0	0	0	0
28	0	0	0	0	1	0	1
27	0	0	0	0	1	0	1
26	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	27	29	2	10	0	69

1. 7. 2. 4 採用・昇任等の手順・基準

教員の採用・昇任等については優秀な人材をより公正に選考するため、校長の諮問機関である人事委員会において、採用の場合は教員選考委員会から、昇任の場合は学科から推薦のあった任用候補者について、奈良工業高等専門学校教員選考基準を踏まえて審査している。

1. 7. 2. 5 教員人事について

新規採用については、教員の退職等に伴う補充人事であるのが一般的である。したがって、当該教員の専門分野を継承する人材の採用が原則となっている。一方、平成29年度以降は学生支援専任教員や女性エンジニア養成推進センター担当教員を採用する等、全学的な重点課題へ対応するための新たな教員人事も行なっているが、さらに、令和9年度に予定している学科改組に向けた戦略的な教員人事を行う必要がある。

平成30年11月には、優れた人材の確保及び教員の採用・昇任等選考体制における公正性・透明性を担保する観点から、人事委員会の下に教員選考委員会を新設した。当委員会において公募要領の作成並びに応募書類及び面接（模擬授業を含む）により、候補者の選考審査を行うこととした。採用にあたっては採用予定者を人事委員会へ推薦し審議する。人事委員会の承認後、校長が最終的な決定を行なっている。

令和4年度に実施した電気工学科の女性限定公募では、博士号を取得前の候補者を任期付きの助教として初めて採用し、博士号を取得後の令和7年度より無期雇用に転換を行った。このような採用も人材確保のための有効な手段であると考えられる。

なお、独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標にも掲げられているとおり、優れた教員を確保するため、教授、准教授について本校以外の勤務経験者、長期海外研究・経済協力者の占める割合を向上させることや、高専のみならず、大学を含めて採用校以外への人事交流を活性化させることが必要である。

1. 7. 3 事務組織

本校における、事務部職員の配置状況は次のとおりである。

(令和7年5月1日現在)

課名	係 名	部 課 長	課長補佐・ 専門員		係長・ 専門職員		主任		一般職員		看護 師	計	再雇用・ 有期雇用・ 非常勤						合 計
			事務系	技術系	事務系	技術系	事務系	技術系	事務系	技術系			再雇用職員	事務補佐員	技術補佐員	技能補佐員	臨時用務員	その他	
部 長		1										1							1
総務課	課 長	1										1							1
	専門職員				1							1							1
	総務係				1		1					2		1					3
	人事係				1		1		1			3		2					5
	企画・研究協力係				1		1					2							2
	財務係				1		2					3		1					4
	契約係				1		2					3		2					5
	施設係				1		1					2		1					3
	計	1	0	0	7	0	8	0	1	0	0	17	0	7	0	0	0	0	24
学生課	課 長	1										1							1
	課長補佐		1									1							1
	教務・入試係				1		1		2			4	1	2				1	8
	学生係				1		1		1		1	4	1	1				3	9
	寮務係				1							1		1		4	1	1	8
	図書・情報係				1							1		5	1				7
	国際交流係				1							1		1					2
	計	1	1	0	5	0	2	0	3	0	1	13	2	10	1	4	1	5	36
教育研究支援室				3		7				2		12			3				15
産学協働・地域創生研究センター												0						1	1
機械工学科												0		2	1				3
電気工学科												0		1					1
電子制御工学科												0		1					1
合計		3	1	3	12	7	10	0	4	2	1	43	2	21	5	4	1	6	82

1. 7. 4 自己点検・評価

本項においては、管理運営等にかかる令和6年度の取り組みを中心に自己点検・評価を実施し、優れた取り組み及び課題として残されている事項を明確にすることで、次年度以降の改善に資することとする。

○運営組織について

- ・ 近年、データサイエンスや AI の急速な進展により社会構造や産業の在り方が大きく変わりつつあり、そのような社会的要請に対応した人材育成が可能となるよう学科改組 WG を立ち上げて抜本的な教育体制の見直し検討を行い、『専門分野にも AI（情報技術）にも強い奈良高専』をモットーとして、現在の 5 学科を 3 学科（システムデザイン工学科 3 コース、情報科学科 2 コース、物質創成化学科）に再編するとともに、全学生を対象とした新しい教育（専門教育×AI 教育）を実施していくことを学校として決定したことは高く評価できる。
- ・ 改組に伴って生じる、教員組織編成見直し、カリキュラム改訂、施設・設備等の整備計画作成、志願者確保のための広報の充実などを着実に遂行するため、業務の分散化及び機動性向上を目的として令和7年度から5部門長（教務、学生、寮務・グローバル、専攻科・研究推進、総務・広報）を副校長とすることを決定したことは評価できる。
- ・ 教員の業務負担軽減のため、校長主導の下、委員会等の整理統合、指示系統・責任の明確化、委員等の数の見直しを行ったことは評価できる。
- ・ 令和6年4月に情報システム統括室を設置し、同室長が情報セキュリティ推進責任者を兼ねることで、学内の情報セキュリティ及びネットワーク並びに学内の情報ネットワーク資源を統合的に企画、管理、運用できる体制を構築したことは評価できる。
- ・ 入学生の受け入れから在学生の教務関連情報の一元化と業務効率化を目的として、令和6年10月に教務係と入試係を、教務・入試係に統合・再編したことは評価できる。

○教員組織について

- ・ 一般教科担当の専任教員数は 24 名であり、高等専門学校設置基準で定められている必要数である 22 名を上回っている。また、専門科目担当の専任教員数は 44 名であり、同基準で定められている必要数である 36 名を上回っており共に基準を満たしている。
- ・ 教員の出身大学等は、北海道から沖縄までの国公私立大学及び外国の大学と幅広く、多様な人材により構成されていることがわかる。また、本校卒業者は 11.6%と国立高

専平均の 14.7%（令和 4 年度学校教員基本調査より）を下回っており，同観点からも多様性を確保できていることがわかる。

- ・ 教員の年齢構成は全世代間に概ね均等に広がっており，現況下では適正であると判断できるが，30 代前半以下の教員数が低いことから，将来的に世代間の不均衡が生じないよう，年齢構成を勘案しながら適切な補充を実施していく必要がある。
- ・ 採用等に関しては，広く公募を行い本校選考基準に基づき選考をするとともに，模擬授業を行わせることで，研究実績だけではなく，講義力のある優秀な人材の確保に努めている。
- ・ 令和 4 年度に実施した電気工学科の女性限定公募において，博士号未取得者を採用したが，博士号を取得できたため，令和 7 年度から無期雇用転換することを決定した。適切に人材を見極めることで博士号未取得者であっても選択肢になり得ることを示すことができたことは評価できる。
- ・ 優れた教員を確保するための方策の一環として，他高専及び他機関の教育研究活動に従事させることにより教員の能力を高めるべく，「高専と両技科大との教員人事交流制度」等の活用による更なる人事交流の推進等を検討していく必要がある。

○事務組織について

- ・ 事務職員においても組織の活性化や個人の能力を高めるべく，大学などの他機関や近隣国立高専との積極的な人事交流が必要と考えているところではあるが，近隣大学の人事交流縮小（大学内での人材育成への方向転換等）の影響を受けており，人事交流を実施できていない状況であり，引き続き他機関への積極的な働きかけを継続する必要がある。

第2章 学科総括

2. 1 一般教科

一般教科では、「幅広い視野と教養」、「豊かな人間性とコミュニケーション能力」、「創造力と実践能力」を有した技術者を育成するため、各専門学科と連携しながら教育実践を行っている。本校での5年間あるいは専攻科を含む7年間にわたる教育を確実なものとするため、専門教科への橋渡しとなり「くさび型教育」がより充実したものになるよう、特に本科低学年における基礎学力の獲得に重点をおいた教育指導を実施している。この「基礎学力」の定着のためには、通常の授業における学習に加え、自学自習の習慣をつけることが大切である。日頃から適切な課題を課すなど、地道な指導を行い、学生の必要に応じた補習や補講を実施している。また、一般教科の教育実践に必要な、物理実験室、応用物理実験室、化学実験室、学習指導室、体育館、25m プール、武道場、テニスコート、地域創生交流室などの各種施設の環境整備・維持管理を行い、地域のイベントに参加するなど、教育・研究の地域還元も積極的に行ってきた。以下、令和6年度における一般教科の重点的な取り組み、およびその状況について述べる。

1) 令和6年度の重点取り組み課題

- ① 低学年教育の充実（継続）
- ② 就職/大学編入学に関する相談や支援（継続）
- ③ 入試広報活動への取り組み（新規）

一般教科として①、②については、特に重点的に取り組む課題となる。この2つに加えて、本校への志願者を増やすための広報活動に対する取り組みを重点的取り組み課題とした。

2) 重点取り組み課題の達成状況

① 「低学年教育の充実」について

「低学年教育の充実」については、一般教科が取り組むべき最重要事項であると考えている。数学については1, 2年生を対象とし、放課後に数学担当教員の指導のもと、非常勤講師や専攻科生のティーチングアシスタントを配置して補習を行った。また、英語科やグローバル科を中心として海外派遣・留学生受入などの国際交流事業プロジェクトに対応した学生指導（英語プレゼンテーション指導なども含む）を実施し、本校の国際的な活動を支えている。

各教科の取り組みとしては、どの教科も「学習習慣の定着」、「基礎学力の向上」を念頭において指導を行っている。小テストを実施することにより、学生が学習したことを振り返る機会を作り、学習を反復することで理解を深め、学習へのつまずきに対し、いち早く対処するように心がけている。課題を課すことにより、自学自習を促し、授業以外の時間での学習時間の確保、学習習慣の定着化を図っている。また、視聴覚教材を利

用することにより、学習への意欲・関心を高め、グループ活動を通して、コミュニケーション能力だけでなく、思考力、表現力も高められるよう取り組んでいる。物理科、化学科では、1, 2 年生で使用する教科書を検定教科書とし、必要最低限の知識を2年間で身に付けさせるようカリキュラムを構成した。

② 「就職/大学編入学に関する相談や支援」について

大学編入学試験に向けた相談や学習の質問に対処できるよう、オフィスアワーだけでなく、学生を受け入れられるよう環境を整えている。物理科においては、平成23年度から大学編入学を希望する4, 5年生を対象とし、放課後に定期的な編入問題への対応を中心としたハイレベルな補習を実施している。英語科では、3年生以上のTOEIC受験と4～5年生での大学編入学試験の個別指導を放課後や昼休みに行っており、その他の語学試験対策についてもオフィスアワーの中で実施している。そのほか、数学科、化学科においても、編入学試験に関する質問に随時対応している。国語科、社会科でも、就職・進学に必要な小論文指導や志望理由書、手紙の書き方等の相談に応じ、本校が就職・進学において高い水準を維持していることに貢献している。

③ 入試広報活動への取り組みについて

かねてから「科学教室」や「出前授業」を行い、小学生や中学生に科学への興味や、数学に対する関心を高めるような活動を行ってきた。また、地域と連携し、まちづくり、まちおこしイベント等において奈良高専の情報発信を行ってきた。令和6年度に初めて行った取り組みとして、夏休みに本校で行う体験入学の際に、一般教科教員による体験授業を実施した。40人規模の教室で行ったが、収まり切れないほどの参加者があり非常に盛況であった。次年度に向けた改善点として、参加者に対応できる規模の会場確保が挙げられる。体験授業を行った科目名、授業内容を以下に示す。

国語 表現を読むとき考えること

数学 2次式の展開、因数分解とその初等幾何、整数論への応用

地球惑星物理 宇宙の「地図」：人類はどこまで宇宙を解明しているか？

物理 ヘリウムガスを入れた風船はなぜ浮くか？圧力と浮力による考察

英語 英語をアクティブに自学自習する

保健体育 奈良高専の体育の授業風景

3) 令和7年度に向けた課題

① 低学年教育の充実（継続）

② 就職/大学編入学に関する相談や支援（継続）

③ 入試広報活動への取り組み（継続）

一般教科として果たすべき役割として、「①低学年教育の充実」、「②就職/大学編入学に関する相談や支援」は令和7年度においても引き続き一般教科の重点課題とする。「③入試広報活動への取り組み」については、令和6年度に初めて体験入学における体験授業を実施した。初めてのことで、試行錯誤しながらの実施となり、改善点も見られた。

そのため、入試広報活動についても継続課題としていきたい。

2. 2 機械工学科

1) 令和 6 年度の重点取り組み課題

- ① 教員 8 名体制における持続可能な学科運営（新規）
- ② 志願者増を目指した学科広報（継続）
- ③ 進路指導方針・体制の検討（継続）
- ④ 各種プロジェクトを活用した実験・実習の検討（継続）

2) 重点取り組み課題の達成状況

① 本課題は、新規課題として設定しているが令和 5 年度の課題「教員 8 名体制における業務の効率化」の継続・発展的なものである。令和 6 年度の機械工学科の教員数は 8 名（教授 6 名，准教授 2 名）であり，このうち 3 名はそれぞれ校長補佐，主事補，センター長を務めており，教員一人あたりの授業や学生指導などの学科に関する業務量は依然として高い水準にあった。そのため，科内会議については前年度に引き続いて情報共有，各種委員会からの意見聴取等に Microsoft Teams を活用することで，短時間での実施が行えた。また学生指導に要する負担が学級担任のみに過度に集中しないように，学科主任がサポートにあたった。

教員個人の業務の軽減についての方策はこれといった打開策が見当たらないのが現状である。まずは，各種委員会委員等の比較的把握しやすい業務だけでなく，たとえば公開講座や外部イベントへの参加等の情報を科内会議で共有することで，学科教員全員での状況理解を図った。

② 機械工学科内に広報担当を設け，志願者獲得につながる広報イベントにおける広報活動を行った。広報担当教員は学生と協同して広報活動に取組み，学生の課外活動の支援も兼ねている。年度当初に広報活動に興味のある学生を募集し，広報担当教員とともに年度活動計画を立案したのち，いくつかのテーマを設定して取組み，成果物は学内外のイベントにて利用された。令和 6 年度の新たな試みとして，体験入学のテーマを 1 テーマから 4 テーマに変えて実施した。これによりスペースや材料，設備などの制約のため，実施することが困難であったテーマに取り組むことが可能となった。参加した中学生は 4 テーマのうちの 1 テーマを受講するが，他のテーマの存在を知ることによって機械工学科で学ぶ内容が幅広いことを知ることができる。その結果，受講者数は 3 日間で昨年度と比べ 99 組から 135 組に大幅に増えた。

③ 進路指導に関して，4 名の教員が分担して指導を行った。2 月上旬に 4 年生を対象に進路ガイダンス（就職・進学のための説明会）を行い，その後，機械工学科の進路指導室を開放し，学生に求人情報を閲覧させることで就職活動に対する意識を高めるように指導した。なお，学生の進路相談については，進路指導担当教員が主として対応するが，

事前に研究室の仮配属を行い、指導予定教員からもアドバイスが受けられるよう複数体制をとっている。また、Microsoft Teams を用いて求人情報を閲覧できるようにしており、遠隔での進路指導も行える体制を整えた。

令和 6 年度の進路内訳は、就職 16 名、進学 18 名（専攻科への進学 6 名を含む）であった。就職先としては、機械、建設、電気、化学等の製造業が中心であるが、運輸、情報・通信業、独立行政法人等の多様な業種がみられる。就職に関しては、例年通り、機械工学科に対する求人件数は非常に多く、採用担当者との面談において高専卒業生の実力を高く評価される方が多いことから、その期待の大きさを感じている。一方、進学に関しては専攻科を含め多くの国公立大学等へ進学している現状から、在校生及びその保護者の進学に対する興味は高まる一方である。いずれの場合も多様な進路を保障しているという点では、一定の成果を示しているように思えるが、現実には進路決定の際、思うような結果を導けない者も数人見られた。

④ 4 年・5 年開講の機械工学実験において、令和 5 年度に引き続いてプロジェクトを活用したデジタルツインを用いたテーマを実施した。このテーマでは、ラジコンカーのウィングの角度および流速を変化させることで得られるダウンフォースを、風洞実験およびシミュレーションによって比較するものである。実施後のアンケートでは「楽しく学ぶことができましたか」に対して、肯定的な結果が得られており、デジタルツイン技術習得のための実践的教育手段として有効であることが示された。

3) 令和 7 年度に向けた課題

① 教員 8 名体制における持続可能な学科運営（継続）

少人数で運営しているため、担当業務の固定化がみられる。現状のようにうまく回っているうちは大きな問題とはならないが、今後は個人に頼り過ぎない運営が求められる。

② 志願者増を目指した学科広報（継続）

前節に述べた取組にも関わらず、学科志願者（第 1 希望）数は減少した。広報活動の志願者増への効果に関しては、十分な成果を上げるまでには至っていないが、継続して機械工学科の取組みを学生と共に発信していくことで志願者増につながると考えている。

③ 進路指導方針・体制の検討（継続）

前節で述べたように、多様な進路を保障しているという点では、一定の成果を示しているように思えるが、現実には進路決定の際、思うような結果を導けない者も数人見られた。指導方法を含めた改善策を検討する必要があると考えている。

④ 各種プロジェクトを活用した実験・実習の検討（継続）

令和 6 年度の取組をさらに促進していく。

2. 3 電気工学科

1) 令和 6 年度の重点取り組み課題

- ① 少人数で運営していくための業務の効率化（継続）
- ② 教育・実験環境の整備（継続）
- ③ 学力不振学生およびハンディがある学生の対応（継続）
- ④ キャリア教育の充実（継続）
- ⑤ Web を有効活用した学科広報（継続）

2) 重点取り組み課題の達成状況

① 令和6年度の学科教員数（常勤）は、電気を専門とする教員9名（教授3名，准教授4名，助教2名），女性エンジニア養成推進担当（准教授）1名の計10名で，このうち博士号取得者は9名である。令和7年度に教員の入れ替わり等（タイ高専へ派遣1名，教員採用1名，嘱託教員の退任，博士号取得教員1名）を予定していたため，授業担当だけでなく広報イベント，学科運営や就職関係などの担当も大きく変更する必要があり，この準備を進めるにあたって業務の効率化と学生支援の質向上を目的に体制の見直しを行った。具体的には，デジタルソフトウェアを用いたノウハウの文書化とシステム化による作業の効率化，責任感と経験の蓄積を意識した若手教員の育成（先輩教員のサポート付）および学生支援をより充実させるためのディスカッションと試行実験を繰り返した。また，電気主任技術者および電気工事士の資格試験に関わる学校認定について，特に登録機器の大幅な更新を行い，管理の省力化を図った。全体として改善できたところもあるが，業務の増加に対して個々の教員の熱意によって回っている部分が多く，さらなる業務の効率化が必要である。

② 実験・実習授業やイベントに関する保管物品が増えているため，実験室や倉庫の整理を進め，保管スペースを確保した。①に記載したように，資格試験の学校認定に必要な機器の更新を行い，廃棄できる機器を抽出することができた。今後，分別および廃棄手続きを行う予定である。

③ 社会の変化に伴い，学力不振学生およびハンディキャップをもつ学生が増加しており，日々の登校や卒業研究の遂行が難しくなる状況も出てきている。また，対象学生の担任や指導教員に過剰な負担がかかっており，早急な改善が求められている。電気工学科では，毎月，全クラスおよび学生の状況を交換する場を設け，必要に応じて担任や学生支援室と相談するなど，学生への早期対応を行っている。

④ 4年生に対して，春期と冬期に進路ガイダンスを実施し，複数回の進路調査および教員との面談を行いながら，進路選択から決定までの支援を行なった。また，卒業生による進路セミナー，外部講師による講演会（2度開催）を実施し，視野を広げかつ進路を考える上で参考となる具体的な情報を提供した。さらに，3月に2日間，就職希望者を対象としたマッチングイベントを実施した。令和5年度までオンラインで行っていたものを対面方式に戻したことで，より効果的なマッチング機会になったものと思われる。4年生の12月に（1～3年生の保護者も参加可），保護者対象の進路ガイダンスも行っている。3年生には，卒業生と語る会やインターンシップ報告会への参加等を通して，自らの進路

について考える機会を設けた。

⑤ 主担当も決めて学科 HP の内容更新を試みたが、十分に更新できなかった。①の業務改善を進め、教員が広報に時間をさけるように工夫していきたい。

3) 令和 7 年度に向けた課題

- ① 少人数で運営していくための業務の効率化（継続）
- ② 教育・実験環境の整備（継続）
- ③ 学力不振学生およびハンディキャップがある学生の対応（継続）
- ④ 新カリキュラムをはじめとする学科再編に向けた準備（新規）
- ⑤ Web を有効活用した学科広報（継続）

2. 4 電子制御工学科

1) 令和 6 年度の重点取り組み課題

- ① 問題解決能力を身につける実践的な技術者教育の充実（継続）
- ② 進路指導体制の充実（継続）
- ③ 進路選択のための段階的なキャリア教育の検討（新規）
- ④ 学科広報および地域社会との連携体制の充実（継続）

2) 重点取り組み課題の達成状況

① 電子制御工学科では、実際に設計製作する体験学習が教育目標を達成するために効果的であるとの考えに基づいて、1 年次から 4 年次まで系統的に「工学実験」プログラムを構築している。また、システムデザイン能力、システム開発能力、さらには、問題解決能力に富む技術者を育成する教育プログラムとして、ロボットを題材とした多段階体験型課題解決プログラムとして 1 年次から「工学実験」を実施し、大いに教育効果を上げている。具体的には、1 年次からのレゴマインドストーム等を教材として、学年進行と共に段階的に学習レベルを積み上げていく方式（多段階体験）を令和 6 年度も継続して実施した。さらに、3 年次には、ベースロボットに TETRIX 及び myRIO を用いた教材を導入し、課題解決のための手法について学習させている。そして、4 年次の「システム設計製作」においては、CAD や 3D プリンタなどを用いて自律型ロボットを設計製作し、学科内ロボットコンテスト（学生のスキルを踏まえ、『レスキューロボット』、『配達、回収ロボット』等、毎年課題内容・難易度を見直し、検討・設定している）を実施し、総合的なメカトロニクス技術を身に付けさせると共に、豊かな創造力の育成を行っている。また、この「システム設計製作」では、学生 5～6 名でプロジェクトチームを構成して、予備知識、設備、予算、時間等の様々な制約がある中で、設定された課題を解決するロボットシステムの設計・製作を行うことで、より実践的な活動を通して問題解決能力を養っている。さらに、これらの実践教育の成果を、自ら製作したロボットの実演を交えたプレ

ゼンテーションを行うことで、プレゼンテーション能力の育成を図っている。これらの取組みにより、学生の主体性が助長され、創造性の育成に大きく寄与していると考えられる。

② 進路対策委員会を設置し、進路対策委員が指導教員及び保護者との連携を図りながら、学生本人の希望を尊重し、学生の就職・進学の手導を行っている。進路対策委員会では、4年次の学年末に進路ガイダンスを行うとともに、就職、進学したOB・OG学生との懇談会を設定し、学生の進路決定の参考となるよう指導している。また、年末以降に昨年度分の求人資料を公開し、5年次に進級する前から学生に対して将来の進路に対する意識と自覚を促している。さらに、5年生の保護者対象の進路ガイダンスを令和6年度直前の3月上旬に実施し、学科の進路方針について説明を行った。そして、進級決定後の4年次3月末に就職・進学の希望調査を行い、進路対策委員、指導教員、保護者等のアドバイスの下、4月初旬より具体的な受験企業及び進学受験先を決定した。なお、早期の採用選考等就職活動に対しては、学生重視の観点から、各企業側の計画に応じて対応を行った。令和6年度の求人企業数は551社と令和5年度の623社と比較して減少したものの、多くの求人企業数となった。また、卒業学生42名中、就職を希望した学生は26名であり、このうち、19名の学生が第一希望の企業から内々定をいただいた。一方、15名の学生が専攻科、大学等へ進学した。進学先の専門分野は本学科が複合系学科であることから、機械系、電気系等多岐に渡っているのが本学科の特徴である。また、本校専攻科には6名が進学した。例年、進学する卒業学生の方が就職するものよりも割合が高い傾向にあったものの、令和6年度においては、逆に就職する卒業学生の割合が高い傾向となった。

③ 4年次の1月下旬に学科主催の合同企業説明会を例年実施している。令和6年度はOB・OGが在籍する企業を中心に13社の参加があり、学生にとって参加企業の業務内容や、卒業生のOB・OGの企業内での活躍を肌身で実感できる機会を提供した。さらに、4年次の11月に企業へ就職した卒業生を招聘して進路セミナーを実施している。上記以外にも、1年次から4年次の秋季社会工場見学や、3年次対象の大学へ進学した卒業生を招聘して卒業生と語る会やインターンシップ報告会、4、5年次対象の特別講演会（令和6年度は企業の技術者を招聘）への参加等を通じて、進路選択のための段階的なキャリア教育を実施することができた。

④ 学科広報を意識して、学科HP管理者により、学科独自の取り組みや情報等を迅速に学科HPへ公開する体制を取っている。公開講座としては、小学校高学年生を対象とした公開講座「楽しく作るライン追跡ロボット」を令和6年度も実施した。実施アンケートの結果から、本公開講座は概ね好評であり、数年後に本校を受験、入学する参加者がいる等、志願者獲得につながるイベントという視点においても有効であることがわかる。また、産学連携への取組にも力を入れ、近畿圏の中小企業に勤務する技術者向けの講習会、各種展示会等への展示、奈良県内外企業からの技術相談、共同研究や受託研究等を積極的に行った。そして、地域社会との連携について、学市連携出前授業として大和郡山市・生駒市の小学校等へ出向いて授業を実施する等、近隣地域の小中学生の科学技術

に対する興味の一層の増進に貢献した。

3) 令和 7 年度に向けた課題

- ① 問題解決能力を身につける実践的な技術者教育の充実（継続）
- ② 進路指導体制の充実（継続）
- ③ 進路選択のための段階的なキャリア教育の検討（継続）
- ④ 学科広報および地域社会との連携体制の充実（継続）
- ⑤ 学科改組に向けた教育・研究体制の検討（新規）

2. 5 情報工学科

1) 令和 6 年度の重点取り組み課題

- ① 高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援事業への対応（継続）
- ② 令和 6 年度全国高専プログラミングコンテストの開催準備・実施運営（継続）
- ③ 情報工学科棟全面改修の実施（継続）
- ④ 学内の情報共通教育への支援・協力（継続）
- ⑤ 体験入学など学科広報の充実に向けたシステム化（継続）

2) 重点取り組み課題の達成状況

- ① 情報工学科が各専門学科と協力して高度情報専門人材育成の機能強化の核となる計画実現に向けて、昨年度から引き続き、情報工学科の WG メンバ 3 名を中心とした学科内改組検討 WG にて、支援事業への申請書のうち、情報科学科の概要、教育カリキュラムの骨子等および、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度「応用基礎レベル」対応の全学共通情報科目案の具体的な検討と原案作成を行った。
- ② 令和 6 年度全国高専プログラミングコンテストは令和 6 年 10 月 19 日～20 日に本校主管で全国大会が開催された。学内で近藤校長を委員長とする実行委員会（教職員 85 名）を組織し、準備から実施運営まで担当した。一昨年度から準備をすすめて、なら 100 年会館を会場として準備日も含め 3 日間の日程で無事に大会を実施することができた。
- ③ 令和 6 年 8 月～令和 7 年 3 月に情報工学科棟全面改修工事が実施された。工事期間中は、学内各所に確保された移転先に人・物・機材を移転した。
- ④ 情報工学科では、1 年次の情報リテラシー科目の全学導入化に伴い、共通シラバスの作成、非情報系 4 学科の情報リテラシー立ち上げ作業および授業を担当し、その後は教務委員会と協力して、各専門学科教員への授業担当の引継ぎ支援を行ってきた。令和 4 年度には、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度「リテラシーレベル」に対応した情報リテラシー科目での実習授業を立ち上げ、後期 3 週分の実習授業を担当した。令和 5 年度の実習は各科担当教員への引継ぎを兼ねて情報工学科教員で担当し、令和 6 年度に各科情報リテラシー担当教員へ実施を引き継いだ。

令和 6 年度には、教務委員会からの依頼により、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度「応用基礎レベル」への申請のため、情報工学科現行カリキュラムでの認定申請科目の対応および、情報工学科を除く 4 学科の学生向けに開設する、選択科目 2 科目のうち 1 科目目の「数理データサイエンス AI 基礎 I」のシラバスの策定を、教務委員および情報工学科改組検討 WG メンバラを中心に行った。

⑤ 体験入学については令和 4 年度から、3 テーマ（（テーマ 1）ネットワーク・セキュリティ・AI、（テーマ 2）ハードウェア・IoT、（テーマ 3）ソフトウェア・マルチメディア）を各年ローテーションすることで、毎年異なるテーマで体験授業を行えるように変更した。令和 6 年度には、テーマ 3 ソフトウェア・マルチメディア分野を専門とする教員らを中心として、ビジュアルプログラミングを使用して、プログラミングに興味を持ってもらう機会を作った。公開講座および体験授業などで毎年実施している「夏休み AI 講座」のコーナーで、令和 5 年度は最近注目されている生成 AI について、生成 AI の学習の仕組みと特徴、活用する際の注意点などについて分かり易く説明した。

3) 令和 7 年度に向けた課題

- ① 高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援事業への対応（継続）
- ② 学内の情報共通教育への支援・協力（継続）
- ③ 体験入学など学科広報の充実に向けたシステムの運用（継続）

2. 6 物質化学工学科

1) 令和 6 年度の重点取り組み課題

- ① 実践教育の取り組み（継続）
- ② 地域社会貢献の拡充（継続）
- ③ 先端技術教育の国際化（継続）

2) 重点取り組み課題の達成状況

① 化学および生物分野における基礎理解と実験技術の修得を促進するため、新たに学生による自己点検形式の実験スキルチェックを導入した。まだ試行段階ではあるが、学生自身が自らの実験技術を振り返り、課題を認識する機会として一定の効果が見られた。

ICT ツールについては、引き続き活用を継続し、教員による資料作成の促進とその提示により、黒板中心の講義から資料投影を併用した授業形態への移行が徐々に進んだ。また、学生による調べ学習を通じたレポート提出も課すことにより、主体的な学びの促進にもつながった。

② 地域との連携を重視し、公開授業や科学教室、出前授業などを通じて、外部の教育活動に継続的に参画した。出前授業では簡単な実験を取り入れ、子どもたちの科学への関心を高める取組を行った。

また、各教員が専門性を活かして学会活動や研究発表に取り組むとともに、競争的資金の獲得や企業・地域との共同研究などを通じて、研究成果を社会へ還元した。さらに、共通機器管理センターに設置された高度分析機器の外部利用を促進し、地域の大学・企業との機器の共用化にも貢献した。

③ グローバル人材の育成を視野に入れた技術教育の一環として、英語による専門的な情報収集や発信の能力向上にも引き続き取り組んだ。令和 6 年度も、長岡技術科学大学を中心とするコンソーシアムを通じて、英文電子ジャーナルを活用した卒業研究や講義における英語文献の調査を推進した。あわせて、学生による英語論文の紹介を行い、英語力および専門知識の向上を図った。卒業研究では、英語の専門用語に触れる機会を増やし、実践的な語学力の育成に努めた。さらに、一部の学生や専攻科生は、国内外の国際会議で研究発表を行い、国際的な学術交流の経験を積んだ。海外における研究活動や技術教育に関する取り組みは限定的であったものの、今後の展開に向けた基盤整備の重要性を認識し、仕組みの拡充について引き続き検討を進める。

3) 令和 7 年度に向けた課題

① 実践教育の取り組み（継続）

化学・生物分野における基礎的な実験技術の習得に向けて、学生による自己点検を通じたスキルの可視化の効果的な運用と定着化を進める。また、ICT ツールを活用した事前学習支援や、資料提示を通じた講義の質の向上により実験と講義の相互補完的な学修環境の整備を進める。

② 地域社会貢献の拡充（継続）

公開授業や科学教室、出前授業などを通じて地域社会への貢献に取り組み、科学への関心を高める活動を継続する。また、教員は専門分野における研究活動を通じて、競争的資金の獲得や共同研究を推進し、地域の技術革新や課題解決に貢献する。加えて、共通機器管理センターの設備を活用し、地域との連携強化と研究支援体制の充実を図る。

③ 先端技術教育の国際化（継続）

教員および学生が海外での研究活動や技術教育交流に積極的に参加できる機会の拡大を目指すことにより、国際的な視野と専門能力を備えた人材育成を一層強化していく。

第3章 研究活動

※教員の研究活動については国立高専研究情報ポータルへの掲載に代えています。

(<https://research.kosen-k.go.jp/>)

3. 1 教育研究支援室における研究活動

【学会講演等】5 件

◎ 技術職員のみ (5 件)

1. 実践的なものづくり実習の事例紹介
島田大嗣, 尾崎充紀, 福田龍一
第16回 高専技術教育研究発表会in木更津概要集, 2025年3月, pp. 12-13
2. 設計教材開発に向けた, 2D図面と3Dデータから受取る設計情報に関する比較
福田龍一
第16回 高専技術教育研究発表会in木更津概要集, 2025年3月, pp. 22-23
3. 化学発光で光の三原色を実現する探求型STEAM実験教材の開発と実践評価
～光で体験する化学反応の世界～
加藤綾子
総合技術研究会2025筑波大学報告書, 2025年3月
4. 遊び心をくすぐる仕組から学ぶ電子制御講座の構築
～公開講座向けカリキュラムの検討～
登一, 松浦亮太, 島田大嗣
総合技術研究会2025筑波大学報告書, 2025年3月
5. 遊び心をくすぐる仕組から学ぶ電子制御講座の構築
～公開講座向けアトラクション型教材の開発～
松浦亮太, 島田大嗣, 登一
総合技術研究会2025筑波大学報告書, 2025年3月

【学術論文等】1 件

◎ 教員 (*1) と本科生 (*2) との連名 (1 件)

1. 視覚障害者を対象とした防災用の稼動する触地図の開発
東恒輝※2, 加藤良太※2, 末永小夏※2, 仲井陽菜※2, 吉田瑞希※2,
米田源※2, 須田敦※1, 島田大嗣, 福田龍一, 尾崎充紀
日本設計工学会 関西支部 2024年度 研究発表講演会 講演論文集,
2025年3月, PP. 3-6

【技術研究会等への参加】(5 件)

研究会名：第3回機械工作技術研究会

開催日時：令和6年9月12日(木)～9月13日(金)

参加者名：尾崎充紀

開催場所：広島大学

主催：機械工作技術研究会実行委員会

研究会名：機械工作技術研究会オンライン分科会

開催日時：令和7年3月14日(金)

参加者名：尾崎充紀，島田大嗣，福田龍一

開催場所：オンライン開催

主催：機械工作技術研究会実行委員会

研究会名：令和6年度高エネルギー加速器研究機構技術職員シンポジウム

開催日時：令和7年3月4日(火)～3月5日(水)

参加者名：加藤綾子

開催場所：高エネルギー加速器研究機構(つくばキャンパス)

(リモートを併用したハイブリッド方式)

主催：技術職員シンポジウム実行委員会

研究会名：第16回 高専技術教育研究発表会in木更津

開催日時：令和7年3月3日(月)～3月4日(火)

参加者名：島田大嗣，福田龍一

開催場所：木更津高専

主催：木更津工業高等専門学校

研究会名：総合技術研究会2025筑波大学

開催日時：令和7年3月5日(水)～3月7日(金)

参加者名：登一，加藤綾子，松浦亮太

開催場所：筑波大学筑波キャンパス

主催：筑波大学

3. 2 研究ならびに研究支援以外の活動状況

【出前授業】2 件

タイトル：超低温の世界を探る

開催日時：令和6年6月21日(金)

参加者名：時重正人

開催場所：生駒北小中学校
開催組織：奈良工業高等専門学校 一般教科物理

タイトル：超低温の世界を探る
開催日時：令和6年7月8日（月）
参加者名：時重正人
開催場所：郡山東中学校
開催組織：奈良工業高等専門学校 一般教科物理

【広報活動等】3件

タイトル：ひらめき☆ときめきサイエンス
「レーザー加工を探る～光で透明な材料は削れるか？～」
開催日時：令和6年8月24日（土）
参加者名：笹山智仁
開催場所：奈良工業高等専門学校 ラーニングコモンズ
開催組織：奈良工業高等専門学校 電子制御工学科

タイトル：光で体験する化学反応の世界
開催日時：令和6年11月16日（土）
参加者名：加藤綾子，久保佳苗
開催場所：奈良女子大学
開催組織：青少年のための科学の祭典奈良大会実行委員会

タイトル：磁石の遊園地
開催日時：令和6年11月16日（土）
参加者名：島田大嗣
開催場所：奈良女子大学
開催組織：青少年のための科学の祭典奈良大会実行委員会

【研修への参加】4件

研修名：令和6年度IT人材育成研修会
開催日時：令和7年1月28日（火）～令和7年1月29日（水）
参加者名：松浦亮太
開催場所：ワイム貸会議室 高田馬場
主催：独立行政法人国立高等専門学校機構

研修名：仙台高等専門学校 デジタルものづくり教育FD研修会
開催日時：令和7年2月4日（火）～2月5日（水）

参加者名：島田大嗣
開催場所：仙台高専名取キャンパス
主催：仙台高等専門学校

研修名：第3回 「サーキットデザイン教育」教職員研修
開催日時：令和7年3月7日（金）10:00～16:00
参加者名：尾崎充紀
開催場所：有明高専
主催：COMPASS5.0 半導体分野拠点校 熊本高専

研修名：令和6年度 東海・北陸・近畿地区高等専門学校技術職員研修会
開催日時：令和7年3月26日（水）～3月28日（金）
参加者名：笹山智仁，道下貴広
開催場所：鳥羽商船高等専門学校
主催：鳥羽商船高等専門学校

【講習等への参加】9件

講習名：令和6年度 XPS-放射光講習会
開催日時：令和6年5月10日（金）
参加者名：笹山智仁
開催場所：WEB ミーティング（ZOOM）
主催：大学連携研究設備ネットワーク

講習名：第1回教員のための理科実験スキルアップ講座
開催日時：令和6年8月18日（日）
参加者名：加藤綾子
開催場所：科学技術館 実験工房
主催：「青少年のための科学の祭典」全国大会実行委員会
（公財）日本科学技術振興財団・科学技術館

講習名：デジタルものづくり実践講座2024夏
開催日時：令和6年8月28日（水）～8月30日（金）
参加者名：島田大嗣
開催場所：DMG森精機株式会社 伊賀事業所
主催：DMG森精機株式会社

講習名：教師のための理科実験実技講習ナリカサイエンスアカデミー
たのしい理科実験コース（A:ドライアイスを用いた実験 B:水溶液）

開催日時：令和6年10月19日（土）
参加者名：加藤綾子
開催場所：株式会社ナリカ本社2F 実験室
主催：株式会社ナリカ

セミナー名：基礎から始める「熱分析と安全性評価」
開催日時：令和6年10月29日（火）
参加者名：加藤綾子
開催場所：オンラインセミナー（Teams）
主催：メトラー・トレド

講習名：2024年度 実践的サイバー防御演習 CYDER 集合演習B-2コース
開催日時：令和7年1月30日（木）
参加者名：松浦亮太
開催場所 国立研究開発法人 情報通信研究機構
主催：情報通信研究機構・総務省

講習名：電子顕微鏡技術情報交流会 第2回オンライン研修会
開催日時：令和7年2月4日（火）
参加者名：笹山智仁
開催場所：静岡大学 浜松共同利用機器センター（WEB ミーティング（ZOOM）で参加）
主催：大学連携研究設備ネットワーク

講習名：教師のための理科実験実技講習ナリカサイエンスアカデミー
はじめての理科実験コース（B:事故を防ぐための基本技術）
開催日時：令和7年2月15日（土）
参加者名：加藤綾子
開催場所：株式会社ナリカ本社2F 実験室
主催：株式会社ナリカ

講習名：デジタルものづくり実践講座2025春
開催日時：令和7年3月17日（月）～3月19日（水）
参加者名：尾崎充紀，福田龍一
開催場所：DMG森精機株式会社 伊賀事業所
主催：DMG森精機株式会社

【その他】10 件

タイトル：Interop Tokyo 2024

開催日時：令和6年6月13日（木）～令和6年6月14日（金）

参加者名：松浦亮太

開催場所：幕張メッセ

支援内容等：展示会視察

タイトル：高専ロボコン2024近畿地区大会

開催日時：令和6年10月6日（日）

参加者名：松浦亮太

開催場所：舞鶴文化公園体育館

支援内容等：応援団への参加

タイトル：社会工場見学

開催日時：令和6年10月9日（水）

参加者名：笹山智仁(1E)，尾崎充紀(4M)，加藤綾子(4C)，島田大嗣(4M)，
福田龍一(4M)，松浦亮太(4S)

見学場所：(1E) 新明和工業株式会社(航空事業部)，六甲山牧場
(4M) ロート製薬(株)上野テクノセンター，DMG森精機(株)伊賀事業所
(4S) 辰巳電子工業株式会社，長谷寺，味覚糖株式会社奈良工場
(4C) 不二製油(株)阪南事業所，

大阪公立大学中百舌鳥キャンパス植物工場研究センター

支援内容等：自己研鑽の為の視察，及び教員の引率補助

タイトル：第35回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

開催日時：令和6年10月18日（金）～令和6年10月20日（日）

参加者名：笹山智仁，尾崎充紀，道下貴広，西野貴之，二宮由成，埜辺勝，登一，
加藤綾子，島田大嗣，福田龍一，松浦亮太，北川大介

開催場所：なら100年会館

支援内容等：全国高専プロコン大会運営 / 出場学生の引率

タイトル：高専ロボコン2024全国大会

開催日時：令和6年11月17日（日）

参加者名：松浦亮太

開催場所：両国国技館

支援内容等：高専ロボコン全国大会 応援団への参加

タイトル：パンドウイットコーポレーション日本支社ショールーム視察

開催日時：令和6年11月27日（水）

参加者名：二宮由成，松浦亮太

開催場所：パンドウイトコーポレーション日本支社
支援内容等：ラック内のUTPケーブル配線に関する情報収集

タイトル：高専フェア in イオンモール草津への出展補助
開催日時：令和6年12月1日（日）
参加者名：北川大介
開催場所：イオンモール草津
支援内容等：科学工作体験ブースにおける、デジタル工作機械の操作等

タイトル：デジもの導入装置を活用した授業実施に伴う教材開発・共有に関する
打ち合せ
開催日時：令和6年12月13日（金）
参加者名：松浦亮太
開催場所：久留米高専 S03棟2階 中会議室
支援内容等：電子制御工学実験で使用するスカラー型ロボットの技術情報の収集を
目的とした情報交換会議への参加

タイトル：第3回高専防災減災コンテスト最終審査会
開催日時：令和6年12月22日（日）
参加者名：島田大嗣
開催場所：一橋大学 一橋講堂
支援内容等：学生の引率補助

タイトル：第二回高専マテリアルコンテスト
開催日時：令和7年3月11日～令和7年3月12日
参加者名：福田龍一
開催場所：久留米高専
支援内容等：学生の引率補助，参加学生への技術支援

第4章 奈良高専自己点検評価チェックリスト

領域1 教育の内部質保証システム

基準 【重点評価項目】 1－1 内部質保証に係る体制が明確に規定されていること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点1－1－① 教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針が定められていること。	奈良工業高等専門学校学則：第63条
☒ 定められている ☐ 定められていない	奈良工業高等専門学校点検・評価規程：第6条
	奈良工業高等専門学校の点検評価に係る教育の内部質保証に関する実施要項
(2) (1)の方針において、自己点検・評価の実施体制（委員会等）が整備されていること。	奈良工業高等専門学校の点検評価に係る教育の内部質保証に関する実施要項（再掲）
☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良工業高等専門学校総務委員会規程：第2条
(3) 施設・設備、学生支援に関し、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針が定められていること。	奈良工業高等専門学校点検・評価規程：第4条・第5条
☒ 定められている ☐ 定められていない	奈良工業高等専門学校点検・評価規程：第6条（再掲）
	奈良工業高等専門学校点検評価申合せ
(4) (3)の方針において、自己点検・評価の実施体制（委員会等）が整備されていること。	奈良工業高等専門学校点検・評価規程：第4条・第5条（再掲）
☒ 整備されている ☐ 整備されていない	
(5) 第三者評価の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるための方針が定められていること。	奈良工業高等専門学校点検・評価規程：第3条、第8～11条（再掲）
☒ 定められている ☐ 定められていない	奈良工業高等専門学校の点検評価に係る教育の内部質保証に関する実施要項：第5～6条（再掲）
(6) (5)の方針において、第三者評価の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるための体制が整備されていること。	R070109_総務委員会議事要録（運営諮問委員会からの改善指摘依頼）
☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良工業高等専門学校点検・評価規程：第9条（再掲）
1－1 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 【重点評価項目】 1－2 内部質保証のための手順が、学校の目的及び三つの方針*を踏まえて明確に規定されていること *卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）（以下、「DP」という。） 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）（以下、「CP」という。） 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）（以下、「AP」という。）	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点1－2－① 以下の事項を内部質保証体制が確認する手順を有していること (1) DPが学校の目的に基づき定められていること (2) CPが学校の目的及びDPと整合性をもって定められていること (3) APが学校の目的に基づき定められていること (4) 学習成果の達成がDPの求める卒業（修了）に必要な水準となっていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、学校自らが点検する体制が整備されていること。	奈良工業高等専門学校点検・評価規程：第5～9条（再掲）
☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良工業高等専門学校の点検評価に係る教育の内部質保証に関する実施要項（再掲）
	奈良工業高等専門学校点検・評価規程：第4～8条（再掲）
観点1－2－② 教育課程ごとの点検・評価において、領域5の各基準に基づく判断を行うことが定められていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄

(1) 教育課程ごとの点検・評価において、以下の内容の点検・評価を行うことが規程等で定められていること。（すべての項目にチェック必須）	教育方針等に係る質問集計（令和5年度運営諮問会委員）
☒ DPが具体的かつ明確であること	教育方針等に係る質問集計（令和6年度運営諮問会委員）
☒ CPが具体的かつ明確であり、DPと整合していること	R060208_運営会議議事要録（DP整合性、認証評価指摘への改善依頼）
☒ 教育課程がCPに基づき体系的に編成され、授業科目の内容がDPIに基づき設定されていること	奈良工業高等専門学校の点検評価に係る教育の内部質保証に関する実施要項：第3条（再掲）
☒ DP及びCPに基づき、適切な授業形態、学習指導方法が採用されていること	卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）
☒ 適切な履修指導、支援が行われていること	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）
☒ CPに基づき、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	Webシラバス
☒ 学校の目的及びDPIに基づき、公正な卒業判定が実施されていること	令和7年度実施カリキュラム
☒ 学校の目的及びDPIに基づき、適切な学習成果が得られていること	入学予定者オリエンテーション配布資料
☒ APが具体的かつ明確であること	奈良工業高等専門学校学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する規則
☒ 学生の受入が適切に実施されていること	令和6年度卒業生・修了生アンケート集計結果
☒ 実入学者数が入学定員に対して適正な数となっていること	入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）
	令和7年度学級編成
観点1－2－③ 施設・設備、学生支援に関して行う自己点検・評価の方法が定められていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 基準1－1の方針において、若しくは同方針に基づいて、自己点検・評価の基準・項目等が設定されていること。	奈良工業高等専門学校点検・評価規程：第4条・第5条（再掲）
☒ 設定されている ☐ 設定されていない	奈良工業高等専門学校点検・評価申合せ（再掲）
観点1－2－④ 関係者の意見を聴取する仕組みが設けられていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 自己点検・評価の実施に際して、次の各関係者の意見が反映されるようになっていくこと。（すべての項目にチェック必須）	奈良工業高等専門学校点検・評価規程：第4条・第5条（再掲）
☒ 教員	アセスメントプラン
☒ 職員	奈良工業高等専門学校公開授業実施要項（R7制定予定）
☒ 在学生	令和7年度学校報告会の開催について
☒ 卒業（修了）時の学生	教育方針等に係る質問集計（令和6年度運営諮問会委員）（再掲）
☒ 卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生	
☒ 保護者	
☒ 中学校・地方公共団体・民間企業その他の関係者	
(2) 自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果や指摘の内容を踏まえて行っているか。（複数チェック☑可）	令和5年度授業アンケートに係る点検評価について
【在学生の意見聴取】	令和5年度卒業生・就職先アンケート結果について
☒ 学習環境に関する評価	令和5年度卒業生・修了生アンケート（DP達成度）について
☒ 学生による授業評価	令和7年度第3回(6月)総務委員会議事録（授業アンケート報告）
☒ 学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）	
☒ その他	
【卒業（修了）時の意見聴取】	
☒ 卒業（修了）時の学生による満足度評価	
☐ その他	
【卒業（修了）後の意見聴取】	
☒ 卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価	
☒ 就職先等による卒業生に対する評価	
☒ その他	
【外部評価】	
☒ 外部有識者の検証	
☒ 教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）	
☐ 設置計画履行状況調査	
☐ その他	
観点1－2－⑤ 内部質保証体制において共有、確認された自己点検・評価結果（設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価を基に受けた第三者評価の結果を含む。）を踏まえた対応措置について検討、立案、提案する手順が定められていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 基準1－1の方針において、若しくは同方針に基づいて、自己点検・評価の結果を踏まえた対応措置について検討、立案、提案するための手順が規定されていること。	奈良工業高等専門学校点検・評価規程：第3条・第4条（再掲）
☒ 規定されている ☐ 規定されていない	奈良工業高等専門学校の点検評価に係る教育の内部質保証に関する実施要項（再掲）
観点1－2－⑥ 内部質保証体制において承認された対応措置の計画を実施する手順が定められていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 内部質保証体制において承認された対応措置の計画を実施するための手順が規定されていること。	奈良工業高等専門学校点検・評価規程：第8条・第9条（再掲）
☒ 規定されている ☐ 規定されていない	奈良工業高等専門学校の点検評価に係る教育の内部質保証に関する実施要項（再掲）

観点 1-2-⑦ 内部質保証体制において、その決定した計画の進捗を確認するとともに、必要な対処方法を決定する手順が定められていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 対応計画の進捗の確認、進捗状況に応じた対応を決定する手順が規定されていること。 ◎ 規定されている ○ 規定されていない	奈良工業高等専門学校点検・評価規程：第8条・第9条（再掲）
観点 1-2-⑧ 自己点検・評価の結果が公表されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 自己点検・評価を実施し、その結果が公表されていること。 ◎ 公表されている ○ 公表されていない	自己点検・評価報告書 https://www.nara-k.ac.jp/guide/open/
1-2 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 【重点評価項目】 1-3 自己点検・評価や第三者評価の結果を教育の質の改善・向上に結び付けていること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ◎ 満たしている ○ 満たしていない	
観点 1-3-① 内部質保証体制において、機関別認証評価や第三者評価の結果を踏まえた改善がなされていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 前回の機関別認証評価における評価結果において、「改善を要する点」として指摘された事項に対応していること。 ◎ 対応している ○ 対応していない	R060208_運営会議議事要録（DP整合性、認証評価指摘への改善依頼） R070717_運営会議議事要録 自動扉実施計画図 平成30年1月施設整備委員会議事要録 令和7年4月臨時教務委員会・令和7年5月教務委員会議事録14-（4） 令和5年度卒業生・就職先アンケート結果について（再掲）
(2) (1)以外で、自己点検・評価や第三者評価の結果を踏まえた課題等を確認し、実際に改善していること。 ◎ 行っている ○ 行っていない	令和6年度運営諮問会報告書（前年度講評を踏まえた取り組みに関する報告） 令和9年度改組後の人材養成目的・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー
1-3 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
領域 1	
優れた点	
改善を要する点	

領域2 教育組織及び教員・教育支援者等

基準 2-1 学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点2-1-① 学科の構成が、学校の目的に照らして、適切となっていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学科の構成が学校の目的（自己評価書Ⅱに記載したもの。）及びDPと整合性がとれていること。 ☒ 整合性が取れている ☐ 整合性がとれていない	奈良工業高等専門学校学則：第1条・第7条 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）（再掲）
観点2-1-② 専攻の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 専攻の構成が学校の目的（自己評価書Ⅱに記載したもの。）及びDPと整合していること。 ☒ 整合している ☐ 整合していない	奈良工業高等専門学校学則：第1条・第31条・第32条（再掲） 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）（再掲）
2-1 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 2-2 教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備されていること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしていること。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点2-2-① 教員の組織的な役割分担の下で、教育に係る責任の所在が明確になっていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	学校概要（組織図） 奈良工業高等専門学校教員組織規程 奈良工業高等専門学校企画会議規程 奈良工業高等専門学校運営会議規程 奈良工業高等専門学校教職員会議規程 奈良工業高等専門学校教務、学生、寮務、専攻科委員会規程
観点2-2-② 全校の見地から、校長等の下で教育研究活動について審議し又は実施する組織が整備されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教育研究活動を全校的に審議し又は実施する組織について、構成、責任体制及び審議事項、組織及び議事の運営に関することその他の必要な事項が規定されていること。 ☒ 規定されている ☐ 規定されていない	奈良工業高等専門学校教務、学生、寮務、専攻科委員会規程
(2) (1)の組織において、具体的な審議等がなされているか。 ☒ 審議等がなされている ☐ 審議等がなされていない	各種委員会議事録
2-2 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 2-3 教育活動を展開する上で必要な教員が適切に整備されていること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点2-3-① 設置基準に照らして、必要人数の教員が配置されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 一般科目担当の基幹教員が法令に従い、確保されていること。 ☒ 確保されている ☐ 確保されていない	教員の紹介（ https://www.nara-k.ac.jp/education/teachingstaff/ ） 実数23＞必要数22 但し、実数に休職者を含む

(2) 専門科目担当の基幹教員が法令に従い、確保されていること。 ☒ 確保されている ☐ 確保されていない		教員の紹介 (https://www.nara-k.ac.jp/education/teachingstaff/) 実数42>必要数36 但し、特任教授3、嘱託教授1含む 専門科目教授・准教授33≧全専任教員数65×1/2 (32.5)
観点 2－3－② 専攻科課程に必要な各分野の教育研究能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されていること		
(根拠理由欄) 特例適用専攻科の認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を本欄に記述すること。 なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の各項目について分析すること。 本校の専攻科2専攻は、平成29年度特例適用専攻科の認定を受けており、専攻科課程の目的に沿った各分野の教育研究に十分な能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されていると判断する。		
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）		自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 専攻科の授業科目担当教員が適切に確保されていること。 ☒ 確保されている ☐ 確保されていない		
観点 2－3－③ 教員の年齢及び性別の構成が著しく偏ることがないよう適切な配慮がなされていること		
(1) 教員の配置について、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢あるいは性別に著しく偏ることのないよう配慮されていること。 ☒ 配慮されている ☐ 配慮されていない		年齢性別構成 (https://www.nara-k.ac.jp/guide/uploads/R7joseikyounn.pdf) 公募要領（物化：化学） 公募要領（物化：化学工学） 公募要領（機械） 公募要領（一般：英語） 公募要領（電制） 公募要領（情報：データサイエンス） 公募要領（情報：情報工学） ・同等能力の場合は女性応募者優遇の旨、教員公募要領に記載 ・一部公募においては、長期間の継続勤務による職務に必要な能力の開発及び向上を図ることを目的として年齢制限を設けている旨記載
2－3 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。		
基準 2－4 組織的に、教員の質を確保し、その維持、向上を図っていること		
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない		
観点 2－4－① 教員の採用及び昇任に当たって、教育上、研究上又は実務上の知識、能力及び実績に関する判断の方法等が明確に定められていること		
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）		自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教員（基幹教員以外の教員を除く。）の採用・昇任に関する基準が法令に従い定められていること。 ☒ 定められている ☐ 定められていない		教員選考基準-R7.3.31改正 奈良工業高等専門学校の教員の採用昇任について 教員の昇格についての変更2025-03-27 公募要領（物化：化学）（再掲） 公募要領（物化：化学工学）（再掲） 公募要領（機械）（再掲） 公募要領（一般：英語）（再掲） 公募要領（電制）（再掲） 公募要領（情報：データサイエンス）（再掲） 公募要領（情報：情報工学）（再掲） ・各公募要領にて「男女共同参画推進社会基本法」の趣旨に則り、審査結果について同等と認められる場合には女性応募者を優遇する旨記載 ・一部公募においては、長期間の継続勤務による職務に必要な能力の開発及び向上を図ることを目的として年齢制限を設けている旨記載 ・教員選考基準第7において実務経験の考慮について記載 ・「教員の採用・昇任について」の1において経験年数・年齢を考慮した人事について記載
		奈良工業高等専門学校教員選考基準
(2) (1)の基準に基づき、実際の採用・昇任が行われていること。 ☒ 行われている ☐ 行われていない		公募要領（再掲） 人事委員会議事録20250116 人事委員会議事録20250225 公募要領（一般教科（英語））
観点 2－4－② 全教員の教育研究活動に対して、規程等に基づき学校による定期的な評価の仕組みがあること		

自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 全教員（基幹教員以外の教員を除く。）に対して校長又はその委任を受けた者による教育上の能力や活動実績に関する評価を定期的に行う体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良工業高等専門学校点検・評価規程（再掲） 令和6年度第10回(2月)総務委員会議事要録
観点2-4-③ 教員評価で把握された事項に対して、評価の目的に即した取組を行う仕組みがあること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 把握した評価結果を基に行う取組が規定されているか。（複数チェック☑可） ☒ 給与における措置 ☒ 教育研究費配分における措置 ☐ 改善に向けた指導 ☒ 表彰 ☐ その他	奈良工業高等専門学校教員評価規程（再掲）
観点2-4-④ 授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント（FD）*が組織的に実施されていること *ファカルティ・ディベロップメント（以下、「FD」という。）	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校として、授業の内容及び方法の改善を図るためにFDを実施する体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良工業高等専門学校総務委員会規程 第2条 奈良工業高等専門学校FD・SD推進委員会規程(制定予定)
(2) 定期的にFDが実施されていること。 ☒ 実施されている ☐ 実施されていない	FD・SD研修実施状況
2-4 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準	
2-5 教育活動を支援又は補助する者が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点2-5-① 教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者（指導補助者）が配置されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教育支援者（事務職員、技術職員、助手等。）が法令に従い適切に配置されていること。 ☒ 配置されている ☐ 配置されていない	奈良工業高等専門学校事務組織規程
(2) 図書館に専門的職員、その他の専属の教員又は事務職員等が配置されていること。 ☒ 配置されている ☐ 配置されていない	
(3) 教育補助者（指導補助者）を配置する場合、その定義、業務内容、採用手続等が規定されていること。 ☐ 規定されている ☒ 規定されていない	
観点2-5-② 教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者（指導補助者）が担当する業務に応じて、研修等、必要な資質の維持、向上を図る取組が組織的に実施されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教育支援者（事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。）に対して、研修や技術教育研究発表会などで資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。 ☒ 行われている ☐ 行われていない	令和6年度研修実施状況

(2) 教育補助者（指導補助者）を配置する場合、研修、オリエンテーション、指導・助言などで資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。 ○ 行われている ● 行われていない	
2－5 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
領域 2	
優れた点	
改善を要する点	

領域3 学習環境及び学生支援等

基準 3－1 教育組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備されていること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ◎ 満たしている ○ 満たしていない	
観点3－1－① 教育活動を展開する上で必要な施設・設備が法令に基づき整備されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 校地・校舎面積が法令に従い適切に確保されていること。 ◎ 確保されている ○ 確保されていない	校地・校舎面積に対する法令の考え方
(2) 法令に従い必要な施設が整備されていること。 ◎ 整備されている ○ 整備されていない	学校概要 キャンパスマップ（ https://www.nara-k.ac.jp/guide/pdf/gakunai-haichizu-5.pdf ）
(3) 学科の種類に応じ、附属施設が法令に従い適切に整備されているか。（複数チェック☑可） ☒ 実験・実習工場 ☐ 練習船 ☐ その他	学生生活のしおり（配置図：p.16～p.25）
(4) 教育研究環境の充実を図るため、(1)～(3)以外の施設・設備が設けられているか。（複数チェック☑可） ☒ 厚生施設 ☒ コミュニケーションスペース ☒ 自主的学習スペース ☐ その他	学校概要（図書館、起業家工房、電気工学科棟1階アメニティスペース） 学生生活のしおり（配置図：p.26, p.27～）
観点3－1－② 施設・設備における安全性について配慮する体制が整備されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 施設・設備の安全衛生管理体制が整備されていること。 ◎ 整備されている ○ 整備されていない	奈良工業高等専門学校安全衛生委員会規程 福利施設使用規則（学則） 独立行政法人国立高等専門学校機構教職員安全衛生管理規則 令和7年度学校保健計画・学校安全計画 実験実習安全必携 安全作業の手引き 学生生活のしおり：学内施設（教室・共同利用施設等）の利用にあたって p.59～p.60
(2) 施設・設備のバリアフリー化の配慮が行われていること。 ◎ 配慮が行われている ○ 配慮が行われていない	自動扉実施計画図 総務課施設担当保存 配置図 バリアフリー対応設備マップ
観点3－1－③ 図書館において、教育研究上必要な資料を整備していること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 図書館を法令に従い備えていること。 ◎ 備えている ○ 備えていない	◇整備状況が確認できる資料（学校要覧、図書情報センター利用案内等） 学生生活のしおり：図書館 p.99～p.100
(2) 図書、学術雑誌、電子ジャーナルその他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されていること。 ◎ 整備されている ○ 整備されていない	大学・短期大学・高等専門学校図書館調査（日本図書館協会）結果 R7大学・短期大学・高等専門学校図書館調査結果
(3) (2)の資料が、教職員や学生に有効に活用されていること。 ◎ 活用されている ○ 活用されていない	大学・短期大学・高等専門学校図書館調査（日本図書館協会）結果（再掲） R7大学・短期大学・高等専門学校図書館調査結果（再掲） 学生生活のしおり：図書館 p.99～p.100（再掲）
3－1 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	

基準 3-2 学生に対して、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が行われていること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点3-2-① 学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言体制及び各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） (1) 学生の生活面における総合的な指導・相談・助言等（メンタルヘルス・ハラスメントに関するものを含む。）の体制が整備されているか。（複数チェック☑可） ☒ 学生相談室 ☒ 保健室 ☒ 相談員やカウンセラーの配置 ☒ ハラスメント等の相談体制 ☒ 学生に対する相談の案内等 ☐ その他	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄 学生支援センター案内 学生支援体制組織図 奈良工業高等専門学校ハラスメントの防止に関する規程 奈良工業高等専門学校学生支援センター規程
(2) 健康相談・保健指導が定期的に実施されていること。 ☒ 実施されている ☐ 実施されていない	健康診断案内 学生生活のしおり抜粋
(3) 法令等（いじめ防止対策推進法、いじめの防止等のための基本的な方針）に基づき、いじめの防止、早期発見、対処等に関する体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良高専いじめ防止基本計画
観点3-2-② 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行う体制が整備されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） (1) 留学生の学習及び生活に対する支援体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄 奈良工業高等専門学校グローバル教育センター規程：第3・4条_体制 奈良工業高等専門学校グローバル教育センター運営委員会規程：第3条_審議事項 奈良工業高等専門学校留学生規程：第6条_留学生指導教員、第7条_留学生相談員 奈良工業高等専門学校留学生相談員制度実施要項 外国人留学生台帳 留学生指導教員・学生チューターの配置状況 ・奈良工業高等専門学校留学生相談員制度実施要項 ・外国人留学生台帳：指導教員、留学生相談員名記載 留学生ガイダンス資料 留学生のしおり 学生生活のしおり
(2) 編入学生の学習及び生活に対する支援体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	入学前の事前指導の通知文、入学予定者オリエンテーションの配付資料 「学生指導必携」における教員間の申し合わせ 令和7年度入学予定者オリエンテーション配布資料（編入学生用）
(3) 社会人学生の学習及び生活に対する支援体制が整備されていること。 ☐ 整備されている ☒ 整備されていない	本科には社会人学生がいないため該当なし 受け入れについては、該当者があった場合に専攻科と同様に対応する。
(4) 障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良工業高等専門学校における障害学生の修学支援に関する申合せ 学生支援センター規程 「奈良高専HP学校案内」障害者差別解消法に基づく対応要領について」（機構の要領）
(5) 障害者差別解消法第5条及び第7条又は第8条（第9条、第10条、第11条の関係条項も含む。）に対応していること。 ☒ 対応している ☐ 対応していない	「奈良高専HP学校案内」障害者差別解消法に基づく対応要領について」（機構の要領）（再掲） https://www.nara-k.ac.jp/guide/open/eliminating_discrimination.html
(6) 上記以外の特別な支援を行っているか。 ☐ 行っている ☒ 行っていない	
観点3-2-③ 就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制が整備され、機能していること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄

(1) 就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良工業高等専門学校進路対策協議会規程
(2) (1)の体制の下、就職や進学等の進路指導を含めたキャリア教育に関して、学校としてどのような取組を行っているか。(複数チェック☑可) ☒ キャリア教育に関する研修会・講演会の実施 ☒ 進路指導用マニュアルの作成 ☒ 進路指導ガイダンスの実施 ☒ 進路指導室 ☐ 進路先(企業)訪問 ☒ 進学・就職に関する説明会 ☒ 資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談 ☒ 資格取得による単位修得の認定 ☒ 外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等 ☐ その他	卒業生と語る会 進路ガイダンス資料 高専専攻科・大学編入学の手引き 進路ガイダンスの実施について キャリアデザイン資料室使用心得 実用英語Ⅰ～Ⅴシラバス 奈良工業高等専門学校留学規程
観点3-2-④ 学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう、必要な支援を行う体制が整備されていること	
直近の認証評価において本観点に係る「改善を要する点」の指摘がなく、各項目の内容に大きな変更がない場合は、本観点の分析は不要。その場合、下記「直近の認証評価における指摘等なし」にチェック☑すること。 ☐ 直近の認証評価における指摘等なし	
自己点検・評価結果欄(該当する○欄をチェック◎)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生の課外活動に対する支援体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	クラブ顧問会議資料(本文編・資料編) 奈良工業高等専門学校学生会規約 奈良工業高等専門学校学生会細則 学生指導必携
(2) (1)の体制において、責任の所在が明確になっていること。 ☒ 明確になっている ☐ 明確になっていない	緊急時連絡ルート 奈良工業高等専門学校学生会規約
(3) (1)の体制は「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」(平成30年3月スポーツ庁)に基づいたものになっているか。【より望ましい取組として分析】 ☒ なっている ☐ なっていない	クラブ顧問会議資料(本文編・資料編)(再掲)
観点3-2-⑤ 学生寮を学生の生活及び勉学の間として整備していること	
自己点検・評価結果欄(該当する○欄をチェック◎)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生寮が整備されているか。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良工業高等専門学校学則第13章
(2) 生活の間として整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	寮生活のしおり
(3) 勉学の間として整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	寮生活のしおり(再掲)
(4) 管理・運営体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良高専寮務委員会規程 奈良高専事務組織規程
(5) 学生の意見等を把握し、改善する体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良高専学寮細則 奈良高専寮生会会則
観点3-2-⑥ 学生に対する経済面での援助が行われていること	
自己点検・評価結果欄(該当する○欄をチェック◎)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 経済面での相談・助言・支援が行われているか。(複数チェック☑可) ☒ 相談・助言 ☒ 奨学金 ☒ 入学料・授業料減免等 ☐ 特待生 ☒ 緊急時の貸与等の制度 ☐ その他	学生生活のしおり(p.71～75)

3-2 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。
領域3
優れた点
改善を要する点
全学におけるバリアフリー化

領域4 財務基盤及び管理運営

基準	
4－1 財務運営が学校の目的に照らして適切であること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。	
☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点4－1－① 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表され、また、財務に係る監査等が適正に行われていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 法令等に基づき、財務諸表等が作成・公表されていること。 ☒ 公表されている ☐ 公表されていない	財務諸表R5 決算報告書R5
(2) 財務に係る監査等が実施されていること。 ☒ 実施されている ☐ 実施されていない	奈良工業高等専門学校内部監査規程 監査覚書 令和5年度高専相互会計内部監査報告書 令和6年度リスクアプローチ監査報告書 令和6年度公的研究費監査報告書
観点4－1－② 教育研究活動に必要な予算が配分され、経費が執行されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 過去5年間の財務状態が適切な状況となっていること。 ☒ なっている ☐ なっていない	財務諸表R5（再掲）
(2) 過去5年間の収支状況が適切となっていること。 ☒ 適切となっている ☐ 適切となっていない	財務諸表R5（再掲）
4－1 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準	
4－2 管理運営体制が整備され、機能していること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。	
☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点4－2－① 学校の管理運営体制が、適切な規模と機能を有していること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 管理運営体制に関する規程等が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良工業高等専門学校学則（再掲） 奈良工業高等専門学校教員組織規程 理事長が有する権限等の一部委任に関する規則
(2) 委員会等の体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	学校概要（組織図）（再掲） 奈良工業高等専門学校企画会議規程 奈良工業高等専門学校運営会議規程 奈良工業高等専門学校教職員会議規程 奈良工業高等専門学校教務、学生、寮務、専攻科委員会規程 奈良工業高等専門学校いじめ対策会議内規
(3) 校長、副校長、主事等の役割分担が明確になっていること。 ☒ なっている ☐ なっていない	奈良工業高等専門学校学則（再掲） 令和7年度校務担当一覧（R7.4.1現在） 奈良工業高等専門学校学則（再掲）
観点4－2－② 法令遵守に係る取組及び危機管理に係る取組のための体制が整備されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校として、責任の所在を明確にした危機管理を含む安全管理体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良工業高等専門学校危機管理規程 奈良工業高等専門学校防災規程 奈良工業高等専門学校毒物・劇物及び危険物取扱規程 奈良工業高等専門学校高圧ガス管理要項 奈良工業高等専門学校放射線障害防止規程 奈良工業高等専門学校廃水管理規程

(2) 危機管理マニュアル、学校防災マニュアル等が整備されていること。	危機管理マニュアル（防災・自然災害編）R1.12
☒ 整備されている ☐ 整備されていない	危機管理対応フロー図 情報セキュリティインシデント対応フロー図 大地震対応マニュアル
(3) (2)に基づき、定期的に訓練を行うなど、危機に備えた活動が行われていること。	令和7年度学校保健計画・学校安全計画
☒ 行われている ☐ 行われていない	奈良工業高等専門学校消防計画（案2500710） 令和6年度防災訓練について（実施計画） 20250303_情報システム統括室運営委員会議事録
観点4-2-③ 学校として持続的な研究成果が創出されるような研究環境の整備や充実に向けた体制の整備や措置が組織的に図られているか【より望ましい取組として分析】	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教員に対して研究の水準の維持向上及び活性化を図るために行っている措置や制度があるか。（複数チェック☑可）【より望ましい取組として分析】	奈良工業高等専門学校教員評価規程（再掲）
☒ 学位取得に関する支援	独立行政法人国立高等専門学校機構における産学官連携活動の報奨制度取扱要領
☒ 教員表彰制度の導入	奈良工業高等専門学校の競争的研究費の直接経費からの研究以外の業務代行に係る経費の支出（パイアアウト制度）に係る実施要項
☐ 企業研修への参加支援	教職員就業規則
☒ 校長裁量経費等の予算配分	教員顕彰実施要項
	教員顕彰内規
	高専機構における産学連携活動の報奨制度取扱要領の制定について（通知）
	高専機構産学官連携活動の報奨制度取扱要領
☐ ゆとりの時間確保策の導入	高専と両技科大との教員交流実施要項
☐ サバティカル制度の導入	同居支援プログラム実施要項
	同居支援プログラムの新設について
☒ 他の高等教育機関・研究機関との人事交流	
☒ その他	
(2) 研究を促進するため、研究施設・設備を有効に活用する工夫に努めているか。【より望ましい取組として分析】	奈良工業高等専門学校共通機器管理センター規程
☒ 努めている ☐ 努めていない	奈良高専共通機器管理センター保有の研究設備・機器共用規程 令和6年度共通機器管理センターの総括 共通機器予約・管理システム
(3) 外部の財務資源（科学研究費助成事業による外部資金、受託研究、共同研究、受託試験、奨学金附金、同窓会等からの寄附金等）を積極的に受け入れる取組が行われているか。【より望ましい取組として分析】	奈良工業高等専門学校クラウドファンディング実施要項
☒ 行われている ☐ 行われていない	奈良工業高等専門学校学生が実施するクラウドファンディングを活用した学生生活支援金の募集に関する取扱いについて 奈良工業高等専門学校間接経費取扱規程 奈良工業高等専門学校における間接経費の配分に係る内規 令和6年度産学協働地域創生研究センター運営委員会資料（抜粋） 令和6年度科研費採択推進の取組 2024年10月発行 自己点検・評価報告書 科研費等受入実績調べ 「奈良高専地域イノベーションコンソーシアム概要」 奈良高専地域イノベーションコンソーシアム規程（抜粋） 奈良高専イノベーションコンソーシアム加入企業等一覧（R6年度末）
(4) 教員・学生・研究に携わる職員に対して研究倫理に関する必要な研修等を実施する体制があるか。【より望ましい取組として分析】	奈良工業高等専門学校における人を対象とする研究倫理に関する規程
☒ 体制がある ☐ 体制がない	独立行政法人国立高等専門学校機構における公的研究費等の取扱いに関する規則 奈良工業高等専門学校における公的研究費等の取扱いに関する要項 公的研究費使用等使用マニュアル奈良高専版
(5) (1)～(4)の学校としての取組により、持続的に研究成果が創出されていることを確認する。【より望ましい取組として分析】	令和6年度第10回総務委員会資料（著書・研究論文等の発表件数調べについて（2019年～2024年）まとめ）
☒ 確認できる ☐ 確認できない	Researchmapを使った研究業績の収集（結果） 2024年10月発行 自己点検・評価報告書 科研費等受入実績調べ（再掲）
観点4-2-④ 学校の組織的な取組として行う地域における連携による活動について、その推進に向けた体制の整備や措置が図られているか【より望ましい取組として分析】	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 地域貢献活動・地域との連携による活動に係る計画が策定されるとともに、改善を図るための体制が整備されているか。【より望ましい取組として分析】	協定一覧
☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良高専産学協働・地域創生研究センター規程 奈良高専地域イノベーションコンソーシアム規程（抜粋） 令和6年度奈良高専産学協働・地域創生研究センター運営委員会議事録・資料（抜粋） 学市連携協定に基づく科学教室・出前授業の実施状況

(2) 外部の教育・研究資源が活用されているか。【より望ましい取組として分析】 ☒ 活用されている ☐ 活用されていない	奈良工業高等専門学校産学協働・地域創生研究センター規程 協定一覧（再掲） 奈良工業高等専門学校専攻科先端融合テクノロジー連携教育プログラム履修規程 奈良先端科学技術大学院大学との高専-大学院連携教育プログラム実施に関する規定
(3) (1) ～ (2) の学校としての取組により、優れた成果が上げられているか。【より望ましい取組として分析】 ☒ 上げられている ☐ 上げられていない	イノベーションコンソーシアムの寄付金 （産学協働・地域創生研究センター議事録） イノベーションコンソーシアム総会の式次第（好事例発表） 専攻科生の学会発表等件数（過去5年間）
4－2 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 4－3 管理運営を円滑に行うための事務組織が、適切な規模と機能を有していること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点4－3－① 適切な規模と機能を有する管理運営を円滑に行うための事務組織が整備されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 管理運営を行う事務組織の体制が規程等に基づき整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良工業高等専門学校事務組織規程 奈良工業高等専門学校教育研究支援室設置規程
観点4－3－② 管理運営体制及び管理運営を円滑に行うための事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組（スタッフ・ディベロップメント*）が組織的に行われていること *スタッフ・ディベロップメント（以下、「SD」という。）	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) SDが組織的に実施されていること。 ☒ 実施されている ☐ 実施されていない	FD・SD実施状況 教職員の研修に関する規則 人材育成に係る方針等 【職員】研修参加リスト
4－3 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 4－4 教員と事務職員等との役割分担が適切であり、連携体制が確保されていること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点4－4－① 教員と事務職員等の適切な役割分担の下、必要な連携体制が確保されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教員、事務職員や技術職員の適切な役割分担の下、必要な連携体制が確保されていること。 ☒ 確保されている ☐ 確保されていない	奈良工業高等専門学校企画会議規程（再掲） 奈良工業高等専門学校運営会議規程（再掲） 奈良工業高等専門学校教職員会議規程（再掲） 令和7年度校務担当一覧（R7.4.1現在）（再掲）
4－4 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 4－5 学校の教育研究活動等に関する情報の公表が適切であること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。

☒ 満たしている ☐ 満たしていない

観点 4－5－① 法令等が公表を求める事項が公表されていること

自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 法令に従い、以下の教育情報が適切に公表されていること。（すべての項目にチェック必須）	教育情報の公表（再掲）
☒ 教育研究上の基本組織	https://www.nara-k.ac.jp/guide/open/education_information.html
☒ 学校の教育上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針	
☒ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績	
☒ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画	
☒ 入学者の選抜に関すること	
☒ 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数、進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況並びに外国人留学生の数	
☒ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準	
☒ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境	
☒ 授業料、入学料その他の高等専門学校が徴収する費用	
☒ 高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援	
☐ 基幹教員に関する情報	

4－5 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

領域 4

優れた点

改善を要する点

領域5 準学士課程の教育活動の状況

基準 5-1 DPが具体的かつ明確であること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点5-1-① DPが、学校の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 関係法令やガイドラインを踏まえ、DPが定められていること。 ☒ 定められている ☐ 定められていない	https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/ 奈良高専HP 教育方針（抜粋）（再掲） 学校概要（抜粋）（再掲） 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）（再掲）
(2) DPが、「何ができるようになるか」に力点を置いたものであり、かつ準学士課程全体、各学科の目的（自己評価書Ⅱに記載したもの。）と整合性を有していること。 ☒ 整合性を有している ☐ 整合性を有していない	人材養成目的が、各学科の専門性を反映し、学科ごとに定められている。 奈良高専HP 教育方針（抜粋）人材養成目的
(3) DPが、以下の内容を含んでいること。（すべての項目にチェック必須） ☒ 学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力を示している ☒ 養成しようとする人材像の内容を示している	卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）（再掲）
5-1 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 5-2 CPが具体的かつ明確であり、DPと整合していること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点5-2-① CPにおいて、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) CPが、以下の内容を含んでいること。（すべての項目にチェック必須） ☒ どのような教育課程を編成するかを示している ☒ どのような教育内容・方法を実施するかを示している ☒ 学習成果をどのように評価するかを示している	https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/ 奈良高専HP 教育方針（抜粋）（再掲） 学校概要（抜粋）（再掲） 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）
観点5-2-② CPがDPと整合性を有していること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 関係法令やガイドラインを踏まえ、CPが定められていること。 ☒ 定められている ☐ 定められていない	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）（再掲）
(2) CPが、DPとの整合性を有していること。 ☒ 整合性を有している ☐ 整合性を有していない	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）（再掲） 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）（再掲）
5-2 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 5-3 教育課程がCPに基づき体系的に編成され、授業科目の内容がDPに基づき設定されていること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点5-3-① 教育課程が体系的に編成されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) CPを踏まえて、適切な授業科目が体系的に配置されていること。 ☒ 配置されている ☐ 配置されていない	https://www.nara-k.ac.jp/guide/education/ 奈良高専HP 教育方針（抜粋） 学校概要（抜粋）実施カリキュラム表 「奈良高専HP教育・研究」カリキュラム・シラバス カリキュラムマップ 「奈良高専HP教育・研究」カリキュラム・シラバス
(2) 一般教育の充実が配慮されていること。 ☒ 配慮されている ☐ 配慮されていない	奈良高専HP 教育方針（抜粋） 学校概要（抜粋）実施カリキュラム表 「奈良工業高等専門学校学則」別表第1

(3) 進級に関する規程が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない		奈良工業高等専門学校学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する規則 第10条
観点 5－3－② 創造力、実践力等を育む教育方法の工夫が図られているか【より望ましい取組として分析】		
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）		自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 創造力を育む教育方法の工夫が行われているか。【より望ましい取組として分析】 ☒ 行われている ☐ 行われていない		情報アクティブラーニングⅠ・Ⅱ（シラバス） 創造設計製作（シラバス） 高専スタートアップ教育環境整備事業「学生と地域社会をつなぎ尖った人材を育てるHub×Fab型スタートアップ教育」
(2) 実践力を育む教育方法の工夫が行われているか。【より望ましい取組として分析】 ☒ 行われている ☐ 行われていない		学外実習（シラバス） イノベーションを起こすものづくり人財教育へのシフト「デジタルものづくり教育へのシフト 実践校」 小中高専連携による個別最適なダイバーシティ型STEAM教育事業「理工系人材の早期発掘とダイバーシティ型STEAM教育強化 拠点校」
(3) その他教育方法の工夫が行われているか。【より望ましい取組として分析】 ☒ 行われている ☐ 行われていない		異文化交流Ⅰ～Ⅴ（シラバス） 海外協働研修Ⅰ～Ⅴ（シラバス） COMPASS 5.0「半導体分野 実践校」 グローバル工学協働教育プログラムについて
(4) (1)～(3)の学校としての取組の結果、優れた成果が上げられているか。【より望ましい取組として分析】 ☒ 上げられている ☐ 上げられていない		奈良高専HP奈良高専の取組・特色 R6コンテスト支援結果(学生部門)
5－3 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。		
基準 5－4 DP及びCPに基づき、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること		
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない		
観点 5－4－① 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること		
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）		自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 1年間の授業を行う期間が、定期試験の期間を含め、35週確保されていること。 ☒ 確保されている ☐ 確保されていない		令和7年度_年間行事予定表
観点 5－4－② 特別活動が90単位時間以上実施されていること		
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）		自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 特別活動が90単位時間以上実施されていること。 ☒ 実施されている ☐ 実施されていない		学生生活のしおり：教育課程と特別活動 p. 29
観点 5－4－③ 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること		
直近の認証評価において本観点到係る「改善を要する点」の指摘がなく、各項目の内容に大きな変更がない場合は、本観点の分析は不要。その場合、下記「直近の認証評価における指摘等なし」にチェック☑すること。 ☐ 直近の認証評価における指摘等なし		
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）		自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) CPに照らして、講義、演習、実験、実習の適切な授業形態が採用されていること。 ☒ 採用されている ☐ 採用されていない		「奈良高専HP教育・研究」カリキュラム・シラバス（再掲）
(2) 教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。（複数チェック☑可） ☒ 教材の工夫 ☐ 少人数教育 ☒ 対話・討論型授業		「奈良高専HP教育・研究」カリキュラム・シラバス 本科シラバス（再掲）

☐ フィールド型授業	
☒ 情報機器の活用	
☐ 基礎学力不足の学生に対する配慮	
☐ その他	
(3) CPを踏まえて、シラバスの作成要領を示す文書において記載すべき項目が明確に規定され、それに基づきシラバスが適切に作成されていること。	奈良工業高等専門学校webシラバス作成要領
☒ 規定・作成されている	
☐ 規定・作成されていない	
(4) 組織的に、最新のシラバスが漏れなく提示されているかの確認及び学生のシラバスの活用状況を把握し、その把握した状況を基に改善を行っていること。	令和6年12月教務委員会議事要録：8. 令和7年度シラバスの作成について
☒ 行っている	令和6年度授業アンケート実施について
☐ 行っていない	
(5) 設置基準第17条第3項の規定に基づき、授業科目（いわゆる履修単位科目）は1単位当たり30単位時間を確保していること。	令和7年度_授業時間割（前期）
☒ 確保している	令和7年度_年間行事予定表
☐ 確保していない	
(6) (5)の30単位時間授業では、1単位時間を標準50分としていること。	学生生活のしおり：校時について p.33～p.34
☒ している	90分（45分×2連続）の授業時間で運用している。これにより、出欠確認、教材や機器等の準備・後片付け作業が一度で済み、標準50分×2回に相当する教育内容を確保している。
☐ していない	
(7) 設置基準第17条第4項の規定に基づき 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目（いわゆる学修単位科目）を配置している場合には、授業科目ごとのシラバス、あるいはシラバス集、履修要項等に、1単位の履修時間は授業時間以外の学修等を合わせて45時間であることを明示していること。その際、学則に定める授業形態ごとの単位時間数に応じた授業時間以外の学習が設定されていること。	学生生活のしおり：学修時間等の取り扱いについて p.30
☒ 明示・設定されている	
☐ 明示・設定されていない	
5－4 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準	
5－5 適切な履修指導、支援が行われていること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。	
☒ 満たしている	
☐ 満たしていない	
観点 5－5－① 学生のニーズに応えるための履修指導の体制が組織として整備され、指導、助言が行われていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえ、教育課程における具体的な配慮としてどのようなことを行っているか。（複数チェック◎可）	学外実習（シラバス）（再掲）
☐ 他学科の授業科目の履修を認定	実用英語Ⅰ～Ⅴ（シラバス）（再掲）
☒ インターンシップによる単位認定	奈良工業高等専門学校の他大学等における修得単位認定に関する規程
☐ 専攻科課程教育との連携	電気工学科HP「資格取得について」
☐ 資格取得に関する教育	COMPASS 5.0「半導体分野 実践校」
☒ 他の高等教育機関との単位互換制度	
☐ 個別の授業科目内での工夫	
☐ 最先端の技術に関する教育	
☐ その他	
(2) 他の高等教育機関との単位互換制度を設けている場合、法令に従い適切に取り扱っているか。	奈良工業高等専門学校の他大学等における修得単位認定に関する規程（再掲）
☒ 取り扱っている	
☐ 取り扱っていない	
(3) 教育を実施する上でのガイダンスが実施されているか。	入学予定者オリエンテーション配布資料_教務関係ガイダンス
☒ 実施されている	
☐ 実施されていない	
(4) 特別な支援が必要と考えられる学生に対し、教育を実施する上でのガイダンスが実施されているか（複数チェック◎可）	令和7年度入学予定者オリエンテーション配布資料（編入学生用）
☒ 編入学生	留学生のしおり
☒ 留学生	

☐ 障害のある学生 ☐ 社会人学生 ☐ その他	
観点 5-5-② 学生のニーズに応えるための学習相談の体制が整備され、助言、支援が行われていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生の自主的学習を進める上で、どのような相談・助言体制が整備されているか。（複数チェック☑可） ☒ 担任制・指導教員制の整備 ☒ オフィスアワーの整備 ☒ 対面型の相談受付体制の整備 ☐ 電子メールによる相談受付体制の整備 ☐ ICTを活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備 ☐ 資格試験・検定試験等の支援体制の整備 ☒ 外国への留学に関する支援体制の整備 ☐ その他	令和6年度学級経営の記録 オフィスアワーの時間設定についてに係るメール通知 奈良工業高等専門学校グローバル教育センター規程 学級担任一覧 webClass, teams等の利用
(2) 学習支援に関して学生のニーズを把握するための制度があるか。（複数チェック☑可） ☒ 担任制・指導教員制の導入 ☐ 学生との懇談会 ☒ 意見投書箱 ☐ その他	奈良工業高等専門学校教員組織規程：第4条9 「奈良高専HP学生生活」意見箱
観点 5-5-③ 正規学生に海外で学習する機会が提供され、有効に活用されているか【より望ましい取組として分析】	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 提供された機会を利用して学生が海外で学習しているか。【より望ましい取組として分析】 ☒ 利用して学習している ☐ 利用して学習していない	「奈良高専HP奈良高専の取組・特色」国際交流参加報告
5-5 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 5-6 CPに基づき、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること 基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点 5-6-① DP及びCPに基づき定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、成績評価基準が組織として策定されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 成績評価や単位認定に関する基準が、CPに基づき策定されていること。 ☒ 策定されている ☐ 策定されていない	奈良工業高等専門学校学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する規則（再掲）
(2) 成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等が行われていること。 ☒ 行われている ☐ 行われていない	令和6年度進級認定資料 令和6年度卒業認定資料
(3) 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目（学修単位科目）を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバスの記載どおりに行われていることを学校として把握していること。 ☒ 把握している ☐ 把握していない	奈良工業高等専門学校webシラバス作成要領 R7/1/10メール「令和7年度シラバスの作成」添付「2024留意事項.pdf」
観点 5-6-② 成績評価認定基準が学生に周知されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 成績評価や単位認定に関する基準が学生に周知されていること。 ☒ 周知されている ☐ 周知されていない	奈良工業高等専門学校学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する規則（再掲）
(2) 追試験、再試験、単位追認試験の成績評価方法が定められていること。 ☒ 定められている ☐ 定められていない	奈良工業高等専門学校学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する規則：第4条、第11条（再掲） 学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する申合せ 検討予定

観点 5－6－③ 成績評価基準に基づき各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 成績評価や単位認定の客観性、厳格性を担保するため、学校として組織的な措置が行われていること。（すべての項目にチェック必須）	「Webシラバス」授業計画 試験返却・解答
☒ 答案の返却	「2025年度「成績根拠資料」作成の手引き」 5.点検方法
☒ 模範解答や採点基準の提示	グループFD
☒ 同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック	
☒ 成績評価の妥当性の事後チェック(シラバス通りに成績評価が行われていることの確認)	
☒ 試験問題のレベルが適切であることのチェック	
観点 5－6－④ 成績に対する異議申立て制度が組織的に設けられていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 成績評価結果に関する学生からの意見申立ての機会が規程等により定められていること。	令和7年度_年間行事予定表（成績・欠課時数確認期間）
☒ 定められている ☐ 定められていない	検討予定
5－6 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 5－7 学校の目的及びDPに基づき、公正な卒業判定が実施されていること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点 5－7－① 卒業認定基準をDPに従って、組織として策定していること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が定める卒業要件が組織的に策定され、設置基準が定める要件と整合していること。	奈良工業高等専門学校学則：第2条（再掲）
☒ 整合している ☐ 整合していない	
観点 5－7－② 策定された卒業要件が学生に周知されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 卒業認定基準が学生に周知されていること。	奈良工業高等専門学校学業成績評価、進級及び卒業の認定に関する規則（再掲）
☒ 周知されている ☐ 周知されていない	
観点 5－7－③ 卒業の認定が、卒業認定基準に基づき組織的に実施されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 卒業認定基準に基づき、組織として卒業認定していること。	令和6年度卒業認定資料（再掲）
☐ している ☐ していない	
5－7 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 5－8 学校の目的及びDPに基づき、適切な学習成果が得られていること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点 5－8－① DPに沿った学習・教育の成果を確認するための体制が整備されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・卒業生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて学習・教育の成果を把握・評価するための体制が整備されていること。	奈良工業高等専門学校アセスメントプラン（令和7年度版）
☒ 整備されている ☐ 整備されていない	

観点 5－8－② 卒業時の学生からの意見聴取の結果により、学校の目的及びDPに基づいた学習成果が得られていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生が卒業時に身に付けた学力・資質・能力について、卒業時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価が行われていること。 ☒ 行われている ☐ 行われていない	令和6年度_卒業生・修了生アンケート（再掲）
観点 5－8－③ 卒業後一定期間の就業経験等を経た卒業生からの意見聴取の結果により、学校の目的及びDPに基づいた学習成果が得られていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生が卒業時に身に付けた学力・資質・能力について、卒業生（卒業後5年程度たった者）に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価が行われていること。 ☒ 行われている ☐ 行われていない	卒業生就職先アンケート（令和5年度）（再掲）
観点 5－8－④ 就職先等からの意見聴取の結果により、学校の目的及びDPに基づいた学習成果が得られていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生が卒業時に身に付けた学力・資質・能力について、卒業生の就職・進学先の関係者に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価が行われていること。 ☒ 行われている ☐ 行われていない	卒業生就職先アンケート（令和5年度）（再掲）
5－8 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 5－9 APが具体的かつ明確であること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点 5－9－① APが学校の目的を踏まえて明確に定められていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 関係法令及びガイドラインを踏まえ、APが定められていること。 ☒ 定められている ☐ 定められていない	入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）
(2) APが、学校や学科の目的（自己評価書Ⅱに記載したもの。）、DP、CPを踏まえて策定されていること。 ☒ 策定されている ☐ 策定されていない	入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）（再掲）
(3) APが、以下の内容を含んでいること。（すべての項目にチェック必須） ☒ 求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。） ☒ 入学者選抜の基本方針	入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）（再掲）
5－9 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 5－10 学生の受入れが適切に実施されていること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点 5－10－① APに沿って適切な受入方法が採用されており、実施体制により公正に実施されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) AP、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針その他）となっていること。 ☒ なっている ☐ なっていない	令和8年度学生募集要項
観点 5－10－② APに沿った学生の受入れが実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果が入学者選抜の改善に役立てられていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄

(1) 検証及び検証結果を改善に役立てる体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良工業高等専門学校アセスメントプラン（令和7年度版）（再掲）
(2) (1)の体制の下、実際に入学した学生が、APに沿っているかどうかの検証が行われていること。 ☒ 行われている ☐ 行われていない	アドミッションポリシーの適合割合の確認
(3) (2)の検証の結果が入学選抜の改善に役立てられていること。 ☒ 役立てられている ☐ 役立てられていない	アドミッションポリシーの適合割合の確認：評価コメント
5－10 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 5－11 実入学者数が入学定員※に対して適正な数となっていること ※収容定員を5で除した数	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点 5－11－① 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 収容定員が学科ごとに学則で定められていること。また、1学級当たり40人が標準とされていること。 ☒ 定められている・標準とされている ☐ 定められていない・標準とされていない	奈良工業高等専門学校学則：第7条（再掲）
(2) 学科ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良工業高等専門学校入試専門部会規程
(3) 過去5年間の学科ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であること。 ☒ 適正である ☐ 適正でない	
(4) 過去5年間で、学科ごとの実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っていること。 ☐ 行っている ☒ 行っていない	
5－11 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
領域 5	
優れた点	
改善を要する点	

領域6 専攻科課程の教育活動の状況

基準 6-1 DPが具体的かつ明確であること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点6-1-① DPが、学校の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 関係法令及びガイドラインを踏まえ、DPが定められていること。 ☒ 定められている ☐ 定められていない	専攻科学生便覧(p.3,4) ポリシー（再掲）
(2) DPが、「何ができるようになるか」に力点を置いたものであり、かつ専攻科課程全体、各専攻の目的（自己評価書Ⅱに記載したもの。）と整合性を有していること。 ☒ 整合性を有している ☐ 整合性を有していない	専攻科学生便覧(p.4) ポリシー（DP）（再掲）
(3) DPが、以下の内容を含んでいること。（すべての項目にチェック必須） ☒ 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力を示している ☒ 養成しようとする人材像の内容を示している	専攻科学生便覧(p.3) 教育方針（再掲） 専攻科学生便覧(p.4) ポリシー（DP）（再掲）
6-1 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 6-2 CPが具体的かつ明確であり、DPと整合していること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点6-2-① CPにおいて、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) CPが、以下の内容を含んでいること。（すべての項目にチェック必須） ☒ どのような教育課程を編成するかを示している ☒ どのような教育内容・方法を実施するかを示している ☒ 学習成果をどのように評価するかを示している	専攻科学生便覧(p.3,4) ポリシー（再掲）
観点6-2-② CPがDPと整合性を有していること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) ガイドライン等を踏まえ、CPが定められていること。 ☒ 定められている ☐ 定められていない	専攻科学生便覧(p.3,4) ポリシー（再掲）
(2) CPが、DPとの整合性を有していること。 ☒ 整合性を有している ☐ 整合性を有していない	専攻科学生便覧(p.3,4) ポリシー（再掲）
6-2 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 6-3 教育課程がCPに基づき体系的に編成され、授業科目の内容がDPに基づき設定されていること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点6-3-① 教育課程が体系的に編成されていること	
（根拠理由欄） 満たしていると判断する場合であって、第三者評価（特例適用専攻科又はJABEE認定プログラムの認定など。以下領域6において同じ。）の結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。 なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の項目について分析すること。	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) CPを踏まえて、適切な授業科目が体系的に配置されていること。 ☒ 配置されている ☐ 配置されていない	専攻科学生便覧(p.3,4) ポリシー（再掲）

観点6-3-② 準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっていること	
(根拠理由欄)	
満たしていると判断する場合であって、第三者評価の結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。 なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の項目について分析すること。	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 専攻科の教育課程が、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮していること。 ◎ 考慮している ○ 考慮していない	システム創成工学専攻専攻カリキュラムマップ 物質創成工学専攻専攻カリキュラムマップ
観点6-3-③ 創造力、実践力等を育む教育方法の工夫が図られているか【より望ましい取組として分析】	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 創造力を育む教育方法の工夫が行われているか。【より望ましい取組として分析】 ◎ 工夫が行われている ○ 工夫が行われていない	Webシラバス Webシラバス（システムデザイン演習、地域社会技術特論）
(2) 実践力を育む教育方法の工夫が行われているか。【より望ましい取組として分析】 ◎ 工夫が行われている ○ 工夫が行われていない	Webシラバス（再掲） Webシラバス（地域社会技術特論、ビジネスデザイン、エンジニアと経営、インターンシップ）
(3) その他教育方法の工夫が行われているか。【より望ましい取組として分析】 ◎ 工夫が行われている ○ 工夫が行われていない	Webシラバス（再掲） Webシラバス（アドバンスト・グローバルコミュニケーション、アドバンスト・グローバルチャレンジ、アドバンスト・グローバルエンジニアスキル、海外インターンシップ）
(4) (1)～(3)の学校としての取組の結果、優れた成果が上げられているか。【より望ましい取組として分析】 ◎ 上げられている ○ 上げられていない	専攻科生の学会発表等件数（過去5年間）
6-3 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 6-4 DP及びCPに基づき、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ◎ 満たしている ○ 満たしていない	
観点6-4-① 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 1年間の授業を行う期間が、定期試験の期間を含め、35週確保されていること。 ◎ 確保されている ○ 確保されていない	R6年間行事予定表 R6前期時間割表 R6後期時間割表
観点6-4-② 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	
(根拠理由欄)	
満たしていると判断する場合であって、第三者評価の結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。 なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の項目について分析すること。	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) CPに照らして、講義、演習、実験、実習の適切な授業形態が採用されていること。 ◎ 採用されている ○ 採用されていない	Webシラバス（再掲） 科目情報ファイル（本科と共通）
(2) 教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。（複数チェック☑可） ☒ 教材の工夫 ☒ 少人数教育 ☒ 対話・討論型授業 ☐ フィールド型授業 ☒ 情報機器の活用 ☐ 基礎学力不足の学生に対する配慮	Webシラバス（再掲） WebClass 365Teams Webシラバス（教育方法、授業の属性・履修上の区分）

☐ その他	
(3) CPを踏まえて、シラバスの作成要領の要領を示す文書において記載すべき項目が明確に規定され、それに基づきシラバスが適切に作成されていること。 ☒ 作成されている ☐ 作成されていない	Webシラバス操作マニュアル 奈良高専教員用Web シラバスシステム操作マニュアル（共通） p1～8
(4) 組織的に、最新のシラバスが漏れなく提示されているかの確認及び学生のシラバスの活用状況を把握し、その把握した状況を基に改善を行っていること。 ☒ 行っている ☐ 行っていない	専攻科委員会議事録1, 2月（不十分な部分についてはR7年より改善） ◇活用状況を把握する体制が確認できる資料 授業チェックシート（本科共通） ◇改善を行った事例がある場合は、改善事例の具体的内容が確認できる資料 授業チェックシート（本科共通）（再掲）
(5) 授業科目ごとのシラバス、あるいはシラバス集、履修要項等に、1単位の履修時間は授業時間以外の学修等を合わせて45時間であることを明示していること。その際、学則に定める授業形態ごとの単位時間数に応じた授業時間以外の学習が設定されていること。 ☒ 明示・設定されている ☐ 明示・設定されていない	奈良工業高等専門学校学則（再掲）
観点 6－4－③ CPに基づき、教養教育や研究指導が適切に行われていること （根拠理由欄） 満たしていると判断する場合であって、第三者評価の結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。 なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の項目について分析すること。	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生への教養教育や研究指導が、適切に行われていること。 ☒ 行われている ☐ 行われていない	Webシラバス（再掲） （地域創生工学研究、工学基礎研究、特別研究） 工学基礎研究、特別研究 評価シート（各専攻、コース）
6－4 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 6－5 適切な履修指導、支援が行われていること 基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点 6－5－① 学生のニーズに応えるための履修指導の体制が組織として整備され、指導、助言が行われていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえ、教育課程における具体的な配慮としてどのようなことを行っているか。（複数チェック☑可） ☒ 他専攻の授業科目の履修を認定 ☒ インターンシップによる単位認定 ☒ 準学士課程教育との連携 ☐ 資格取得に関する教育 ☒ 他の高等教育機関との単位互換制度 ☒ 個別の授業科目内での工夫 ☒ 最先端の技術に関する教育 ☐ その他	専攻科前期末成績（1，2年）および専攻科学年末成績（1，2年）
(2) 他の高等教育機関との単位互換制度を設けている場合、法令に従い適切に取り扱っていること。 ☒ 取り扱っている ☐ 取り扱っていない	奈良高専専攻科他大学等における習得単位認定に関する規定
(3) 教育を実施する上でのガイダンスが実施されているか。 ☒ 実施されている ☐ 実施されていない	R6専攻科年度当初予定 1年生ガイダンス資料（各専攻コース、4月当初）、2年生ガイダンス資料（4月当初）
(4) 特別な支援が必要と考えられる学生に対し、教育を実施する上でのガイダンスが実施されているか（複数チェック☑可） ☐ 留学生 ☐ 障害のある学生 ☐ 社会人学生 ☐ その他	該当者なし。過去に社会人、留学生の受け入れはあり。受け入れについては、該当者があった場合に本科と同様に対応する。 実例があった場合に対応を行う。

観点6-5-② 学生のニーズに応えるための学習相談の体制が整備され、助言、支援が行われていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生の自主的学習を進める上で、どのような相談・助言体制が整備されているか。（複数チェック☑可）	専攻科学生便覧（p. 58, 59）ポリシー（再掲）学生支援センター
☐ 担任制・指導教員制の整備	WebClass、Teams（再掲）
☒ オフィスアワーの整備	
☒ 対面型の相談受付体制の整備	
☒ 電子メールによる相談受付体制の整備	
☒ ICTを活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備	
☐ 資格試験・検定試験等の支援体制の整備	
☐ 外国への留学に関する支援体制の整備	
☐ その他	
(2) 学習支援に関して学生のニーズを把握するための制度があるか。（複数チェック☑可）	専攻科学生便覧（再掲）
☒ 担任制・指導教員制の導入	意見投書箱（本科と併用）
☐ 学生との懇談会	
☐ 意見投書箱	
☐ その他	
観点6-5-③ 正規学生に海外で学習する機会が提供され、有効に活用されているか【より望ましい取組として分析】	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 提供された機会を利用して学生が海外で学習しているか。【より望ましい取組として分析】	海外インターンシップ
☒ 利用して学習している ☐ 利用して学習していない	
6-5 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 6-6 CPに基づき、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること 基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない	
観点6-6-① DP及びCPに基づき定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、成績評価基準が組織として策定されていること	
（根拠理由欄） 満たしていると判断する場合であって、第三者評価の結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。 なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の項目について分析すること。	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 成績評価や単位認定に関する基準が、CPに基づき策定されていること。	専攻科履修規程
☒ 策定されている ☐ 策定されていない	専攻科便覧p. 3, 4(カリキュラム・ポリシー)
(2) 成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等が行われていること。	専攻科履修規程（再掲）
☒ 行われている ☐ 行われていない	
(3) 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目（学修単位科目）を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバスの記載どおりに行われていることを学校として把握していること。	Webシラバス（再掲）
☒ 把握している ☐ 把握していない	
観点6-6-② 成績評価認定基準が学生に周知されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 成績評価や単位認定に関する基準が学生に周知されていること。	専攻科便覧（再掲）
☐ 周知されている ☐ 周知されていない	

(2) 追試験、再試験、単位追認試験の成績評価方法が定められていること。 ☒ 定められている ☐ 定められていない		奈良工業高等専門学校専攻科履修規定（再掲） 専攻科の試験は、試験期間を設けず、授業期間中に実施しています。 そのため、追試験は成績提出期限までに、実施可能な日程で実施しています。 また、再試験についても、成績提出期限までに必要な指導を行ったうえで実施し、その結果を最終評価として提出しています。
観点 6－6－③ 成績評価基準に基づき各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること		
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） (1) 成績評価や単位認定の客観性、厳格性を担保するため、学校として組織的な措置が行われていること。（すべての項目にチェック必須） ☒ 成績評価の妥当性の事後チェック（シラバス通りに成績評価が行われていることの確認） ☒ 答案の返却 ☒ 模範解答や採点基準の提示 ☒ 同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック ☒ 試験問題のレベルが適切であることのチェック		自己点検・評価の根拠資料・説明等欄 グループFD実施報告書【本科共通】 授業チェックシート【本科共通】
観点 6－6－④ 成績に対する異議申立制度が組織的に設けられていること		
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） (1) 成績評価結果に関する学生からの意見申立ての機会が規程等により定められていること。 ☒ 定められている ☐ 定められていない		自己点検・評価の根拠資料・説明等欄 成績評価訂正願（様式） 専攻科成績確認期間に関する申し合わせ
6－6 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。		
基準 6－7 学校の目的及びDPに基づき、公正な修了判定が実施されていること 基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない		
観点 6－7－① 修了認定基準をDPに従って、組織として策定していること （根拠理由欄） 満たしていると判断する場合であって、第三者評価の結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。 なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の項目について分析すること。		
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） (1) 学校が定める修了要件が組織的に策定されていること。 ☒ 策定されている ☐ 策定されていない		自己点検・評価の根拠資料・説明等欄 奈良工業高等専門学校専攻科履修規程 R6学年末 1年生単位認定
観点 6－7－② 策定された修了要件が学生に周知されていること		
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） (1) 修了認定基準が学生に周知されていること。 ☒ 周知されている ☐ 周知されていない		自己点検・評価の根拠資料・説明等欄 専攻科学生便覧（再掲）
観点 6－7－③ 修了の認定が、修了認定基準に基づき組織的に実施されていること		
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） (1) 修了認定基準に基づき、組織として修了認定していること。 ☒ している ☐ していない		自己点検・評価の根拠資料・説明等欄 専攻科修了認定資料
6－7 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。		
基準 6－8 学校の目的及びDPに基づき、適切な学習成果が得られていること 基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない		

観点6-8-① DPに沿った学習・教育の成果を確認するための体制が整備されていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生が修了時に身に付ける学力・資質・能力について、学生・修了生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて学習・教育の成果を把握・評価するための体制が整備されていること。	進学先・就職先アンケート（再掲）
◎ 整備されている ○ 整備されていない	
観点6-8-② 修了時の学生からの意見聴取の結果により、学校の目的及びDPに基づいた学習成果が得られていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生が修了時に身に付けた学力・資質・能力について、修了時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価が行われていること。	進学先・就職先アンケート（再掲）
◎ 行われている ○ 行われていない	総務委員会議事録
観点6-8-③ 修了後一定期間の就業経験等を経た修了生からの意見聴取の結果により、学校の目的及びDPに基づいた学習成果が得られていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生が修了時に身に付けた学力・資質・能力について、修了生（修了直後でない者）に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価が行われていること。	進学先・就職先アンケート（再掲）
◎ 行われている ○ 行われていない	総務委員会議事録
観点6-8-④ 就職先等からの意見聴取の結果により、学校の目的及びDPに基づいた学習成果が得られていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生が修了時に身に付けた学力・資質・能力について、修了生の就職・進学先の関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価が行われていること。	進学先・就職先アンケート（再掲）
◎ 行われている ○ 行われていない	総務委員会議事録
6-8 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
基準 6-9 APが具体的かつ明確であること	
基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ◎ 満たしている ○ 満たしていない	
観点6-9-① APが学校の目的を踏まえて明確に定められていること	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 関係法令やガイドラインを踏まえ、APが定められていること。	専攻科学生便覧(p.3)（再掲）
◎ 定められている ○ 定められていない	各専攻共通
	(1) 豊かな人間性を有する技術者になりたい人
	(求める要素：人間性)
	(2) 自らの専門分野を生かし、さらに応用する力を育みたい人
	(求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力)
	(3) 技術を通して国際社会や地域に貢献したい人
	(求める要素：主体性・協働性・多様性)
	システム創成工学専攻
	(4) 創造性を高め、新しいシステムをつくり出したい人
	(求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力)
	物質創成工学専攻
	(5) 環境、エネルギー、バイオ、新材料およびこれらを融合したプロセスに関してその課題発見と解決に貢献したい人
	(求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力)
	連携教育プログラム
	(6) 分野横断的俯瞰力を備え、地域社会に貢献したい人
	(求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性)
(2) APが、以下の内容を含んでいること。（すべての項目にチェック必須）	専攻科学生便覧(p.3)（再掲）
☒ 入学者選抜の基本方針	
☒ 求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）	

6－9 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。												
基準 6－10 学生の受入れが適切に実施されていること 基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない												
観点 6－10－① APに沿って適切な受入方法が採用されており、実施体制により公正に実施されていること <table border="1"> <thead> <tr> <th>自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）</th> <th>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4"> (1) AP、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針その他）となっていること。 ☒ なっている ☐ なっていない </td> <td>R7年度専攻科入学者選抜募集要項</td> </tr> <tr> <td>R7年度専攻科入学試験関係実施要項</td> </tr> <tr> <td>R7年度入学試験選考方針及び問題作成基準</td> </tr> <tr> <td>面接評価調書、合否判定基準は各専攻、コースで申し合わせ作成</td> </tr> </tbody> </table>		自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	(1) AP、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針その他）となっていること。 ☒ なっている ☐ なっていない	R7年度専攻科入学者選抜募集要項	R7年度専攻科入学試験関係実施要項	R7年度入学試験選考方針及び問題作成基準	面接評価調書、合否判定基準は各専攻、コースで申し合わせ作成				
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄											
(1) AP、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針その他）となっていること。 ☒ なっている ☐ なっていない	R7年度専攻科入学者選抜募集要項											
	R7年度専攻科入学試験関係実施要項											
	R7年度入学試験選考方針及び問題作成基準											
	面接評価調書、合否判定基準は各専攻、コースで申し合わせ作成											
観点 6－10－② APに沿った学生の受入れが実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果が入学者選抜の改善に役立てられていること <table border="1"> <thead> <tr> <th>自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）</th> <th>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2"> (1) 検証及び検証結果を改善に役立てる体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない </td> <td>奈良工業高等専門学校点検・評価規程（再掲）</td> </tr> <tr> <td>アドミッションポリシーの適合割合の確認（アンケート）（再掲）</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"> (2) (1)の体制の下、実際に入学した学生が、APに沿っているかどうかの検証が行われていること。 ☒ 行われている ☐ 行われていない </td> <td>アドミッションポリシーの適合割合の確認（アンケート）（再掲）</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2"> (3) (2)の検証の結果が入学者選抜の改善に役立てられていること。 ☒ 役立てられている ☐ 役立てられていない </td> <td>アドミッションポリシーの適合割合の確認（アンケート）（再掲）</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </tbody> </table>		自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	(1) 検証及び検証結果を改善に役立てる体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良工業高等専門学校点検・評価規程（再掲）	アドミッションポリシーの適合割合の確認（アンケート）（再掲）	(2) (1)の体制の下、実際に入学した学生が、APに沿っているかどうかの検証が行われていること。 ☒ 行われている ☐ 行われていない	アドミッションポリシーの適合割合の確認（アンケート）（再掲）		(3) (2)の検証の結果が入学者選抜の改善に役立てられていること。 ☒ 役立てられている ☐ 役立てられていない	アドミッションポリシーの適合割合の確認（アンケート）（再掲）	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄											
(1) 検証及び検証結果を改善に役立てる体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	奈良工業高等専門学校点検・評価規程（再掲）											
	アドミッションポリシーの適合割合の確認（アンケート）（再掲）											
(2) (1)の体制の下、実際に入学した学生が、APに沿っているかどうかの検証が行われていること。 ☒ 行われている ☐ 行われていない	アドミッションポリシーの適合割合の確認（アンケート）（再掲）											
(3) (2)の検証の結果が入学者選抜の改善に役立てられていること。 ☒ 役立てられている ☐ 役立てられていない	アドミッションポリシーの適合割合の確認（アンケート）（再掲）											
6－10 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。												
基準 6－11 実入学者数が適切な数となっていること 基準の自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該基準を満たしているか。 ☒ 満たしている ☐ 満たしていない												
観点 6－11－① 実入学者数が適切な数となっていること <table border="1"> <thead> <tr> <th>自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）</th> <th>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2"> (1) 収容定員（又は入学定員）が専攻ごとに学則等で定められていること。 ☒ 定められている ☐ 定められていない </td> <td>奈良工業高等専門学校学則：32条</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2"> (2) 専攻ごとの入学定員（収容定員を定めている場合は、収容定員を2で除した数）と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない </td> <td>専攻科入試実績（再掲）</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2"> (3) 過去5年間の専攻科全体の実入学者数が適切であること。 ☒ 適切である ☐ 適切ではない </td> <td>専攻科入試実績（再掲）</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </tbody> </table>		自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	(1) 収容定員（又は入学定員）が専攻ごとに学則等で定められていること。 ☒ 定められている ☐ 定められていない	奈良工業高等専門学校学則：32条		(2) 専攻ごとの入学定員（収容定員を定めている場合は、収容定員を2で除した数）と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	専攻科入試実績（再掲）		(3) 過去5年間の専攻科全体の実入学者数が適切であること。 ☒ 適切である ☐ 適切ではない	専攻科入試実績（再掲）	
自己点検・評価結果欄（該当する○欄をチェック◎）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄											
(1) 収容定員（又は入学定員）が専攻ごとに学則等で定められていること。 ☒ 定められている ☐ 定められていない	奈良工業高等専門学校学則：32条											
(2) 専攻ごとの入学定員（収容定員を定めている場合は、収容定員を2で除した数）と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制が整備されていること。 ☒ 整備されている ☐ 整備されていない	専攻科入試実績（再掲）											
(3) 過去5年間の専攻科全体の実入学者数が適切であること。 ☒ 適切である ☐ 適切ではない	専攻科入試実績（再掲）											
6－11 特記事項 この基準の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。												

領域 6
優れた点
改善を要する点

資料編

第 1 章 教育に関する評価関係

入試説明会等状況

中学校教諭対象入試説明会

年度	奈 良	大 阪	京 都	その他	合 計
H27	67 名	13 名	4 名	0 名	84 名
H28	58 名	7 名	2 名	4 名	71 名
H29	63 名	7 名	2 名	0 名	72 名
H30	73 名	10 名	13 名	1 名	97 名
R1	57 名	18 名	7 名	2 名	84 名
R2	58 名	21 名	7 名	3 名	89 名
R3	68 名	22 名	9 名	4 名	103 名
R4	61 名	20 名	5 名	2 名	88 名
R5	48 名	12 名	3 名	2 名	65 名
R6	33 名	8 名	7 名	5 名	53 名

中学生・保護者対象 学校&入試説明会等

年度	学校・入試説明会				学校・入試説明会以外の 本校主催入試説明会の計		合 計	
	10月下旬の土曜日		10月下旬の日曜日					
H27	92 組	206 名	134 組	280 名	214 組	422 名	440 組	908 名
H28	85 組	187 名	90 組	194 名	215 組	428 名	390 組	809 名
H29	113 組	233 名	99 組	212 名	249 組	484 名	461 組	929 名
H30	組	名	127 組	273 名	278 組	574 名	405 組	847 名
R1	98 組	214 名	139 組	295 名	114 組	230 名	351 組	739 名
R2	99 組	196 名	89 組	177 名	85 組	145 名	273 組	518 名
R3	97 組	193 名	95 組	185 名	98 組	166 名	290 組	544 名
R4	79 組	152 名	81 組	145 名	49 組	86 名	209 組	383 名
R5	75 組	145 名	96 組	187 名	52 組	92 名	223 組	424 名
R6	66 組	146 名	91 組	215 名	25 組	43 名	182 組	404 名

※H30:12/9 1日開催

学習塾指導者対象入試説明会

年度	参 加 者 数	
H27	28 塾	32 名
H28	25 塾	27 名
H29	28 塾	29 名
H30	31 塾	39 名
R1	21 塾	25 名
R2	17 塾	17 名
R3	15 塾	15 名
R4	16 塾	16 名
R5	3 塾	3 名
R6	12 塾	12 名

資料 1－2
中学校訪問

年 度	訪 問	左のうち県内	
H27	242 校	92 校	
H28	243 校	93 校	
H29	114 校	75 校	
H30	92 校	71 校	
R1	92 校	71 校	
R2	－ 校	－ 校	※新型コロナウイルス感染症の状況により中止
R3	7 校	7 校	※新型コロナウイルス感染症の状況により途中で中止
R4	11 校	11 校	
R5	16 校	8 校	
R6	64 校	47 校	

体験入学

年 度	1 日 目	2 日 目	3 日 目	計	
H27	189 名	196 名	153 名	538 名	
H28	187 名	190 名	144 名	521 名	
H29	182 名	180 名	136 名	498 名	
H30	167 名	164 名	178 名	509 名	
R1	199 名	193 名	189 名	581 名	
R2	－ 名	－ 名	－ 名	－ 名	※
R3	－ 名	－ 名	－ 名	－ 名	※
R4	165 名	149 名	127 名	441 名	
R5	160 名	115 名	108 名	383 名	
R6	145 名	222 名	189 名	556 名	

※新型コロナウイルス感染症の状況により中止

塾・中学校主催 学校説明会等参加状況

年 度	塾主催説明会	中学校主催説明会	中学校からの本校訪問	計
H27	13 回	7 回	8 回	28 回
H28	12 回	8 回	4 回	24 回
H29	8 回	6 回	1 回	15 回
H30	6 回	8 回	1 回	15 回
R1	8 回	5 回	3 回	16 回
R2	3 回	3 回	0 回	6 回
R3	5 回	3 回	0 回	8 回
R4	7 回	5 回	0 回	12 回
R5	8 回	3 回	14 回	25 回
R6	9 回	4 回	6 回	19 回

入 学 試 験 状 況

()は女子で内数

年度		機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	合 計
H27	総志願者	52	64	64	56	54	290 (43)
	志願者倍率	1.3	1.6	1.6	1.4	1.4	1.5
	推薦志願者数	25	30	35	27	36	153 (25)
	入学者数	42 (2)	42 (5)	40 (0)	42 (6)	41 (14)	207 (27)
H28	総志願者	59	56	67	79	53	314 (60)
	志願者倍率	1.5	1.4	1.7	2.0	1.3	1.6
	推薦志願者数	33	35	40	43	33	184 (46)
	入学者数	41 (7)	41 (9)	41 (7)	40 (7)	42 (14)	205 (44)
H29	総志願者	52	49	53	51	59	264 (50)
	志願者倍率	1.3	1.2	1.3	1.3	1.5	1.3
	推薦志願者数	21	23	32	26	34	136 (33)
	入学者数	42 (5)	42 (9)	40 (4)	41 (8)	42 (15)	207 (41)
H30	総志願者	52	51	69	75	52	299 (50)
	志願者倍率	1.3	1.3	1.7	1.9	1.3	1.5
	推薦志願者数	30	40	37	38	32	177 (39)
	入学者数	41 (3)	41 (4)	42 (2)	40 (4)	40 (20)	204 (33)
H31	総志願者	55	48	53	88	64	308 (67)
	志願者倍率	1.4	1.2	1.3	2.2	1.6	1.5
	推薦志願者数	27	26	35	48	44	180 (45)
	入学者数	42 (6)	40 (6)	41 (2)	41 (12)	41 (19)	205 (45)
2020	総志願者	52	70	60	71	58	311 (51)
	志願者倍率	1.3	1.8	1.5	1.8	1.5	1.6
	推薦志願者数	41	44	41	38	46	210 (42)
	入学者数	41 (4)	42 (9)	42 (0)	40 (6)	40 (18)	205 (37)
R3	総志願者	35	39	50	78	45	247 (50)
	志願者倍率	0.9	1.0	1.3	2.0	1.1	1.2
	推薦志願者数	19	23	32	49	30	153 (44)
	入学者数	40 (6)	42 (8)	41 (3)	42 (13)	40 (16)	205 (46)
R4	総志願者	43	40	41	71	66	261 (69)
	志願者倍率	1.1	1.0	1.0	1.8	1.7	1.3
	推薦志願者数	24	32	27	46	45	174 (55)
	入学者数	43 (8)	42 (8)	42 (8)	41 (10)	42 (23)	210 (57)
R5	総志願者	48	36	47	59	52	242 (59)
	志願者倍率	1.2	0.9	1.2	1.5	1.3	1.2
	推薦志願者数	28	27	30	44	41	170 (50)
	入学者数	41 (5)	42 (12)	42 (6)	41 (10)	43 (22)	209 (55)
R6	総志願者	39	40	43	63	52	237 (56)
	志願者倍率	1.0	1.0	1.1	1.6	1.3	1.2
	推薦志願者数	23	29	33	49	36	170 (50)
	入学者数	40 (6)	43 (13)	42 (5)	42 (9)	40 (20)	207 (53)
R7	総志願者	37	29	46	61	45	218 (66)
	志願者倍率	0.9	0.7	1.2	1.5	1.1	1.1
	推薦志願者数	27	19	32	44	31	153 (55)
	入学者数	40 (11)	40 (15)	40 (8)	41 (14)	41 (18)	202 (66)

※ 志願者倍率は、総志願者数を入学定員(学科欄は40名、合計欄は200名)で割ったもの。

資料 3

編 入 学 試 験 状 況

年度		機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	合計
H27	志願者数	3	1	0	1	0	5
	合格者数	1	1	0	0	0	2
	入学者数	1	1	0	0	0	2
H28	志願者数	0	1	0	2	0	3
	合格者数	0	0	0	2	0	2
	入学者数	0	0	0	2	0	2
H29	志願者数	1	0	1	2	0	4
	合格者数	0	0	0	0	0	0
	入学者数	0	0	0	0	0	0
H30	志願者数	1	1	0	3	0	5
	合格者数	0	1	0	2	0	3
	入学者数	0	1	0	2	0	3
H31	志願者数	1	2	0	3	0	6
	合格者数	0	0	0	3	0	3
	入学者数	0	0	0	3	0	3
2020	志願者数	1	1	1	3	0	6
	合格者数	0	1	0	3	0	4
	入学者数	0	1	0	3	0	4
R3	志願者数	0	3	0	3	1	7
	合格者数	0	2	0	0	0	2
	入学者数	0	2	0	0	0	2
R4	志願者数	3	1	0	4	0	8
	合格者数	1	0	0	3	0	4
	入学者数	1	0	0	3	0	4
R5	志願者数	1	1	1	4	0	7
	合格者数	0	0	0	2	0	2
	入学者数	0	0	0	2	0	2
R6	志願者数	2	2	0	3	0	7
	合格者数	1	1	0	2	0	4
	入学者数	1	1	0	2	0	4
R7	志願者数	1	1	1	3	0	6
	合格者数	0	0	1	0	0	1
	入学者数	0	0	1	0	0	1

一般科目 [令和6年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語Ⅰ	3	3					学修単位
	国語Ⅱ	3		3				
	国語Ⅲ	2			2			
	国語表現法	2				2		
	地理	2	2					
	歴史	2		2				
	公共	2			2			学修単位
	政治・経済	2			2			学修単位
	現代社会と法	2					2	学修単位
	基礎数学α	4	4					物質化学工学科以外
	基礎数学β	2	2					
	微分積分Ⅰ	4		4				
	微分積分Ⅱ	2			2			
	線形代数	2		2				
	数学特論α	2			2			
	数学特論β	1			1			
	地球惑星物理	1	1					
	物理Ⅰ	1	1					
	物理Ⅱ	3		3				
	生物	1	1					
	化学Ⅰ	2	2					
	化学Ⅱ	2		2				
	化学	4	4					物質化学工学科のみ
	保健・体育Ⅰ	2	2					学修単位 学修単位 学修単位 学修単位
	保健・体育Ⅱ	2		2				
	体育理論Ⅰ	2			2			
	体育理論Ⅱ	2				2		
	体育実技	1					1	
	英語Ⅰ	3	3					
	英語Ⅱ	3		3				
	英語Ⅲ	2			2			
	英語Ⅳ	4				4		学修単位
	英語Ⅴ	2					2	学修単位
	英文法Ⅰ	2	2					学修単位 学修単位 学修単位 学修単位
	英文法Ⅱ	2		2				
	英文法Ⅲ	1			1			
選択必修科目	美術	2	※2					学修単位
	音楽	2	※2					学修単位
	人間環境学	2					△2	学修単位
	地域学	2					△2	学修単位
	日本文化学	2					△2	学修単位
必修科目 (留学生)	留学生の日本語	2			2			
選択科目	実用英語Ⅰ	1			1	(1)	(1)	()は未修得者
	実用英語Ⅱ	1				1	(1)	()は未修得者
	実用英語Ⅲ	1					1	
	異文化交流Ⅰ	1	1					
	異文化交流Ⅱ	1		1				
	異文化交流Ⅲ	1			1			
	異文化交流Ⅳ	1				1		
	異文化交流Ⅴ	1					1	
	海外協働研修Ⅰ	1	1					
	海外協働研修Ⅱ	1		1				
	海外協働研修Ⅲ	1			1			
	海外協働研修Ⅳ	1				1		
	海外協働研修Ⅴ	1					1	
修得単位計		79[79]	25[27]	23[21]	16[16]	8[8]	7[7]	

資料 4-1-2

専門科目（機械工学科）〔令和6年度開講科目一覧表〕

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					
	応用数学Ⅰ	2				2		学修単位
	応用数学Ⅱ	2				2		学修単位
	応用物理Ⅰ	2			2			
	応用物理Ⅱ	2				2		
	機械工学基礎	2	2					
	機械工学ゼミナール	1				1		
	技術英語	2					2	学修単位
	材料学Ⅰ	1		1				
	材料学Ⅱ	2			2			
	機械工作法Ⅰ	2		2				
	機械工作法Ⅱ	2			2			
	材料力学Ⅰ	2			2			
	材料力学Ⅱ	2				2		学修単位
	材料力学演習	1				1		
	流体力学Ⅰ	2				2		学修単位
	流体力学Ⅱ	2				2		学修単位
	流体力学演習	1					1	
	熱工学Ⅰ	2				2		学修単位
	熱工学Ⅱ	2				2		学修単位
	熱工学演習	1					1	
	機械力学Ⅰ	2			2			
	機械力学Ⅱ	2				2		学修単位
	機械力学演習	1				1		
	電気電子工学	2			2			
	計測工学	2					2	学修単位
	制御工学Ⅰ	2				2		学修単位
	制御工学Ⅱ	2					2	学修単位
	応用制御工学	2					2	学修単位
	情報処理	2			2			
	数値計算法	1				1		
	機械設計製図Ⅰ	2	2					
	機械設計製図Ⅱ	2		2				
	創造設計	1			1			
	機構学	2		2				
	機械設計工学	2					2	学修単位
	機械設計工学演習	2					2	
	生産システム工学	2					2	学修単位
	機械工作実習Ⅰ	3	3					
	機械工作実習Ⅱ	3		3				
	創造設計製作	3			3			
	機械工学実験Ⅰ	3				3		
	機械工学実験Ⅱ	2					2	
	卒業研究	6					6	
選択科目	学外実習	1				1		
	数理データサイエンスAI基礎Ⅰ	1		1				
	数理データサイエンスAI基礎Ⅱ	1			1			
	数理データサイエンスAI基礎Ⅲ	1				1		
	数理データサイエンスAI基礎Ⅳ	1					1	
	数理データサイエンスAI応用Ⅰ	1			1			
	数理データサイエンスAI応用Ⅱ	1				1		
	数理データサイエンスAI応用Ⅲ	1					1	
専門科目開設単位計		96	9	11	20	30	26	
修得単位	一般科目	79	25	23	16	8	7	
	専門科目	88	9	10	18	27	24	
	計	167	34	33	34	35	31	

専門科目（電気工学科）[令和6年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					学修単位
	応用数学 α	2				2		
	応用数学 β	2				2		学修単位
	応用物理Ⅰ	2			2			
	応用物理Ⅱ	2				2		
	基礎電気回路	2	2					
	電気・電子工学入門	1	1					
	環境リテラシー	1	1					
	電気回路Ⅰ	2		2				
	デジタル回路Ⅰ	1		1				
	プログラミング	2		2				
	電気回路演習	1		1				
	電磁気学Ⅰ	1		1				
	電磁気学Ⅱ	2			2			
	電気回路Ⅱ	2			2			
	電子工学	2			2			
	計測工学	2			2			
	電気工学演習Ⅰ	2			2			
	デジタル回路Ⅱ	1			1			
	環境エレクトロニクス	1			1			
	アナログ回路	2				2		
	デジタルシステム	1				1		
	電磁気学Ⅲ	2				2		
	電気回路Ⅲ	2				2		学修単位
	電力変換回路	2				2		学修単位
	電気電子材料	2				2		学修単位
	通信工学	2				2		学修単位
	電気機器工学	2				2		学修単位
	制御工学Ⅰ	2				2		学修単位
	環境エネルギー工学	2					2	学修単位
	制御工学Ⅱ	2					2	学修単位
	工業外国語	1					1	
	電気・電子工学実験Ⅰ	2		2				
	ものづくり基礎実習	2		2				
	電気・電子工学実験Ⅱ	2			2			
	ものづくり応用実習	2			2			
	電気・電子工学実験Ⅲ	2				2		
	電気・電子工学創造実験	2				2		
	電気・電子工学実験Ⅳ	4					4	
	卒業研究	6					6	
選択必修科目	電気工学演習Ⅱ	1				1		} いずれか1単位選択
	電気機器設計	1				1		
選択科目	学外実習	1				1		
	数理データサイエンスAI基礎Ⅰ	1		1				
	数理データサイエンスAI基礎Ⅱ	1			1			
	数理データサイエンスAI基礎Ⅲ	1				1		
	数理データサイエンスAI基礎Ⅳ	1					1	
	数理データサイエンスAI応用Ⅰ	1			1			
	数理データサイエンスAI応用Ⅱ	1				1		
	数理データサイエンスAI応用Ⅲ	1					1	
	電力系統工学	2					2	学修単位
	電気製図	2					2	学修単位
	高電圧工学	2					2	学修単位
	伝送工学	2					2	学修単位
	組み込みシステム	2					2	学修単位
	電気法規・設備工学	2					2	学修単位
	半導体工学	2					2	学修単位
専門科目開設単位計		101	6	12	20	32	31	
修得単位	一般科目	79	25	23	16	8	7	
	専門科目	88	6	11	18	28	25	
	計	167	31	34	34	36	32	

資料 4-1-4

専門科目（電子制御工学科）[令和6年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					学修単位
	応用数学α	2				2		
	応用数学β	2				2		学修単位
	応用物理Ⅰ	2			2			学修単位
	応用物理Ⅱ	2				2		
	基礎製図法	3	3					学修単位
	プログラミング	2		2				
	電気回路Ⅰ	2		2				学修単位
	材料・加工学	1		1				
	アルゴリズムとデータ構造	1			1			学修単位
	計算機アーキテクチャ	1			1			
	電気回路Ⅱ	2			2			学修単位
	電磁気学	2			2			
	電子工学	2			2			学修単位
	熱力学	2			2			
	計測工学Ⅰ	2			2			学修単位
	システム要素設計	2			2			
	電子回路	2				2		学修単位
	材料力学	2				2		
	流体力学	2				2		学修単位
	制御工学Ⅰ	2				2		
	制御工学Ⅱ	2				2		学修単位
	計測工学Ⅱ	2				2		
	電磁気学演習	2				2		学修単位
	材料力学演習	1				1		
	流体力学演習	1				1		学修単位
	計測工学演習	1				1		
	数値解析	2					2	学修単位
	機械力学	2					2	
	機能性材料	2					2	学修単位
	制御工学Ⅲ	2					2	
	ロボティクスⅠ	2					2	学修単位
	ロボティクスⅡ	2					2	
	システム工学	2					2	学修単位
	応用システム設計	2					2	
	システム設計製作	2				2		学修単位
	機械工学実習	2		2				
	電子制御工学実験Ⅰ	3	3					学修単位
	電子制御工学実験Ⅱ	3		3				
	電子制御工学実験Ⅲ	3			3			学修単位
	電子制御工学実験Ⅳ	2				2		
	卒業研究	7					7	学修単位
選択科目	学外実習	1				1		}1単位以上選択
	数理データサイエンスAI基礎Ⅰ	1		1				
	数理データサイエンスAI基礎Ⅱ	1			1			
	数理データサイエンスAI基礎Ⅲ	1				1		
	数理データサイエンスAI基礎Ⅳ	1					1	
	数理データサイエンスAI応用Ⅰ	1			1			
	数理データサイエンスAI応用Ⅱ	1				1		
	数理データサイエンスAI応用Ⅲ	1					1	
	電子制御工学総合演習Ⅰ	1					1	
	電子制御工学総合演習Ⅱ	1					1	
	専門科目開設単位計	97	8	11	21	30	27	
修得単位	一般教科	79	25	23	16	8	7	
	専門科目	88	8	10	19	27	24	
	計	167	33	33	35	35	31	

資料 4—1—5

専門科目（情報工学科）〔令和6年度開講科目一覧表〕

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					学修単位 学修単位
	応用数学 α	2				2		
	応用数学 β	2				2		
	応用物理Ⅰ	2			2			
	応用物理Ⅱ	2				2		
	デジタル回路	2	2					
	情報工学概論	2	2					
	電気回路基礎	1		1				
	プログラミング基礎	1		1				
	プログラミングⅠ	1		1				
	コンピュータシステム概論	1		1				
	論理回路Ⅰ	1		1				
	IT活用	2		2				
	情報数学	2		2				
	論理回路Ⅱ	2			2			学修単位
	データベースとWebアプリケーション	1			1			
	情報アクティブラーニングⅠ	2			2			
	プログラミングⅡ	2			2			
	コンピュータアーキテクチャ	2			2			
	データ構造とアルゴリズム	2			2			
	計算機ネットワークⅠ	2			2			
	数値計算・統計	2				2		
	コンピュータ援用論理設計	2				2		
	オペレーティングシステム	2				2		
	計算機言語処理	2				2		
	情報理論	2				2		
	情報セキュリティ	2				2		
	計算機ネットワークⅡ	2				2		
	プログラミングⅢ	2				2		
	情報アクティブラーニングⅡ	2				2		
	集積回路	2					2	
	情報工学特論	2					2	
	マルチメディア情報処理	2					2	
	信号処理	2					2	
	ソフトウェア工学	2					2	
	情報戦略システム	2					2	
	人工知能	2					2	
	ヒューマンコンピュータインタラクション	2					2	
	工業外国語	1					1	
	情報工学実験Ⅰ	2		2				
	情報工学実験Ⅱ	3			3			
	情報工学実験Ⅲ	3				3		
	卒業研究Ⅰ	4					4	
	卒業研究Ⅱ	5					5	
選択科目	学外実習	1				1		
専門科目開設単位計		89	6	11	18	28	26	

修得単位	一般科目	79	25	23	16	8	7
	専門科目	88	6	11	18	27	26
	計	167	31	34	34	35	33

専門科目（物質化学工学科）〔令和6年度開講科目一覧表〕

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					
	応用数学α	2				2		学修単位
	応用数学β	2				2		学修単位
	応用物理Ⅰ	2			2			
	応用物理Ⅱ	2				2		
	一般化学演習Ⅰ	1	1					
	一般化学演習Ⅱ	1		1				
	一般化学演習Ⅲ	1		1				
	化学特論Ⅰ	1	1					
	化学特論Ⅱ	1		1				
	分析化学	2			2			
	機器分析	2					2	学修単位
	有機化学Ⅰ	2		2				
	有機化学Ⅱ	2			2			
	有機化学Ⅲ	2				2		
	有機材料合成化学	1					1	
	機能性高分子化学	2					2	学修単位
	無機化学Ⅰ	2		2				
	無機化学Ⅱ	2			2			
	固体化学	2				2		学修単位
	基礎電気化学	2					2	学修単位
	物理化学Ⅰ	2			2			
	物理化学Ⅱ	2				2		
	基礎量子化学	2				2		
	生物化学Ⅰ	2		2				
	生物化学Ⅱ	2			2			
	生物化学Ⅲ	2				2		
	応用微生物学	1				1		
	分子生物学	2					2	学修単位
	生物化学工学	1				1		
	化学工学Ⅰ	2			2			
	化学工学Ⅱ	2				2		
	微粒子工学	2				2		学修単位
	反応工学	2					2	学修単位
	環境分離工学	2					2	学修単位
	プロセス制御	2					2	学修単位
	物質化学工学実験Ⅰ	2	2					
	物質化学工学実験Ⅱ	4		4				
	物質化学工学実験Ⅲ	4			4			
	物質化学工学実験Ⅳ	4				4		
	卒業研究	10					10	
選択科目	学外実習	1				1		
	数理データサイエンスAI基礎Ⅰ	1		1				
	数理データサイエンスAI基礎Ⅱ	1			1			
	数理データサイエンスAI基礎Ⅲ	1				1		
	数理データサイエンスAI基礎Ⅳ	1					1	
	数理データサイエンスAI応用Ⅰ	1			1			
	数理データサイエンスAI応用Ⅱ	1				1		
	数理データサイエンスAI応用Ⅲ	1					1	
専門科目開設単位計		96	6	14	20	29	27	
修得単位	一般科目	79	27	21	16	8	7	
	専門科目	88	6	13	18	26	25	
	計	167	33	34	34	34	32	

資料 4—1—7

特別活動

単位時間数	学年別配当		
	1年	2年	3年
90	30	30	30

グローバル工学協働教育プログラム [令和6年度開講科目一覧表]

区分	科 目 名	単位数	カリキュラム配当		備 考
			本科	専攻科	
ネオベ ーシ ック (レ ギ ュ ー ラ ー コ ー ス / リ ー ダ ー コ ー ス)	異文化交流Ⅰ	1	1		※1
	異文化交流Ⅱ	1	1		
	異文化交流Ⅲ	1	1		
	異文化交流Ⅳ	1	1		
	異文化交流Ⅴ	1	1		
	実用英語Ⅰ	1	1		※2
	実用英語Ⅱ	1	1		
	実用英語Ⅲ	1	1		
	海外協働研修Ⅰ	1	1		※1
	海外協働研修Ⅱ	1	1		
	海外協働研修Ⅲ	1	1		
	海外協働研修Ⅳ	1	1		
	海外協働研修Ⅴ	1	1		
アド バ ン ス ト	グローバルチャレンジ	1	1		3単位中、1単位を必修選択
	グローバルコミュニケーション	1	1		
	グローバルエンジニアスキル	1	1		
アド バ ン ス ト	アドバンスト・グローバルコミュニケーション	2		2	
	海外インターンシップ	2		2	
	アドバンスト・グローバルエンジニアスキル	2		2	
	アドバンスト・グローバルチャレンジ	2		2	
※1 レギュラーコースについては、異文化交流Ⅰ～Ⅴのうち1単位以上、海外協働研修Ⅰ～Ⅴのうち1単位以上を含む合計3単位以上を、リーダーコースについては異文化交流Ⅰ～Ⅴのうち1単位以上、海外協働研修Ⅰ～Ⅴのうち1単位以上を含む合計4単位以上を修得していること。 ※2 レギュラーコースについては実用英語Ⅰを、リーダーコースについては実用英語ⅠからⅢを修得すること。					

しなやか教育プログラム [令和6年度開講科目一覧表]

区分	科 目 名	単位数		備 考
		本科	専攻科	
ベーシック	エンジニアの感性と表現Ⅰ	1		
	エンジニアの感性と表現Ⅱ	1		
	エンジニアの感性と表現Ⅲ	1		
	エンジニアの感性と表現Ⅳ	1		
	基礎イノベティブワークショップ	1		
	応用イノベティブワークショップ	1		
	総合イノベティブワークショップ	1		
	ダイバーシティとインクルージョン	1		
アドバンス	エンジニアと経営		2	
	リーダーシップと意思決定		2	
	ビジネスデザイン		2	

専攻科 [令和 6 年度開講科目一覧表]

教養・専門基礎科目

区分		科 目 名	単位数	学年別配当		備 考
				1年	2年	
教 養	選択必修	特修英語Ⅰ	2	2		4単位以上選択すること
		特修英語Ⅱ	2	2		
		プレゼンテーション英語	2		2	
		アドバンスト・グローバルコミュニケーション	2	2		
	選択必修	地域と世界の文化論	2		2	2単位以上選択すること
		リーダーシップと意思決定	2	2		※2
		ビジネスデザイン	2		2	※2
開 設 単 位 数 計		14				
専 門 基 礎	必 修	地域社会技術特論	2	2		
		技術者倫理	2	2		
	選択必修	数理科学	2	2		2科目以上を選択
		物理学特論A	2	2		
		物理学特論B	2		2	
	選 択	エンジニアと経営	2	2		※2
		インターンシップ	2	2		※3
		海外インターンシップ	2	2		※3、※4
		アドバンスト・グローバルエンジニアスキル	2	2		※1
		アドバンスト・グローバルチャレンジ	2	2		※4
	開 設 単 位 数 計		20			
教養・専門基礎科目開設単位数 計		34				
教養 専門基礎科目修得単位数 計 20単位以上修得すること						
(※1) グローバル工学協働教育プログラム履修生は必修						
(※2) しなやかエンジニア教育プログラム履修生は必修						
(※3) 物質化学工学科以外の出身学科で本科で「学外実習」未履修の場合はいずれかの科目を必修						
(※4) グローバル工学協働教育プログラム履修生はいずれかを履修すること						

資料 4—1—11

専攻科 [令和 6 年度開講科目一覧表]

専門科目 (システム創成工学専攻)

区分		科 目 名		単位数	学年別配当		備考			
					1 年	2 年				
専 門	必修	工学基礎研究		10	10		いずれかを選択			
		地域創生工学研究		10	10					
		特別研究		10		10				
		システムデザイン演習		3	3					
		システム設計論Ⅰ		2	2					
		システム設計論Ⅱ		2	2					
		機械制御システムコース		電子情報設計技術基礎	2	2				
		電気電子システム、情報システムコース		機械設計技術基礎	2	2				
		機械制御システムコース		研究力向上セミナーⅠ（機械制御系）	2	2				
		機械制御システムコース		研究力向上セミナーⅡ（機械制御系）	2	2				
		電気電子システムコース		研究力向上セミナー（電気電子系）	2	2				
		情報システムコース		研究力向上セミナーⅠ（情報系）	2	2				
		情報システムコース		研究力向上セミナーⅡ（情報系）	2		2			
		専門必修開設単位数 計		51	39	12				
		専 門	選択	機械制御システムコース		実用技術英語（機械系）	2	2		
				電気電子システム、情報システムコース		実用技術英語（電気電子・情報系）	2	2		
	3コース共通			計測工学特論		2		2		
ヒューマンインターフェース				2		2				
機械制御システムコース				システム工学特論		2	2			
				制御工学特論		2	2			
				特殊加工学		2		2		
				工業材料		2		2		
				流体力学特論		2		2		
				計算機援用設計		2		2		
				輸送現象論		2		2		
電気電子システムコース				電気電子回路特論		2	2			
				電磁気学特論		2	2			
				電子物性		2		2		
				エネルギーエレクトロニクス		2		2		
				情報伝送		2		2		
				電力システム工学特論		2		2		
情報システムコース				計算理論		2	2			
				計算機ハードウェア		2	2			
				ソフトウェア設計		2		2		
				情報工学基礎論		2		2		
				メディアシステム論		2		2		
専門選択開設単位数 計				44	16	28				
専門科目開設単位 計				95	55	40				
システム創成工学専攻 合計				129						
専門科目修得単位数 計 42単位以上										

専攻科 [令和 6 年度開講科目一覧表]

専門科目 (物質創成工学専攻)

区分	科 目 名	単位数	学年別配当		備考
			1 年	2 年	
専 門	必 修	工学基礎研究	10	10	いずれかを選択
		地域創生工学研究	10	10	
		特別研究	10		
		研究リテラシー	2	2	
		実践化学英語	2	2	
		先端工学特論	2		
		専門必修開設単位数 計	36	24	
	選 択	量子化学	2	2	
		現代有機合成化学	2	2	
		物質分析工学	2	2	
		細胞工学	2	2	
		応用反応工学	2	2	
		選択的有機反応論	2		
		電子応用化学	2		
		資源エネルギー工学	2		
		生物構造化学	2		
		生物化学工学特論	2		
		拡散工学特論	2		
		専門選択開設単位数 計	22	10	
	専門科目開設単位 計		58	34	24
物質創成工学専攻 合計		92			
専門科目修得単位数 計 42単位以上					

令和6年度 年間行事予定表

奈良工業高等専門学校

資料5

〔前期〕		4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜
1 月	水	1 月	水	1 月	土	1 月	土	1 月	土	1 月	木	1 日	木
2 火		2 木	閉寮	2 木	閉寮	2 火	火	2 火	火	2 火	金	2 月	金
3 水		3 金	閉校記念日振替休日 一斉休業	3 金	憲法記念日	3 月	補講日 専攻科授業なし 令和7年度専攻科入学願書受付(学力:7日 まで)	3 水	令和7年度編入学試験	3 土	試験予備日・補講日 閉寮 専攻科夏季休業(9月30日まで)	3 火	火
4 木		4 土	みどりの日	4 土	みどりの日	4 火	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	4 木	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	4 日	↑ (予定)休職入学(6日まで)	4 水	水
5 金		5 日	こどもの日	5 日	こどもの日	5 水	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	5 金	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	5 月	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	5 木	木
6 土		6 月	振替休日 閉寮・寮生集会	6 月	振替休日 閉寮・寮生集会	6 木	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	6 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	6 火	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	6 金	金
7 日		7 火	↑ TOEIC-IP試験(12日まで)	7 火	↑ TOEIC-IP試験(12日まで)	7 金	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	7 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	7 水	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	7 土	土
8 月		8 水		8 水		8 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	8 月	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	8 月	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	8 日	日
9 火		9 木	学生総会	9 木	学生総会	9 日	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	9 火	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	9 金	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	9 月	月
10 水		10 金	健康診断(眼科・内科等)	10 金	健康診断(眼科・内科等)	10 月	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	10 水	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	10 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	10 火	火
11 木		11 土	↑ TOEIC-IP試験(12日まで)	11 土	↑ TOEIC-IP試験(12日まで)	11 火	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	11 木	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	11 日	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	11 水	水
12 金		12 日	↑ TOEIC-IP試験(12日まで)	12 日	↑ TOEIC-IP試験(12日まで)	12 水	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	12 金	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	12 月	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	12 木	木
13 土		13 月	学生会新入生歓迎行事	13 月	学生会新入生歓迎行事	13 木	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	13 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	13 火	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	13 金	金
14 日		14 火		14 火		14 金	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	14 水	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	14 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	14 土	土
15 月		15 水		15 水		15 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	15 月	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	15 日	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	15 日	日
16 火		16 木	健康診断(歯科)授業並行呼び出し 令和7年度専攻科入学試験(推薦)	16 木	健康診断(歯科)授業並行呼び出し 令和7年度専攻科入学試験(推薦)	16 日	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	16 火	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	16 金	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	16 月	月
17 水		17 金		17 金		17 月	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	17 水	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	17 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	17 火	火
18 木		18 土	閉校記念日(通常授業) 新入生オリエンテーション(敬務・グローバル 人)	18 土	閉校記念日(通常授業) 新入生オリエンテーション(敬務・グローバル 人)	18 火	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	18 木	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	18 日	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	18 水	水
19 金		19 日	春季リーダーズ研修会・学生会評議会	19 日	春季リーダーズ研修会・学生会評議会	19 水	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	19 金	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	19 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	19 木	木
20 土		20 月	令和7年度編入学願書受付(24日まで)	20 月	令和7年度編入学願書受付(24日まで)	20 木	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	20 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	20 火	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	20 金	金
21 日		21 火		21 火		21 金	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	21 日	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	21 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	21 土	土
22 月		22 水		22 水		22 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	22 月	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	22 日	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	22 日	日
23 火		23 木	令和7年度専攻科入学試験合格発表(推薦)	23 木	令和7年度専攻科入学試験合格発表(推薦)	23 日	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	23 火	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	23 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	23 月	月
24 水		24 金		24 金		24 月	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	24 水	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	24 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	24 火	火
25 木		25 土	学務部訓練 学務部スポンサー大会	25 土	学務部訓練 学務部スポンサー大会	25 火	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	25 木	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	25 日	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	25 水	水
26 金		26 日		26 日		26 水	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	26 金	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	26 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	26 木	木
27 土		27 月		27 月		27 金	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	27 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	27 日	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	27 金	金
28 日		28 火		28 火		28 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	28 日	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	28 月	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	28 土	土
29 月		29 水	昭和の日	29 水	昭和の日	29 日	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	29 月	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	29 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	29 日	日
30 火		30 木	月曜振替授業	30 木	月曜振替授業	30 日	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	30 火	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	30 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	30 月	月
		31 金		31 金		31 水	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	31 火	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	31 土	↑ 前期中間試験(本科:10日まで)	31 日	日

令和6年度 年間行事予定表

奈良工業高等専門学校

【後期】

10 月				11 月				12 月				1 月				2 月				3 月			
日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜	日 曜
1 火	後期授業開始(本科・専攻科)	火	1 金	スポーツ大会	1 日	1 日	1 水	1 元日	1 水	1 土	1 土	2 木	2 木	2 木	2 日	2 日	2 日	2 日	2 日	3 月	3 月	3 月	3 月
2 水		水	2 土	全国高専デザコン(3日まで)	2 月	2 月	2 木		2 木	2 日	2 日	3 金	3 金	3 金	3 月	3 月	3 月	3 月	3 月	4 火	4 火	4 火	4 火
3 木		木	3 日	文化の日	3 火	3 火	3 金	3 金	3 金	3 日	3 日	4 土	4 土	4 土	4 月	4 月	4 月	4 月	4 月	5 水	5 水	5 水	5 水
4 金		金	4 月	振替休日	4 水	4 水	4 土	4 土	4 土	4 月	4 月	5 日	5 日	5 日	5 日	5 日	5 日	5 日	5 日	6 木	6 木	6 木	6 木
5 土		土	5 火	月曜振替授業	5 月	5 月	5 水	5 水	5 水	5 金	5 金	6 月	6 月	6 月	6 月	6 月	6 月	6 月	6 月	7 金	7 金	7 金	7 金
6 日	近畿地区高専ロボコン	日	6 水		6 水	6 水	6 木	6 木	6 木	6 土	6 土	7 火	7 火	7 火	7 火	7 火	7 火	7 火	7 火	8 土	8 土	8 土	8 土
7 月		月	7 木	人権教育特別講演会(4年)	7 木	7 木	7 金	7 金	7 金	7 土	7 土	8 水	8 水	8 水	8 水	8 水	8 水	8 水	8 水	9 日	9 日	9 日	9 日
8 火		火	8 金		8 金	8 金	8 土	8 土	8 土	8 日	8 日	9 月	9 月	9 月	9 月	9 月	9 月	9 月	9 月	10 月	10 月	10 月	10 月
9 水	社会工學見学(1~4年) 専攻科科学外研修	水	9 土	↑ 高専祭(10日まで)	9 月	9 月	9 金	9 金	9 金	9 土	9 土	10 火	10 火	10 火	10 火	10 火	10 火	10 火	10 火	11 火	11 火	11 火	11 火
10 木	人権合同特活(3年)	木	10 日	↑	10 日	10 日	10 月	10 月	10 月	10 日	10 日	11 水	11 水	11 水	11 水	11 水	11 水	11 水	11 水	12 水	12 水	12 水	12 水
11 金		金	11 月	高専祭後片付け	11 水	11 水	11 火	11 火	11 火	11 土	11 土	12 木	12 木	12 木	12 木	12 木	12 木	12 木	12 木	13 木	13 木	13 木	13 木
12 土		土	12 火		12 火	12 火	12 水	12 水	12 水	12 金	12 金	13 金	13 金	13 金	13 金	13 金	13 金	13 金	13 金	14 金	14 金	14 金	14 金
13 日		日	13 水		13 水	13 水	13 木	13 木	13 木	13 土	13 土	14 火	14 火	14 火	14 火	14 火	14 火	14 火	14 火	15 土	15 土	15 土	15 土
14 月	スポーツの日	月	14 木	マリンバ演奏鑑賞会(3年)	14 木	14 木	14 金	14 金	14 金	14 土	14 土	15 水	15 水	15 水	15 水	15 水	15 水	15 水	15 水	16 金	16 金	16 金	16 金
15 火	月曜振替授業	火	15 金		15 金	15 金	15 土	15 土	15 土	15 日	15 日	16 月	16 月	16 月	16 月	16 月	16 月	16 月	16 月	17 月	17 月	17 月	17 月
16 水		水	16 土	後期ブックハンティング(現地)	16 土	16 土	16 日	16 日	16 日	16 月	16 月	17 火	17 火	17 火	17 火	17 火	17 火	17 火	17 火	18 火	18 火	18 火	18 火
17 木	金曜振替授業	木	17 日	全国高専ロボコン	17 日	17 日	17 月	17 月	17 月	17 土	17 土	18 水	18 水	18 水	18 水	18 水	18 水	18 水	18 水	19 水	19 水	19 水	19 水
18 金	特別日課	金	18 月		18 月	18 月	18 火	18 火	18 火	18 土	18 土	19 火	19 火	19 火	19 火	19 火	19 火	19 火	19 火	20 木	20 木	20 木	20 木
19 土	↑ 全国高専フロンコン(20日まで)	土	19 火		19 火	19 火	19 水	19 水	19 水	19 木	19 木	20 金	20 金	20 金	20 金	20 金	20 金	20 金	20 金	21 金	21 金	21 金	21 金
20 日	↑	日	20 水		20 水	20 水	20 木	20 木	20 木	20 金	20 金	21 火	21 火	21 火	21 火	21 火	21 火	21 火	21 火	22 土	22 土	22 土	22 土
21 月		月	21 木	社会人教育セミナー(2年)	21 木	21 木	21 金	21 金	21 金	21 土	21 土	22 水	22 水	22 水	22 水	22 水	22 水	22 水	22 水	23 日	23 日	23 日	23 日
22 火		火	22 金		22 金	22 金	22 土	22 土	22 土	22 日	22 日	23 月	23 月	23 月	23 月	23 月	23 月	23 月	23 月	24 月	24 月	24 月	24 月
23 水		水	23 土	勤労感謝の日	23 土	23 土	23 日	23 日	23 日	23 月	23 月	24 火	24 火	24 火	24 火	24 火	24 火	24 火	24 火	25 火	25 火	25 火	25 火
24 木	古戦芸術鑑賞会(2年)	木	24 日		24 日	24 日	24 月	24 月	24 月	24 火	24 火	25 水	25 水	25 水	25 水	25 水	25 水	25 水	25 水	26 木	26 木	26 木	26 木
25 金		金	25 月		25 月	25 月	25 火	25 火	25 火	25 土	25 土	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	27 月	27 月	27 月	27 月
26 土	↑ 学校見学・入試説明会(27日まで)	土	26 火		26 火	26 火	26 水	26 水	26 水	26 木	26 木	27 金	27 金	27 金	27 金	27 金	27 金	27 金	27 金	28 金	28 金	28 金	28 金
27 日	↑	日	27 水	補講日 専攻科授業なし	27 水	27 水	27 木	27 木	27 木	27 金	27 金	28 土	28 土	28 土	28 土	28 土	28 土	28 土	28 土	29 土	29 土	29 土	29 土
28 月		月	28 木	↑ 後期中間試験(本科・12月4日まで)	28 木	28 木	28 金	28 金	28 金	28 土	28 土	29 火	29 火	29 火	29 火	29 火	29 火	29 火	29 火	30 日	30 日	30 日	30 日
29 火		火	29 金		29 金	29 金	29 土	29 土	29 土	29 日	29 日	30 月	30 月	30 月	30 月	30 月	30 月	30 月	30 月	31 金	31 金	31 金	31 金
30 水		水	30 土	入試個別相談会	30 土	30 土	30 日	30 日	30 日	30 月	30 月	31 金	31 金	31 金	31 金	31 金	31 金	31 金	31 金	1 月	1 月	1 月	1 月
31 木	過年度不可(A)解消期限	木	31 日		31 日	31 日	31 月	31 月	31 月	31 火	31 火	1 水	1 水	1 水	1 水	1 水	1 水	1 水	1 水	2 木	2 木	2 木	2 木

奈良工業高等専門学校

[illegible]

令和6年度授業時間割(後期)

		学 期																		学 期																		学 期																		学 期																	
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15				16				17				18			
		1				2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13																							

令和6年度特別講演会実施一覧

学科	実施日	演題	講師
M	令和6年10月31日(木)	「地域の未来を牽引する技術」	株式会社ヒラノテクシード 開発部 開発課 西垣靴下株式会社 代表取締役社長
E	令和6年10月31日(木)	「AI時代を生き抜く技術者の心構え」	大阪大学大学院工学研究科附属 フューチャーイノベーションセンター 特任教授
S	令和6年11月19日(火)	「村田製作所のロボット開発～球乗型ロボット開発プロジェクトの舞台裏～」	株式会社村田製作所 公益財団法人村田学術振興・教育財団
I	令和6年10月10日(木)	「情報・経営システム工学分野の紹介と編入学に関する説明」	長岡技術科学大学 情報・経営システム系 准教授
	令和6年12月19日(木)	「ゲノム解析・オミクス解析・バイオインフォマティクス解析によるヒトの病気や進化研究」	兵庫県立大学 情報科学研究科 教授
C	令和6年6月27日(木)	「高速リアルタイムPCR の開発とベンチャーの裏話」	国立研究開発法人産業技術総合研究所 生命工学領域 先端フォトニクス・バイオセンシング オープンイノベーションラボラトリ 副ラボ長
専攻科	令和6年11月7日(木)	「ロボカップと認知発達ロボティクスの提唱推進とその拡張応用」	大阪国際工科専門職大学 副学長

資料8

令和6年度第4学年対象進路セミナー実施一覧

学科	実施日	講師
E	令和6年7月18日(木)	平成30年度卒業生 (寺崎電気産業株式会社)
S	令和6年10月17日(木)	令和元年度卒業生 (株式会社樁本チエイン 研究開発センター 電気電子技術課)

令和6年度秋季社会工場見学、専攻科学外研修

期日	クラス	行	程	引 率 教 員		
10月9日 (水)	1M	株式会社 西島製作所, 安満遺跡公園		石水	福岡	森
	1E	新明和工業株式会社(航空機事業部), 六甲山牧場		矢野	三崎	石飛
	1S	神戸海洋博物館, メリケンパーク, 川崎重工株式会社 明石工場		藤井	玉木	
	1I	eBASE株式会社, 大阪城天守閣, あべのハルカス300		山中	松尾	榊原
	1C	TOA株式会社 柏原工場, 花博記念公園鶴見緑地, 株式会社カネカ 大阪工場		鷲野	宇田	稲田
	2M	柴島浄水場, JR西日本 吹田総合車両所		新井	坂本	小柴
	2E	パナソニックインダストリー株式会社 宇治工場, 平等院		北村	小坂	永井
	2S	三菱電機株式会社 電子通信システム製作所, メリケンパーク, 神戸海洋博物館		飯間	太田	上島
	2I	クロネコヤマト関西ゲートウェイ, 万博公園		道本	内田	稲川
	2C	ダイキン工業株式会社 淀川製作所, 万博公園, シオノギファーマ株式会社 摂津工場		豊田	亀井	松井(真)
	3M	株式会社なんつね, 天保山マーケットプレイス, 合同会社ユーエスジェイ		須田	平	朴
	3E	ニフレル, EXPOCITY, ダイキン工業株式会社 淀川製作所		頭師	大谷	顯谷
	3S	三菱重工業株式会社 神戸造船所, メリケンパーク, 新明和工業株式会社 航空機事業部 甲南工場		西田	板倉	
	3I	谷町四丁目駅(集合), 班ごとに行動(大阪歴史博物館、大阪城公園など), 近畿管区警察本部, 大阪府警察本部, 谷町四丁目駅(解散)		岡村	山口(智)	松井(良)
	3C	三井化学株式会社 大阪工場, 浜寺公園, UBE株式会社 堺工場		直江	伊月	森岡
	4M	ロート製薬株式会社 上野テクノセンター, DMG森精機株式会社 伊賀事業所		廣	谷口	
	4E	木内計測株式会社, 明石サービスエリア, 日本品質保証機構 関西試験センター		池田	芦原	
	4S	辰巳電子工業株式会社, 長谷寺, 味覚糖株式会社 奈良工場		橋爪	櫛	山口(和)
	4I	アークレイ株式会社 京都研究所, 京都工芸繊維大学		岩田	市川	
	4C	不二製油株式会社 阪南事業所, りんくう公園, 大阪公立大学中百舌鳥キャンパス 植物工場研究センター		松浦	片倉	
4月12日 (金)	専攻科(1年)	株式会社ヒラノテクニード, 信貴山のどか村		中村(秀)	上野	林
10月9日 (水)	専攻科(1年)	けいはんなプラザ, Colt京阪奈データセンター		中山	林	
	専攻科(2年)	Colt京阪奈データセンター, けいはんなプラザ		中村(秀)	上野	

資料 10

年度別博士号取得者一覧

年 度	区分	学科別博士号取得者数							
	現員	校 長	一 般	機 械	電 気	電 制	情 報	物 化	合 計
令和2年度	75	1	15	9	8	6	9	12	60
令和3年度	75	1	13	9	8	7	9	12	59
令和4年度	72	1	15	8	8	8	9	12	61
令和5年度	74	1	16	8	8	8	9	13	63
令和6年度	70	1	16	8	9	8	9	10	61

資料11

令和6年度 クラブ顧問・部員数一覧

体 育 部

ク ラ ブ 名	主顧問 (連絡担当)	顧問	顧問	顧問		部 員 数										計
						1年		2年		3年		4年		5年		
						男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
アーチェリー	石丸 裕士	本間 啓道	岩田 大志			2	3	2	2	2	0	1	1	0	0	13
合 気 道	石飛 学	松浦 幸仁	片倉 勝己	池田 陽紀		4	0	1	0	3	2	2	0	1	1	14
弓 道	谷口 幸典	北村 誠	新井 由美			4	3	6	5	2	4	12	5	6	5	52
剣 道	池田 陽紀	須田 敦	三崎 雅裕			2	0	2	0	5	3	4	0	1	0	17
硬式野球	内田 眞司	小柴 孝	平 俊男	酒井 史敏		7	2	8	2	4	3	2	0	10	1	39
サッカー	山口 智浩	松尾 賢一	上野 秀剛			4	2	10	1	3	0	6	0	0	0	26
柔 道	矢野 充志					0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
少林寺拳法	直江 一光	松井 真希子				0	0	2	0	0	0	0	0	2	2	6
水 泳	廣 和樹	橋爪 進	松村 寿枝	石飛 学		5	5	2	4	8	2	2	4	6	0	38
ソフトテニス	藤井 隆輔	宇田 亮子	西田 茂生	伊月 亜有子		6	0	5	0	7	0	4	2	0	2	26
卓 球	榊原 和彦	亀井 稔之	松井 真希子	上島 智史		2	1	4	3	4	0	3	3	5	1	26
硬式テニス	中村 秀美	山口 賢一	福岡 寛	樺 弘明		1	0	5	1	3	1	2	0	0	0	13
バスケットボール	新野 康彦	頭師 孝拓	稲川 太郎			8	0	5	0	4	0	2	0	0	0	19
バドミントン	林 啓太	岡村 真吾	伊月 亜有子	玉木 隆幸		6	6	4	0	3	3	6	0	1	0	29
バレーボール	松井 良明	太田 孝雄	板倉 和裕	道本 祐子		2	2	4	3	7	6	4	4	2	1	35
ハンドボール	大谷 真弘	豊田 洋平	小坂 洋明	坂本 雅彦		0	0	2	1	5	0	2	0	0	0	10
ラ グ ビ ー	森 弘暢	矢野 充志	市川 嘉裕	山口 和也		10	0	8	0	6	0	2	0	5	0	31
陸 上 競 技	飯間 圭一郎	稲田 直久	山中 聡恵	太田 孝雄		7	1	3	3	4	3	4	1	7	0	33
小 計						70	25	73	25	70	27	58	21	47	14	430

文 化 部

からくり	橋爪 進	中山 敏男	鷲野 朋広	山田 裕久		22	2	8	1	8	4	0	0	0	0	45
機械研究会	須田 敦	頭師 孝拓				2	1	4	0	7	4	2	0	2	0	22
軽音楽	山口 和也	谷口 幸典				5	3	14	8	11	9	12	4	10	3	79
茶 道	西田 茂生	松村 寿枝				1	4	3	4	2	3	1	2	0	0	20
システム開発研究会	樺 弘明	中山 敏男				5	2	4	3	9	1	0	0	2	0	26
将 棋	玉木 隆幸	岡村 真吾				1	0	5	2	2	0	4	1	0	0	15
情報処理研究会	岩田 大志	松尾 賢一	本間 啓道			6	3	4	0	0	0	2	0	2	0	17
吹 奏 楽	永井 歩美	芦原 佑樹	顯谷 智也子	藤田 直幸		5	3	3	6	3	4	0	0	0	1	25
美 術	市川 嘉裕					0	3	4	4	1	0	2	2	1	0	17
放 送	芦原 佑樹	山口 賢一				4	0	1	0	2	1	8	2	6	0	24
小 計						51	21	50	28	45	26	31	11	23	4	290

同 好 会

化学同好会	宇田 亮子	林 啓太				1	0	2	2	6	1	1	0	0	0	13
合唱同好会	稲田 直久	松井 良明				0	3	0	0	2	1	2	4	0	1	13
クイズ研究会	新井 由美	上島 智史				0	2	6	0	0	2	2	3	7	2	24
手芸同好会	石水 明香					1	4	0	3	1	5	0	5	0	0	19
数学同好会	山中 聡恵					3	0	5	1	3	2	2	0	1	0	17
生協学生同好会	稲川 太郎	藤井 隆輔				2	2	3	3	0	1	1	1	0	0	13
電気技術研究会	三崎 雅裕	大谷 真弘				4	3	5	1	5	2	0	0	1	0	21
小 計						11	14	21	10	17	14	8	13	9	3	120

各学年部員数※	1年		2年		3年		4年		5年		合計	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
	132	60	144	63	132	67	97	45	79	21	584	256
※各学年部員数はのべ数(複数の部に所属している者もカウント)											総合計	840

学生会執行部員数	1年		2年		3年		4年		5年		合計	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
学生会執行部	上島 智史	福岡 寛	大谷 真弘				13	2	12	2	6	2
											総合計	54

令和6年度 大会等成績一覧

<体育系>

令和7年3月31日現在

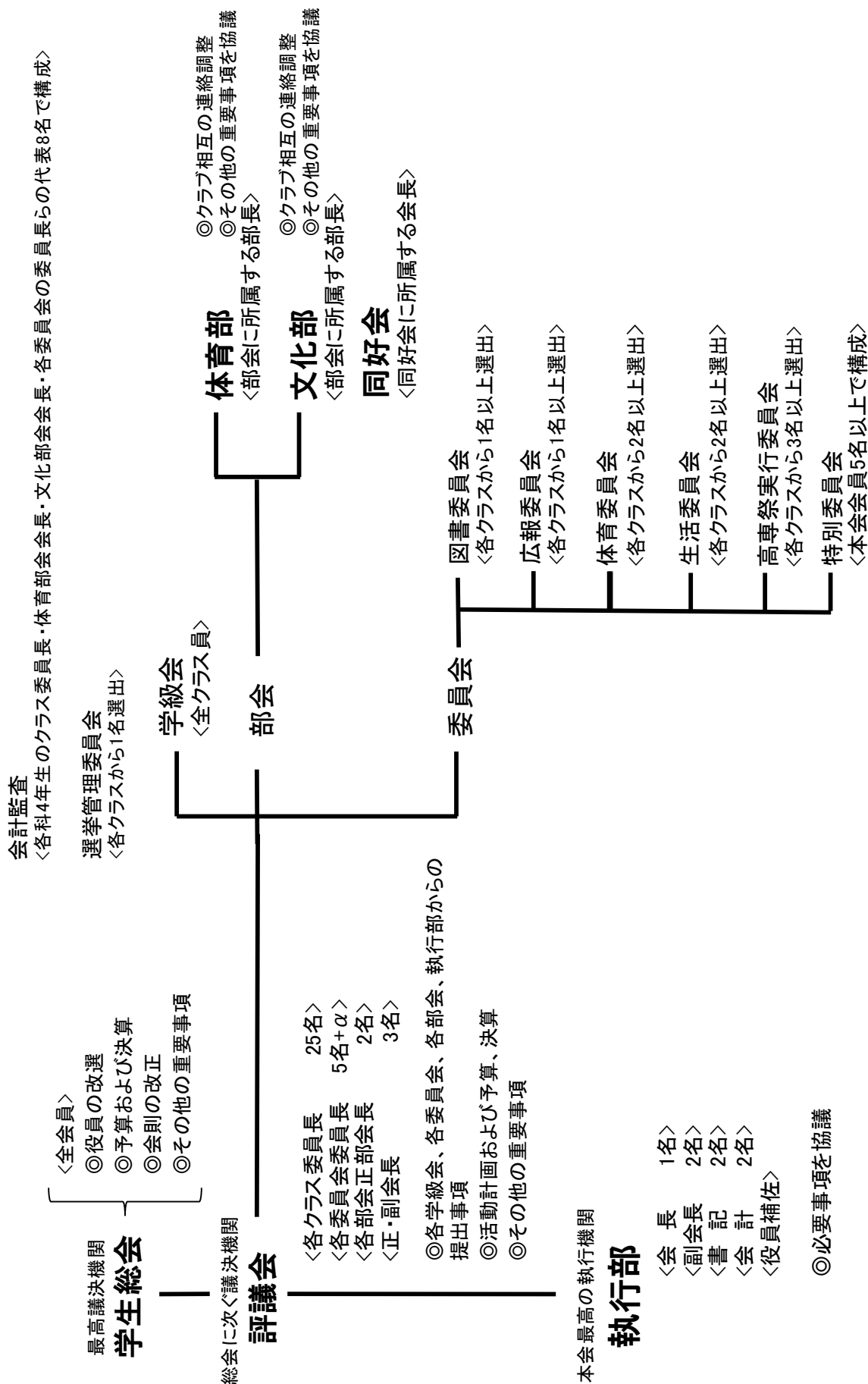
大会名	月・日	種 目	成 績
第 61 回 近 畿 地 区 高 等 専 門 学 校 体 育 大 会	6. 29	陸上競技	
		総合	
		男子100m	4 位
			6 位
		男子200m	7 位
		男子400m	6 位
		男子1500m	5 位
		男子5000m	2 位
		男子4×100mリレー	2 位
		男子4×400mリレー	3 位
		男子砲丸投	4 位
			6 位
		男子円盤投	1 位
		男子やり投	6 位
		女子100m	1 位
			4 位
			5 位
		女子800m	3 位
			4 位
			7 位
		女子4×100mリレー	1 位
		女子走幅跳	1 位
			4 位
		女子砲丸投	3 位
			4 位
	6. 29-30	バスケットボール	男子 3 位
	6. 29-30	バレーボール	男子 入賞なし
	6. 29-30	女子 入賞なし	
		団体 男子 入賞なし	
		個人 男子 入賞なし	
		個人 女子 入賞なし	
	7. 6-7	卓球	
		団体 男子	2 位
		個人 男子ダブルス	入賞なし
		個人 男子シングルス	入賞なし
		団体 女子	入賞なし
		個人 女子ダブルス	入賞なし
		個人 女子シングルス	入賞なし
	7. 13-14	柔道	女子無差別級 1 位
	7. 14-15	剣道	
		団体 男子	4 位
		個人 男子	入賞なし
		団体 女子	3 位
	5. 18-19	硬式野球	個人 入賞なし
	6. 29-30	サッカー	3 位
	6. 29-30	ハンドボール	入賞なし
	6. 22-23	テニス	2 位
		団体 男子	入賞なし
		個人 男子シングルス	入賞なし
		個人 男子ダブルス	入賞なし
		団体 女子	優勝
		個人 女子シングルス	1 位
			2 位
		個人 女子ダブルス	1 位
	6. 29-30	バドミントン	
		団体 男子	優勝
		個人 男子ダブルス	優勝
		個人 男子シングルス	優勝
		団体 女子	2 位
		個人 女子ダブルス	2 位
		個人 女子シングルス	1 位
			3 位
	7. 15	水泳	
		総合	2 位
		男子自由形50m	3 位
			5 位
		男子自由形200m	2 位
		男子自由形400m	2 位
		男子背泳ぎ100m	5 位
		男子背泳ぎ200m	5 位
		男子平泳ぎ100m	1 位
		男子平泳ぎ200m	2 位
		男子バタフライ100m	3 位
		男子4×100mリレー	2 位
		男子4×200mリレー	3 位
		男子4×100mメドレーリレー	2 位
		女子自由形50m	2 位
		女子自由形100m	2 位
			5 位
		女子背泳ぎ100m	4 位
			4 位
		女子平泳ぎ100m	6 位

大会名	月・日	種 目	成 績
	11.16	女子バタフライ100m 女子200m個人メドレー 女子4×50mリレー	3位 2位 4位 2位
		ラグビー	優勝
第57回近畿地区高専弓道大会	7.6	弓道 団体 男子 個人 男子 団体 女子 個人 女子	入賞なし 入賞なし 入賞なし 優勝
第59回全国高等専門学校体育大会	9.7-8	陸上競技 男子100m 男子400mH 男子5000m 男子砲丸投 男子円盤投 男子4×100mリレー 女子100m 女子200m 女子800m 女子3000m	予選敗退 8位 予選敗退 予選敗退 予選敗退 予選敗退 6位 6位 予選敗退 予選敗退
	8.24-25	柔道	優勝
	8.21-23	テニス 個人 女子シングルス	2回戦敗退 1回戦敗退 3位
	8.30-9.1	バドミントン 個人 女子ダブルス 個人 男子ダブルス 個人 男子シングルス 団体 男子 個人 女子ダブルス 個人 女子シングルス	1回戦敗退 1回戦敗退 1回戦敗退 1回戦敗退 1回戦敗退 1回戦敗退
	8.31-9.1	水泳 総合順位 男子50m自由形 男子200m自由形 男子400m自由形 男子100m平泳ぎ 男子200m平泳ぎ 男子100mバタフライ 男子4×100mフリーリレー 男子4×100mメドレーリレー 女子50m自由形 女子100m自由形 女子200m個人メドレー 女子4×50mフリーリレー	9位 予選敗退 予選敗退 6位 予選敗退 8位 予選敗退 予選敗退 予選敗退 3位 6位 6位 3位
	1.4-9	ラグビー	優勝
	7.15	少林寺拳法部 一般段外の部	最優秀賞
第11回全国高等専門学校弓道大会	8.27-28	弓道	入賞なし
第21回全国高等学校合気道演武大会	8.2	合気道	連盟賞

<文化系>

大会名	月・日	種 目	成 績
第16回全国高等学校鉄道模型コンテスト	8.3-4	機械研究会 H〇車輛部門 モジュール部門	奨励賞 旅する江戸川乱歩賞（次点）・ベスト クオリティ賞・ベストライター賞
WRO Japan 2024 奈良予選会	8.4	エキスパート部門	審査委員特別賞 入賞なし
化学グランプリ2024	8.20-22		銀賞
第31回全国高等専門学校将棋大会	8.28-30	将棋 団体戦 男子個人戦	3位 3位 ベスト8 ベスト64
		女子個人戦	予選リーグ敗退 予選リーグ敗退
第35回全国高等専門学校プログラミングコンテスト	10.19-20	課題部門「アルC0-地球を守る、優しいアプリ」 競技部門	敢闘賞 1回戦6位・敗者復活戦3位
全国高等専門学校デザインコンペティション2024		AMデザイン部門	予選敗退
第6回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2025			予選敗退
近畿地区高等学校英語プレゼンテーションコンテスト2024	11.9-10	チーム部門 シングル部門	特別賞 入賞なし
第3回高専GIRLS SDGs × Technology Contest			書類選考落ち
アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024近畿地区大会	10.6	Aチーム「射駒（イコマ）」 Bチーム「ダーリンが来た！」	優勝 デザイン賞
科学の甲子園2024 奈良県大会	11.10		3位
アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024全国大会	11.17	Aチーム「射駒（イコマ）」	特別賞
第11回トマトロボット競技会	12.7-8		総合優勝
第3回高専防災減災コンテスト	12.22	「ぼこぼこまっぶ ～触って分かる！あなただけのセーフティールート！～」	高専機構賞
奈良県高等文化連盟将棋部会主催令和6年度（第24回）最強者決定戦	1.26		敢闘賞・中川杯
第二回高専マテリアルコンテスト	3.12		優秀賞
関西春ロボコン	3.12-13		第4位
第28回中部・近畿地区高専将棋大会	3.15-16		Aクラス第2位

<<学生会組織図>>



注 く)は構成メンバー・◎印は審議事項、協議事項および任務

資料 1 4

学生支援センター相談件数

年度	学年		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	保護者	教職員	合計	
	相談項目											
R2	心理相談	人数	5	4	3	0	1	1	4	4	22	
		延べ数	23	16	9	0	6	1	9	51	115	
	学業	人数	17	3	3	8	3	3	11	0	48	
		延べ数	23	7	10	12	3	3	15	0	73	
	対人関係	人数	1	1	2	1	1	0	0	2	8	
		延べ数	5	1	17	1	1	0	0	15	40	
	進路相談	人数	1	1	0	13	19	2	4	1	41	
		延べ数	7	6	0	23	23	21	14	1	95	
	異性問題	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		延べ数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	家庭内問題	人数	2	1	1	1	1	0	0	4	10	
		延べ数	6	1	6	1	1	0	0	17	32	
その他	人数	5	6	3	7	6	3	8	18	56		
	延べ数	15	33	12	11	6	82	10	19	185		
合計	人数	31	16	12	30	31	9	27	29	185		
	延べ数	79	64	54	48	40	107	48	103	543		
R3	心理相談	人数	3	8	8	4	5	3	8	12	51	
		延べ数	6	16	12	10	82	11	14	37	188	
	学業	人数	10	8	8	6	5	0	9	5	51	
		延べ数	27	37	11	8	5	0	10	11	109	
	対人関係	人数	1	2	2	6	2	1	2	16	32	
		延べ数	1	9	8	75	25	1	3	71	193	
	進路相談	人数	2	2	4	8	47	8	13	2	86	
		延べ数	3	4	9	15	86	30	13	6	166	
	異性問題	人数	0	1	1	1	2	0	0	0	5	
		延べ数	0	1	1	1	4	0	0	0	7	
	ハラスメント	人数	0	2	0	1	0	0	0	5	8	
		延べ数	0	5	0	1	0	0	0	5	11	
	家庭内問題	人数	0	3	1	1	1	0	0	2	8	
		延べ数	0	3	1	2	32	0	0	2	40	
	その他	人数	7	4	4	3	2	4	19	36	79	
		延べ数	23	10	6	26	2	20	38	74	199	
	合計	人数	23	30	28	30	64	16	51	78	320	
		延べ数	60	85	48	138	236	62	78	206	913	
R4	心理相談	人数	3	7	11	9	19	3	6	16	74	
		延べ数	5	12	41	28	90	4	13	76	269	
	学業	人数	78	8	8	31	3	2	10	8	148	
		延べ数	116	19	18	38	5	11	27	19	253	
	対人関係	人数	3	3	4	0	4	0	2	2	18	
		延べ数	3	11	5	0	10	0	2	2	33	
	進路相談	人数	2	5	1	22	20	2	8	9	69	
		延べ数	2	8	1	29	91	4	14	14	163	
	異性問題	人数	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
		延べ数	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	ハラスメント	人数	5	0	0	0	0	0	1	3	9	
		延べ数	8	0	0	0	0	0	2	11	21	
	家庭内問題	人数	0	0	3	5	2	0	0	0	10	
		延べ数	0	0	8	6	2	0	0	0	16	
	その他	人数	10	2	4	18	7	0	32	90	163	
		延べ数	12	2	16	20	21	0	44	225	340	
	合計	人数	101	25	31	86	55	7	59	128	492	
		延べ数	146	52	89	122	219	19	102	347	1096	
R5	心理相談	人数	7	22	5	9	3	5	12	41	104	
		延べ数	20	36	15	36	17	6	25	145	300	
	学業	人数	2	6	8	0	0	1	5	3	25	
		延べ数	4	11	25	0	0	1	7	10	58	
	対人関係	人数	9	2	3	0	3	0	2	1	20	
		延べ数	16	3	4	0	12	0	9	1	45	
	進路相談	人数	2	6	6	4	11	3	5	12	49	
		延べ数	4	11	13	14	35	3	12	19	111	
	異性問題	人数	1	0	2	0	1	0	0	0	4	
		延べ数	1	0	2	0	1	0	0	0	4	
	ハラスメント	人数	0	1	0	0	1	0	0	1	3	
		延べ数	0	2	0	0	2	0	0	1	5	
	家庭内問題	人数	4	1	2	1	0	0	4	2	14	
		延べ数	4	1	2	1	0	0	10	2	20	
	その他	人数	10	3	8	3	1	2	18	63	108	
		延べ数	14	5	8	9	1	3	54	125	219	
	合計	人数	35	41	34	17	20	11	46	123	327	
		延べ数	63	69	69	60	68	13	117	303	762	
R6	相談項目	相談分類（在学生のみ）										
		月	学業	進路・就職	家族関係	対人関係（学校・いじめ）	対人関係（その他）	心理・性格	学校生活への不適応・不満	精神衛生・心身の健康	経済的問題	ハラスメント
	4月	73	34	4	4	0	1	7	8	0	0	
	5月	31	22	1	2	4	2	8	10	1	0	
	6月	10	8	2	1	3	2	8	5	0	0	
	7月	34	4	7	2	0	1	12	6	0	1	
	8月	28	1	5	2	0	3	7	3	0	0	
	9月	4	1	4	2	0	0	6	2	0	0	
	10月	48	8	14	2	2	0	14	10	1	2	
	11月	11	1	6	4	8	0	8	6	0	2	
	12月	19	6	3	5	2	3	8	5	0	1	
	1月	17	20	5	1	2	1	7	4	0	0	
	2月	18	34	4	1	1	1	5	3	1	1	
	3月	0	3	6	1	0	0	1	2	0	0	
	合計	293	142	61	27	22	14	91	64	3	7	

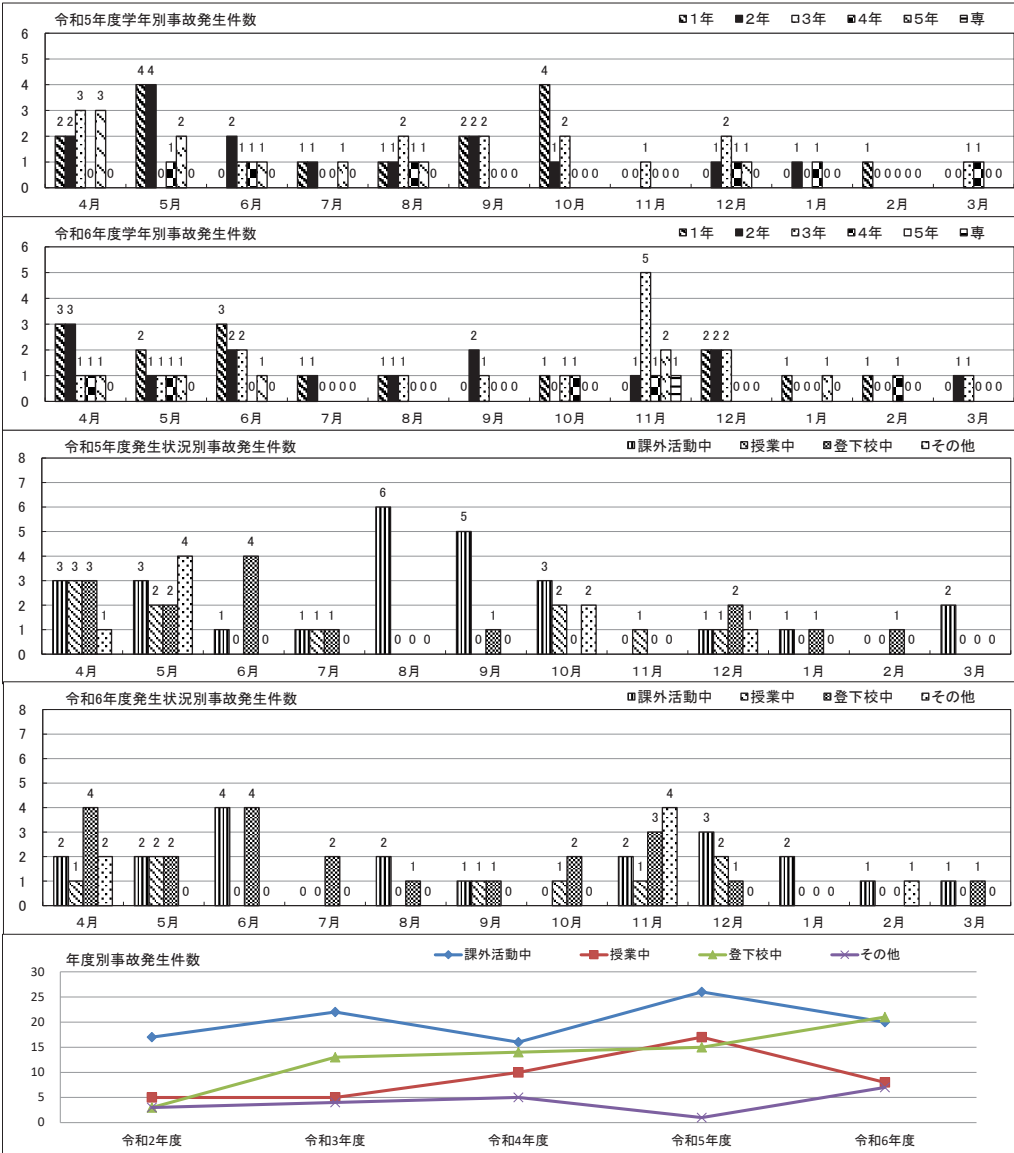
令和6年度 保健室利用学生数

月	区 分	怪 我 等	体調不良等	相 談 等	総 数	登校日数
4		18	30	2	50	19(春季休業)
5		23	22	21	66	20
6		23	20	5	48	20(前期中間試験)
7		19	38	16	73	22(前期末試験)
8		4	1	2	7	2(前期末試験・夏季休業)
9		14	11	8	33	5(夏季休業)
10		29	22	13	64	21
11		23	30	3	56	20(後期中間試験)
12		20	19	1	40	19(後期中間試験・冬季休業)
1		11	13	0	24	18(冬季休業)
2		2	9	1	12	15(学年末試験)
3		3	0	2	5	11(学年末休業)
合計		189	215	74	478	192

保健室利用状況

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
怪 我 等	110	140	171	201	189
体 調 不 良 等	134	178	186	252	215
相 談 等	73	60	93	52	74
合 計	317	378	450	505	478

令和5.6年度 学生事故発生件数



令和5年度事故発生報告(提出された事故報告書に基づく)													
月別学年別								月別発生状況別					
発生月	1年	2年	3年	4年	5年	専	計	発生月	課外活動中	授業中	登下校中	その他	計
4月	2	2	3	0	3	0	10	4月	3	3	3	1	10
5月	4	4	0	1	2	0	11	5月	3	2	2	4	11
6月	0	2	1	1	1	0	5	6月	1	0	4	0	5
7月	1	1	0	0	1	0	3	7月	1	1	1	0	3
8月	1	1	2	1	1	0	6	8月	6	0	0	0	6
9月	2	2	2	0	0	0	6	9月	5	0	1	0	6
10月	4	1	2	0	0	0	7	10月	3	2	0	2	7
11月	0	0	1	0	0	0	1	11月	0	1	0	0	1
12月	0	1	2	1	1	0	5	12月	1	1	2	1	5
1月	0	1	0	1	0	0	2	1月	1	0	1	0	2
2月	1	0	0	0	0	0	1	2月	0	0	1	0	1
3月	0	0	1	1	0	0	2	3月	2	0	0	0	2
総数	15	15	14	6	9	0	59	総数	26	10	15	8	59

	課外活動中	授業中	登下校中	その他	計
令和2年度	17	5	3	3	28
令和3年度	22	5	13	4	44
令和4年度	16	10	14	5	45
令和5年度	26	17	15	1	59
令和6年度	20	8	21	7	56

令和6年度事故発生報告(提出された事故報告書に基づく)													
月別学年別								月別発生状況別					
発生月	1年	2年	3年	4年	5年	専	計	発生月	課外活動中	授業中	登下校中	その他	計
4月	3	3	1	1	1	0	9	4月	2	1	4	2	9
5月	2	1	1	1	1	0	6	5月	2	2	2	0	6
6月	3	2	2	0	1	0	8	6月	4	0	4	0	8
7月	1	1	0	0	0	0	2	7月	0	0	2	0	2
8月	1	1	1	0	0	0	3	8月	2	0	1	0	3
9月	0	2	1	0	0	0	3	9月	1	1	1	0	3
10月	1	0	1	1	0	0	3	10月	0	1	2	0	3
11月	0	1	5	1	2	1	10	11月	2	1	3	4	10
12月	2	2	2	0	0	0	6	12月	3	2	1	0	6
1月	1	0	0	0	1	0	2	1月	2	0	0	0	2
2月	1	0	0	1	0	0	2	2月	1	0	0	1	2
3月	0	1	1	0	0	0	2	3月	1	0	1	0	2
総数	15	14	15	5	6	1	56	総数	20	8	21	7	56

資料 17

入学料免除者数（高専機構）

年 度	申請者数	全額免除	半額免除	不許可
令和2年度	0	0	0	0
令和3年度	0	0	0	0
令和4年度	1	0	0	1
令和5年度	0	0	0	0
令和6年度	0	0	0	0

入学料減免者数（高等教育の修学支援新制度）

年 度	申請者数	満額減免	2/3減免	1/3減免	不認定・辞退
令和2年度	15	4	2	3	6
令和3年度	6	5	0	1	0
令和4年度	11	6	2	2	1
令和5年度	8	6	0	1	1
令和6年度	3	2	1	0	0

資料 18

授業料免除者数

授業料減免者数（高等教育の修学支援新制度）

※令和2年4月から「高等教育の修学支援新制度」（4年生以上の学生（収入等の要件有））に対し、①授業料等の減免（授業料と入学料の免除または減額）と②給付型奨学金の2つの経済支援を行う）が開始。

※減免額については、(1)「第Ⅰ区分：満額（上限の範囲内）」(2)「第Ⅱ区分：第Ⅰ区分の減免額の2/3」
(3)「第Ⅲ区分：第Ⅰ区分の減免額の1/3」(4)「第Ⅳ区分：第Ⅰ区分の減免額の1/4」
(5)「停止：適格認定（家計）により支援対象外」(6)「不認定」(7)「その他」

年 度		申請者数	(1) 全額 減免	(2) 2/3 減免	(3) 1/3 減免	(4) 1/4 減免	(5) 停止	(6) 不認定	(7) その他
令和3年度	前期	67	39	12	7		3	6	0
	後期	65	38	11	9		4	2	1
令和4年度	前期	53	36	6	8		1	1	1
	後期	55	35	7	6		4	2	1
令和5年度	前期	45	29	5	5		3	3	0
	後期	47	32	7	2		5	1	0
令和6年度	前期	51	27	15	3	1	0	5	0
	後期	53	29	13	3	3	3	2	0

授業料免除者数（高専機構）

年 度	前 期				後 期				
	申請者数	全額免除	半額免除	不許可	申請者数	全額免除	半額免除	一部免除	不許可
令和2年度	24	11	11(3)	2	21	9	10(2)	0	2
令和3年度	8	1	5(2)	2(1)	7	1	5	0	1
令和4年度	4	1	2	1	2	1	1	0	0
令和5年度	1	1	0	0	2	2	0	0	0
令和6年度	0	0	0	0	6	0	0	6	0

（ ）が付いている授業料免除者は、「高等教育の修学支援新制度による授業料減免」の免除額が「高専機構による授業料免除」の免除額（不許可含む）より多いため、「高等教育の修学支援新制度による授業料減免」（2/3又は1/3減免）を適用している者。

資料 19

日本学生支援機構貸与奨学生採用者数

	本 科					専 攻 科					採用者数	採用者数
	在学採用 (第一種)	在学採用 (第二種)	緊急採用 (第一種)	応急採用 (第二種)	予約採用	在学採用 (第一種)	在学採用 (第二種)	緊急採用 (第一種)	応急採用 (第二種)	無利子 (第二種)	合計 (第一種)	合計 (第二種)
令和2年度	4	1	0	0	0	2	0	0	0	1	6	2
令和3年度	4	2	0	0	2	3	1	0	0	0	9	3
令和4年度	0	1	0	0	0	0	2	0	0		0	3
令和5年度	7	1	0	0	0	0	0	0	0		7	1
令和6年度	8	0	0	0	0	3	1	0	0		11	1

※予約採用は、中学校で予め申請をし、本校入学後に届け出ることによって採用が決定される。

※第一種・第二種併用申請者等は第一種・第二種それぞれに計上する。

資料 20

日本学生支援機構給付奨学生採用者数

	本 科					専 攻 科					採用者数
	第Ⅰ区分	第Ⅱ区分	第Ⅲ区分	第Ⅳ区分	支給停止	第Ⅰ区分	第Ⅱ区分	第Ⅲ区分	第Ⅳ区分	支給停止	合計
令和3年度	31	9	7	0	3	7	2	2	0	1	58
令和4年度	27	4	6	0	1	9	3	0	0	3	49
令和5年度	20	4	2	0	2	12	4	0	0	1	42
令和6年度	22	10	3	3	1	7	3	0	0	2	48

※令和2年4月から「高等教育の修学支援新制度」（4年生以上の学生（収入等の要件有））に対し、

①授業料等の減免（授業料と入学料の免除または減額）と②給付型奨学金の2つの経済支援を行う）が開始。

資料21

進路状況

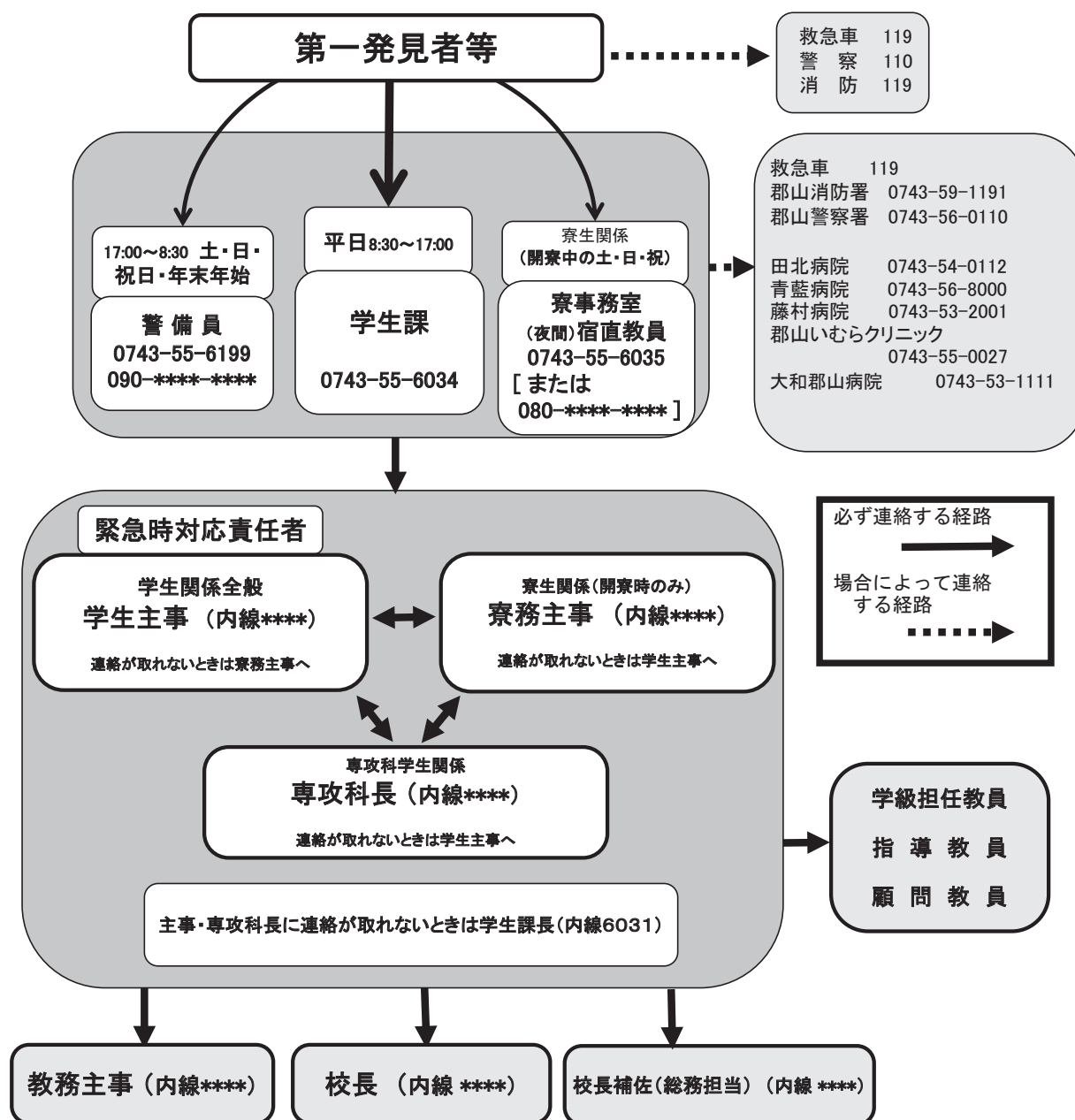
年 度	学 科	卒業生数	求 人		就職者			進学・ その他
			企業数	求人数	民間企業	官公庁	計	
令和2年度	機 械 工 学 科	36	935	260	13	1	14	22
	電 気 工 学 科	48		235	23	0	23	25
	電子制御工学科	34		227	11	0	11	23
	情 報 工 学 科	35		195	15	0	15	20
	物質化学工学科	35		119	13	0	13	22
令和3年度	機 械 工 学 科	32	848	248	18	0	18	14
	電 気 工 学 科	38		209	19	1	20	18
	電子制御工学科	37		215	13	0	13	24
	情 報 工 学 科	39		175	21	0	21	18
	物質化学工学科	32		92	8	0	8	24
令和4年度	機 械 工 学 科	35	894	301	16	1	17	18
	電 気 工 学 科	39		241	14	0	14	25
	電子制御工学科	35		196	12	0	12	23
	情 報 工 学 科	32		180	8	0	8	24
	物質化学工学科	36		114	13	0	13	23
令和5年度	機 械 工 学 科	43	1024	315	22	1	23	20
	電 気 工 学 科	35		236	14	0	14	21
	電子制御工学科	31		285	11	0	11	20
	情 報 工 学 科	39		236	20	0	20	19
	物質化学工学科	38		125	9	0	9	29
令和6年度	機 械 工 学 科	36	917	281	16	0	16	20
	電 気 工 学 科	37		204	16	0	16	21
	電子制御工学科	42		227	25	1	26	16
	情 報 工 学 科	37		200	20	2	22	15
	物質化学工学科	39		123	14	0	14	25

單車通学許可申請者

	学 年	申請者数	許可数
令和2年度	2	0	0
	3	4	2
	4	3	3
	5	2	2
	専攻科	10	10
	合 計	19	17
令和3年度	2	1	0
	3	3	3
	4	2	1
	5	3	3
	専攻科	9	9
	合 計	18	16
令和4年度	2	1	0
	3	6	5
	4	4	3
	5	1	1
	専攻科	11	11
	合 計	23	20
令和5年度	2	0	0
	3	1	1
	4	6	6
	5	2	2
	専攻科	6	6
	合 計	15	15
令和6年度	2	0	0
	3	2	0
	4	2	1
	5	8	8
	専攻科	4	4
	合 計	16	13

奈良高専学生関係事故等緊急時連絡ルート

(図中「内線」は令和6年8月現在の対象教員研究室の内線電話番号)



- 事故等の第一発見者は、生命の安全に留意し現場対応(救急車要請、警察通報)を行うとともに、速やかに関係部署へ連絡し応援を求める。
- 緊急時対応責任者は、状況に応じ速やかに校長に報告するとともに、関係教職員とともにその対応に当たる。
- 緊急時には次のことに留意する。
 - (1) 生命の維持を最優先し、全教職員が適切な応急措置、救急体制がとれるように周知しておく。
 - (2) 冷静で的確な判断と指示をする。
 - (3) 救急車が必要だと判断した際には、直ちに救急車の要請を行う。
 - (4) けが等で病院に搬送するときは、緊急時を除き、保護者の意向を確認する。
 - (5) 事故について、保護者に事故発生状況、程度、今後の対応など詳細に納得のいく説明をする。
 - (6) 事故等緊急時連絡チェックリスト(別記)により関係教職員等に確実に連絡する。
 - (7) 緊急時対応責任者は、経過及び対応を簡潔かつ正確に記録しておく(またはその指示をする)。

資料 2 4

学生委員会違反件数

() は関係者数

年 度 違反・事件内容	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
無許可単車・自動車通学 免許取得要項違反	4	(4)	4	(4)	4	(4)	8	(8)	2	(4)
交通違反・事故	21	(20)	39	(39)	105	(105)	73	(76)	38	(40)
不祥事件 (条例違反・窃盗・不正利用等)	4	(4)	2	(4)	5	(5)	6	(6)	7	(7)
暴力・脅迫行為	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
合 計	29	(28)	45	(47)	114	(114)	87	(90)	47	(51)

資料25

寮生数推移調(令和2年度～令和6年度)

令和2年度		4 月		1 0 月		令和3年度		4 月		1 0 月	
	学 年	男 子	女 子	男 子	女 子		学 年	男 子	女 子	男 子	女 子
	1年	21	6	23	7		1年	20	9	20	9
	2年	16	4	16	3		2年	22	6	20	6
	3年	21 (3)	5 (1)	21 (3)	5 (1)		3年	15 (3)	3	13 (3)	2
	4年	17 (2)	4	17 (2)	4		4年	19 (3)	5 (1)	16 (3)	4 (1)
	5年	18 (4)	5	17 (4)	5		5年	17 (2)	4	15 (2)	4
	小計	93 (9)	24 (1)	94 (9)	24 (1)		小計	93 (8)	27 (1)	84 (8)	25 (1)
	合計	117 (10)		118 (10)			合計	120 (9)		109 (9)	

令和4年度		4 月		1 0 月		令和5年度		4 月		1 0 月	
	学 年	男 子	女 子	男 子	女 子		学 年	男 子	女 子	男 子	女 子
	1年	23	8	23	9		1年	17	6	17	6
	2年	20	9	20	9		2年	22	8	22	8
	3年	21 (2)	7 (1)	20 (2)	7 (1)		3年	20 (1)	9 (1)	20 (1)	9 (1)
	4年	11 (3)	2	10 (3)	2		4年	16 (2)	8 (1)	15 (2)	8 (1)
	5年	14 (3)	3 (1)	9 (3)	3 (1)		5年	9 (3)	2	8 (3)	2
	小計	89 (8)	29 (2)	82 (8)	30 (2)		小計	84 (6)	33 (2)	82 (6)	33 (2)
	合計	118 (10)		112 (10)			合計	117 (8)		115 (8)	

令和6年度		4 月		1 0 月	
	学 年	男 子	女 子	男 子	女 子
	1年	20	7	21	7
	2年	17	5	16	5
	3年	23 (3)	8 (1)	23 (3)	8 (1)
	4年	20 (2)	9 (1)	20 (2)	9 (1)
	5年	15 (1)	8 (1)	14 (1)	8 (1)
	小計	95 (6)	37 (3)	94 (6)	37 (3)
	合計	132 (9)		131 (9)	

※ ()は留学生で内数

※ 短期留学生を除く

学 寮 の 日 課 表

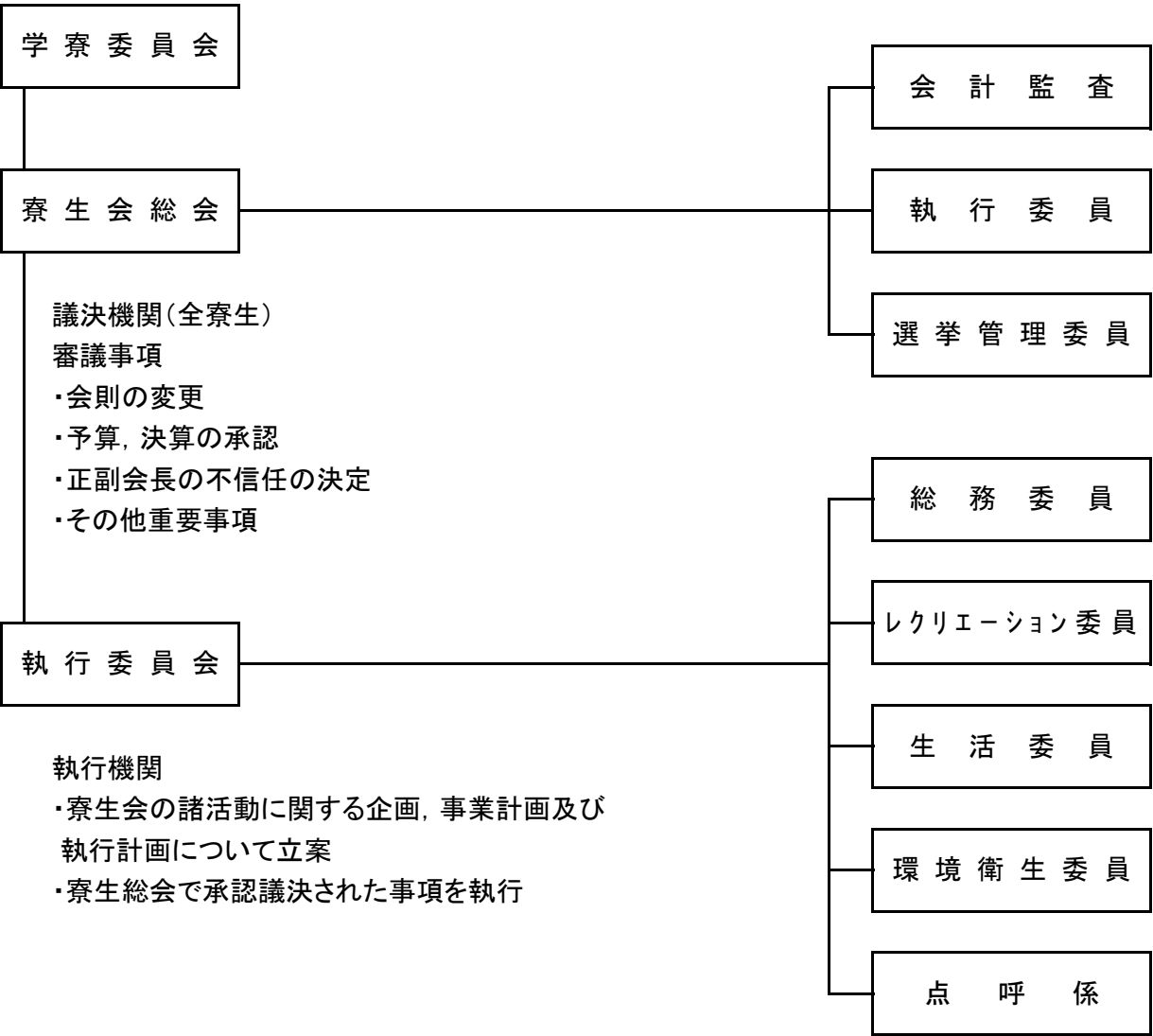
寮生は、基本的に以下の日課表に従って自主的に規則正しい生活をしなければならない。

時 間		内 容
男 子	女 子	
7:00	7:00	起床
7:00 ～ 7:25	7:00 ～ 7:25	清掃
7:30	7:25	点呼報告
7:50	7:50	朝食を知らせる放送
7:50 ～ 8:30	7:50 ～ 8:30	朝食時間
8:30 ～ 8:40	8:30 ～ 8:40	食堂の片づけ
12:10 ～ 13:00	12:10 ～ 13:00	昼食時間
17:30 ～ 19:15	17:30 ～ 19:15	夕食時間
18:30 ～ 21:30	18:00 ～ 21:00	入浴時間
21:30	21:30	門限
22:00	21:30	点呼報告
23:30	23:30	1年生の消灯時間
1:00	1:00	全寮棟の消灯時間

備考

- ◎ 消灯時刻は、定期試験の1週間前から試験最終日までは自由とする。

寮 生 会 の 組 織



学寮の年間行事(令和6年度)

月	諸行事
4月	開寮, 寮生集会, 入寮式, 新入寮生歓迎会
5月	連休に伴う閉寮, 開寮, 寮生集会, 春季スポーツ大会, 避難訓練
6月	1年生寮生保護者との懇談会
7月	寮祭, 寮通信の発行
8月	大掃除, 夏季休業による閉寮
9月	開寮, 寮生集会, 1年生部屋替え
10月	寮長・副寮長選挙
11月	
12月	秋季スポーツ大会, 避難訓練, 5年生と語る会, 大掃除, 寮通信の発行, 冬季休業による閉寮
1月	開寮, 寮生集会, 留学生と語る会
2月	学寮送別会, 学年末・春季休業による閉寮
3月	寮通信の発行, 入寮予定者オリエンテーション

専攻科入学者選抜方法

年 度	選 抜 方 法 ・ 日 程		
令和3年度	推 薦 5月14日(木)	学 力 検 査 9月5日(土)	社 会 人 9月23日(水)
令和4年度	推 薦 5月20日(木)	学 力 検 査 6月12日(土)	社 会 人 9月22日(水)
令和5年度	推 薦 5月19日(木)	学 力 検 査 6月18日(土)	社 会 人 9月21日(水)
令和6年度	推 薦 5月18日(木)	学 力 検 査 6月17日(土)	社 会 人 9月20日(水)
令和7年度	推 薦 5月16日(木)	学 力 検 査 6月15日(土)	社 会 人 9月19日(木)

※1 令和3年度推薦選抜 新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み面接は実施せず

※2 令和3年度学力選抜 新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み選抜期日を6月13日(土)から9月5日(土)に変更した

年度別専攻科入学状況

年度	専攻名	コース名	入学定員	志願倍率	志願者	合格者	入学者	入学者の出身高専別内訳 ()は社会人で内数
令和3年度	システム創成工学	機械制御システムコース	12	1.6	19	14	12	本校 12
		電気電子システムコース	6	2.5	15	12	10	本校 9 他高専 1
		情報システムコース	6	2.0	12	10	9	本校 9
	物質創成工学	-	6	2.0	12	9	9	本校 9
	合 計		30	1.9	58	45	40	本校 39 他高専 1
令和4年度	システム創成工学	機械制御システムコース	12	1.7	20	15	11	本校 10 他高専 1
		電気電子システムコース	6	3.2	19	12	8	本校 8
		情報システムコース	6	2.0	12	9	8	本校 8
	物質創成工学	-	6	2.3	14	12	10	本校 10
	合 計		30	2.2	65	48	37	本校 36 他高専 1
令和5年度	システム創成工学	機械制御システムコース	12	2.0	24	16	14	本校 13 他高専 1
		電気電子システムコース	6	2.8	17	13	10	本校 10
		情報システムコース	6	3.2	19	14	11	本校 11
	物質創成工学	-	6	2.0	12	9	7	本校 7
	合 計		30	2.4	72	52	42	本校 41 他高専 1
令和6年度	システム創成工学	機械制御システムコース	12	1.7	20	16	11	本校 11
		電気電子システムコース	6	2.5	15	11	9	本校 8 他高専 1
		情報システムコース	6	2.8	17	12	11	本校 11
	物質創成工学	-	6	1.7	10	10	8	本校 8
	合 計		30	2.1	62	49	39	本校 38 他高専 1
令和7年度	システム創成工学	機械制御システムコース	12	1.8	22	17	12	本校 12
		電気電子システムコース	6	2.8	17	11	8	本校 8
		情報システムコース	6	2.2	13	9	8	本校 8
	物質創成工学	-	6	2.7	16	12	8	本校 8
	合 計		30	2.3	68	49	36	本校 36 他高専 0

資料 3 1

専攻科学力検査科目と学力検査の日時及び検査場（令和 7 年度）

区 分			出 題 分 野（内 容）
各専攻共通（一般科目）			数学（微分積分，線形代数）
専 門 科 目	システム創成 工学専攻	機械制御システムコ ース	熱・水力学，材料力学，電気回路 以上 3 分野から 2 分野選択
		電気電子システムコ ース	電気電子工学（電磁気学，電気回路，アナ ログ電子回路）
		情報システムコース	情報工学（論理回路，情報数学，情報理論， データ構造とアルゴリズム，プログラミング， 計算機ネットワーク）
	物質創成工学専攻		化学工学（流動，伝熱，物質移動）， 物理化学（熱力学及び反応速度論）， 無機化学（元素の性質，化学結合論，固体 化学）， 分析化学（酸塩基平衡，沈殿平衡，錯生成 平衡，分配平衡，酸化還元平衡）， 有機化学（脂肪族及び芳香族化合物）， 生物化学（生体成分及び代謝） 以上 6 分野から 3 分野選択

（学力検査）

月 日	時 間	科 目 等	検 査 場
6 月 1 5 日（土）	9：10～10：10	数 学	奈良工業高等専門学校
	10：30～12：30	専門科目	
	13：30～	面 接	

令和6年度 専攻科授業時間割

[illegible]

資料 3 3

専攻科特別講演会

回	日 時	講演者職名	演 題
22	平成 23 年 12 月 16 日(金) 13:00～14:30	日本資材(株)取締役社長	企業における研究の目的と研究員の姿勢
23	平成 25 年 1 月 25 日(金) 13:00～14:30	豊橋技術科学大学教授	センサと LSI の融合が導くイノベーション
24	平成 25 年 12 月 20 日(金) 14:40～16:10	大阪大学大学院教授	再生医療実用化の現状と取り組みについて
25	平成 26 年 10 月 10 日(金) 13:00～14:35	近畿大学水産研究所 所長・特任教授	クロマグロの完全養殖技術の開発と産業化
26	平成 27 年 11 月 13 日(金) 13:00～14:35	京都大学医学部附属病院 医療情報企画部 助教	コンピュータが視る世界, コンピュータが描く世界
27	平成 28 年 12 月 8 日(木) 14:40～16:15	東レ(株) 先端材料研究所 新エネルギー材料研究室室長 リサーチフェロー/工務技監	新素材研究と医療・環境分野への適用
28	平成 29 年 11 月 30 日(木) 14:40～16:15	奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 准教授	試行錯誤で行動を学習する人工知能ロボットの進化
29	平成 30 年 10 月 18 日(木) 14:40～16:15	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科教授	スピン電子工学：入門
30	令和元年 12 月 12 日(木) 15:00～16:30	大阪大学院情報科学研究科 情報数理学専攻 情報フォトニクス講座 助教	コンピューテーショナルイメージング
31	令和 3 年 1 月 21 日(木) 15:00～16:30	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 情報科学領域 ソフトウェア工学研究室助教	ソフトウェアエコシステム研究：ドキュメンテーション・オープンサイエンス・エコノミクス
32	令和 3 年 11 月 11 日(木) 14:50～16:20	山本光学株式会社 執行役員 開発部 部長	現場主義と一気通貫のものづくり
33	令和 4 年 11 月 10 日(木) 15:00～16:00	株式会社アンド 技術顧問	高専卒業後から現在まで
34	令和 5 年 11 月 9 日(木) 14:50～16:20	奈良工業高等専門学校 電気工学科 研究員	電気化学を活用した“ものづくり”
35	令和 6 年 11 月 7 日(木) 14:40～16:10	大阪国際工科専門職大学 副学長	ロボカップと認知発達ロボティクスの提唱推進とその拡張応用

専攻科修了者の進路

奈良工業高等専門学校

年度	専攻名		進 路				
			就 職	進 学	そ の 他		
R2	システム創成工学	機械制御システムコース	ソフトバンク(株)	1 奈良先端科学技術大学院大学	5	未定	3
			(株)トクビ製作所	1 大阪大学大学院	3		
				京都大学大学院	1		
				同志社大学大学院	1		
			計	2	10	計	3
		電気電子システムコース	近畿日本鉄道(株)	1 大阪大学大学院	3	未定	2
			寺崎電気産業(株)	1 奈良先端科学技術大学院大学	3		
			パナソニック(株)インダストリアルソリューションズ社	1 東京工業大学大学院	2		
				同志社大学大学院	1		
			計	3	9	計	2
	情報システムコース	アステック(株)	2 奈良先端科学技術大学院大学	3	未定	3	
		(株)アイティフォー	1				
(株)AHIRU		1					
	計	4	3	計	3		
物質創成工学			奈良先端科学技術大学院大学	6			
			京都大学大学院	1			
			神戸大学大学院	1			
		大阪大学大学院	1				
	計	0	9	計	0		
計		9	31		8		

奈良工業高等専門学校

年度		専攻名		進路			
				就 職	進 学	そ の 他	
R3	システム創成工学	機械制御システムコース	日立造船(株)	1	大阪大学大学院	4	
			(株)小松製作所	1	奈良先端科学技術大学院大学	3	
			新明和工業(株)	1	東北大学大学院	1	
			(株)アル テクナ	1	京都工芸繊維大学大学院	1	
			計	4	計	9	計
		電気電子システムコース	大阪ガス(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	2	
			ヤンマーホールディングス(株)	1	東北大学大学院	2	
			(株)ビーネックスソリューションズ	1	北陸先端科学技術大学院大学	1	
			日立造船(株)	1	東京工業大学大学院	1	
			TBSアクト(株)	1	大阪大学大学院	1	
			パナソニック(株)エレクトリックワークス	1			
			(株)中央エンジニアリング	1			
		計	7	計	7	計	0
		情報システムコース	(株)マネーフォワード	1	奈良先端科学技術大学院大学	10	
			大研医器(株)	1			
			(株)NTTデータSBC	1			
			(株)はてな	1			
		計	4	計	10	計	0
	物質創成工学	出光興産(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	2		
		三菱ガス化学(株)	1	北海道大学大学院	1		
		旭化成(株)	1				
		住友電気工業(株)	1				
		計	4	計	3	計	0
	計		19		29		

奈良工業高等専門学校

年度	専攻名		進路					
			就 職	進 学	そ の 他			
R4	システム創成工学	機械制御システムコース	オーツェイド(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	2	未定	1
			ファナック(株)	1	大阪大学大学院	1		
			(同)日本テキサスインスツルメンツ	1				
			オムロン(株)	1				
			大阪ガス(株)	1				
			ジョンソンコントロールズ(株)	1				
			中西金属工業(株)	1				
			(株)イトーキ	1				
			ダイキン工業(株)	1				
			東京ロボティクス(株)	1				
		計	10	計	3	計	1	
		電気電子システムコース	アイテック 阪急阪神(株)	1	大阪大学大学院	2		
	パナソニック(株)		1	奈良先端科学技術大学院大学	1			
	くらしアプライアンス社		1	京都大学大学院	1			
	ダイダン(株)		1	東北大学大学院	1			
	豊橋技術科学大学 研究員	1	岡山大学大学院	1				
	計	4	計	6	計	0		
	情報システムコース	ソニーグローバルマニュファクチュアリング＆オペレーションズ(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	4	未定	1	
		(株)ハイマックス	1					
		eBASE(株)	1					
		(株)ティジエル	1					
		(株)KMS	1					
計		5	計	4	計	1		
物質創成工学	(株)呉竹	1	京都大学大学院	2				
	日東電工(株)	2	奈良先端科学技術大学院大学	1				
			筑波大学大学院	1				
			大阪大学大学院	1				
			九州大学大学院	1				
計	3	計	6	計	0			
計		22		19		2		

奈良工業高等専門学校

年度		専攻名	進 路			
			就 職	進 学	そ の 他	
R5	システム創成工学	機械制御システムコース	(株)クボタ	1 東北大学大学院	1	
			JFEプラントエンジニア(株)	1 大阪大学大学院	1	
			奈良県職員	1 京都工芸繊維大学大学院	1	
			日本電気硝子(株)	1 奈良先端科学技術大学院大学	2	
			パナソニックインダストリー(株)	1		
			パナソニックエンターテインメント&コミュニケーション(株)	1		
			計	6	5	計 0
		電気電子システムコース	エース音響(株)	1 豊橋技術科学大学大学院	1	
			大阪ガスネットワーク(株)	1 金沢大学大学院	1	
			日東電工(株)	1 奈良先端科学技術大学院大学	1	
			(株)日立製作所	1		
			計	4	3	計 0
		情報システムコース	東日本電信電話(株)	1 筑波大学大学院	2 奈良高専研究生	1
				奈良先端科学技術大学院大学	4	
			計	1	6	計 1
	物質創成工学	アクア化学(株)	1 大阪大学大学院	1		
		太陽日酸(株)	1 神戸大学大学院	1		
		日揮グローバル(株)	1 奈良女子大学大学院	1		
		パナソニックインダストリー(株)	2 奈良先端科学技術大学院大学	1		
		(株)村田製作所	1			
		計	6	4	計 0	
		計	17	18		

年度	専攻名		進路					
			就 職	進 学	そ の 他			
R6	システム創成工学	機械制御システムコース	サントリーホールディングス	1	長岡技術科学大学大学院	1	奈良高専研究生	1
			藤田油機	1	東北大学大学院	1		
					大阪大学大学院	2		
					静岡大学大学院	1		
					京都工芸繊維大学大学院	1		
					九州工業大学大学院	1		
					奈良先端科学技術大学院大学	3		
			計	2	計	10	計	1
		電気電子システムコース	キャノンメディカルシステムズ	1	東北大学大学院	2		
			J-POWERハイテック	1	九州大学大学院	1		
					千葉大学大学院	1		
					金沢大学大学院	1		
				徳島大学大学院	1			
			奈良先端科学技術大学院大学	1				
		九州工業大学大学院	1					
計	2	計	8	計	0			
情報システムコース	NECネットエスアイ	1	大阪大学大学院	1				
	西日本電信電話	1	奈良先端科学技術大学院大学	5				
	パナソニックプロダクションエンジニアリング	1						
	MUGENUP	1						
	レアゾンホールディングス	1						
	計	5	計	6	計	0		
物質創成工学	天野エンザイム	1	京都大学大学院	2				
	デンソー	1	奈良先端科学技術大学院大学	1				
	三井化学分析センター	1						
	LIXIL	1						
	計	4	計	3	計	0		
計		13	27		1			

奈良高専JABEE修了者進路状況

平成17年度												平成18年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
4	8	0	12	2	6	0	8	2	3	0	5	9	6	1	16	2	11	1	14	2	3	0	5
33.3%	66.7%	0.0%		25.0%	75.0%	0.0%		40.0%	60.0%	0.0%		56.3%	37.5%	6.3%		14.3%	78.6%	7.1%		40.0%	60.0%	0.0%	

平成19年度												平成20年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
2	12	1	15	6	11	0	17	3	4	0	7	6	11	3	20	7	8	1	16	3	3	0	6
13.3%	80.0%	6.7%		35.3%	64.7%	0.0%		42.9%	57.1%	0.0%		30.0%	55.0%	15.0%		43.8%	50.0%	6.3%		50.0%	50.0%	0.0%	

平成21年度												平成22年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
3	8	1	12	4	4	2	10	3	5	0	8	11	9	0	20	5	10	1	16	2	2	0	4
25.0%	66.7%	8.3%		40.0%	40.0%	20.0%		37.5%	62.5%	0.0%		55.0%	45.0%	0.0%		31.3%	62.5%	6.3%		50.0%	50.0%	0.0%	

平成23年度												平成24年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
9	8	0	17	3	8	2	13	2	8	0	10	8	6	0	14	6	6	1	13	4	3	0	7
52.9%	47.1%	0.0%		23.1%	61.5%	15.4%		20.0%	80.0%	0.0%		57.1%	42.9%	0.0%		46.2%	46.2%	7.7%		57.1%	42.9%	0.0%	

平成25年度												平成26年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
7	7	0	14	6	13	1	20	5	6	0	11	2	12	0	14	10	7	0	17	2	5	0	7
50.0%	50.0%	0.0%		30.0%	65.0%	5.0%		45.5%	54.5%	0.0%		14.3%	85.7%	0.0%		58.8%	41.2%	0.0%		28.6%	71.4%	0.0%	

平成27年度												平成28年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
3	7	0	10	3	12	0	15	2	7	0	9	1	9	0	10	2	10	0	12	0	8	0	8
30.0%	70.0%	0.0%		20.0%	80.0%	0.0%		22.2%	77.8%	0.0%		10.0%	90.0%	0.0%		16.7%	83.3%	0.0%		0.0%	100.0%	0.0%	

平成29年度												改組前 累計											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
7	10	0	17	5	12	1	18	2	11	0	13	72	113	6	191	61	118	10	189	32	68	0	100
41.2%	58.8%	0.0%		27.8%	66.7%	5.6%		15.4%	84.6%	0.0%		37.7%	59.2%	3.1%		32.3%	62.4%	5.3%		32.0%	68.0%	0.0%	

平成30年度												令和元年度											
システム創成工学専攻(SI専攻)												システム創成工学専攻(SI専攻)											
AMコース				AEコース				AIコース				AMコース				AEコース				AIコース			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
3	11	1	15	1	6	0	7	4	3	0	7	2	9	0	11	0	6	0	6	5	5	0	10
20.0%	73.3%	6.7%		14.3%	85.7%	0.0%		57.1%	42.9%	0.0%		18.2%	81.8%	0.0%		0.0%	100.0%	0.0%		50.0%	50.0%	0.0%	

令和2年度												令和3年度											
システム創成工学専攻(SI専攻)												システム創成工学専攻(SI専攻)											
AMコース				AEコース				AIコース				AMコース				AEコース				AIコース			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
2	10	3	15	3	9	2	14	4	3	3	10	3	9	0	12	5	6	0	11	4	10	0	14
13.3%	66.7%	20.0%		21.4%	64.3%	14.3%		40.0%	30.0%	30.0%		25.0%	75.0%	0.0%		45.5%	54.5%	0.0%		28.6%	71.4%	0.0%	

資料 3 6

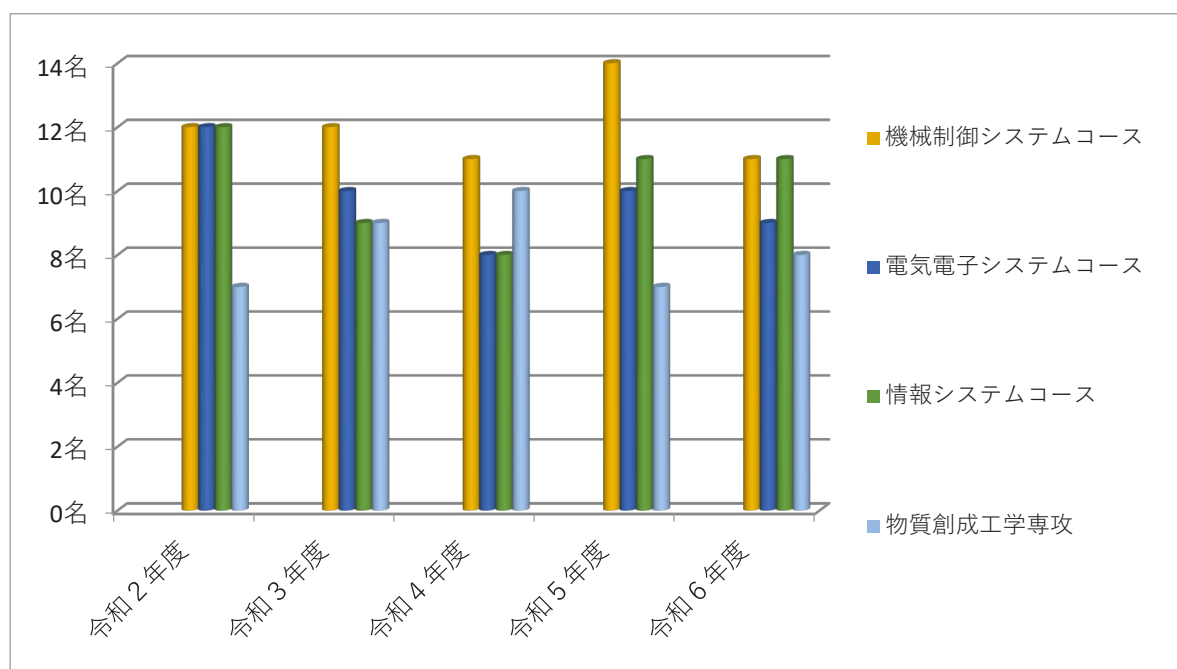


図 専攻科入学者数の推移

資料 37

企業・大学等インターンシップ参加者数（専攻科・延べ人数）

年 度	システム創成工学専攻			物質創成 工学専攻	合 計
	機械制御 システム コース	電気電子 システムコ ース	情報 システムコ ース		
令和2年度	4	2	1	1	8
令和3年度	5	10	3	0	18
令和4年度	11	10	8	6	35
令和5年度	12	15	9	5	41
令和6年度	10	8	11	5	34

※海外インターンシップ含む

資料 38

専攻科生の論文等の学会発表件数

発 表 先	年 度	機械制御システムコース	電気電子システムコース	情報システムコース	物質創成工学専攻	合 計
学術雑誌論文	令和2年度	3	1	0	3	7
	令和3年度	1	1	1	0	3
	令和4年度	4	0	1	0	5
	令和5年度	1	2	1	0	4
	令和6年度	6	1	1	0	8
国際学会発表	令和2年度	4	1	5	3	13
	令和3年度	13	0	1	3	17
	令和4年度	8	2	4	9	23
	令和5年度	5	3	2	5	15
	令和6年度	11	3	6	1	21
国内学会発表※	令和2年度	19	12	16	23	70
	令和3年度	13	23	15	19	70
	令和4年度	11	18	25	24	78
	令和5年度	16	20	17	22	75
	令和6年度	22	13	17	19	71
その他 (特許，研究紀 要，解説等)	令和2年度	2	0	0	0	2
	令和3年度	1	0	0	0	1
	令和4年度	0	0	0	0	0
	令和5年度	0	0	0	0	0
	令和6年度	0	0	0	0	0

※国内で開催された国際学会での発表は、国際学会発表欄に含めるものとする

専攻科生の学外表彰実績

所属	学生氏名	タイトル	授与機関・学会議名	
			賞名	
システム創成工学専攻	機械制御システムコース	谷口 真爽 開放型楕円容器の形状が衝撃波集束時の圧力勾配に与える影響	日本設計工学会関西支部2023年度研究発表講演会 B2-2	
			学生優秀発表賞	
		荒深 健伍 AI-OCR を用いた電子部品の印字検査システム	電子情報通信学会関西支部第28回学生会研究発表講演会	
			奨励賞	
		坂倉 哲史 対向壁を有する反射衝撃波の閉じ込め現象に関する数値解析	日本設計工学会関西支部2024年度研究発表講演会 B3-2	
			学生優秀発表賞	
		坂倉 哲史 Numerical Analysis of Confinement Phenomenon with Reflected Shock Waves by Opposing Wall	The 14th TSME International Conference on Mechanical Engineering	
			Best Paper Runner-Up Award	
	電気電子システムコース	西井文流 シリカコートFe-B微粒子を用いたFe-B/エポキシ複合膜の作製	表面技術協会関西支部 第26回関西表面技術フォーラム	
			研究奨励賞	
	情報システムコース	青木 晃汰 差分構文木を用いたプログラミング授業受講者のコーディング特徴の自動抽出	ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2024	
			インタラクティブポスター賞	
		徳田 翔 Development of Lifting Type CO2 Measuring System for Plant Growth Analysis	Proceedings of the 12th IIAE International Conference on Industrial Application Engineering 2024	
			Best Poster Award	
		杉山 咲 Consideration for the Relationship between LSI Testability and Centrality Measures in Network Analysis	The 13th IIAE International Conference on Industrial Application Engineering 2025	
			Best Student Paper Award	
		島岡 宏彰 スタンダードセルスキャンC素子を用いたスキャン設計フローの確立	令和6年度第3ブロック専攻科研究フォーラム	
			優秀賞	
	島岡 宏彰 An Implementation of Standard Cell C-element and Scan C-element		The 13th IIAE International Conference on Industrial Application Engineering 2025	
			Best Poster Award	
物質創成工学専攻	縄手 祥希 ホスホニウムイオン液体電解質中におけるLIB用グラファイト負極特性の評価		2024年度 第3会関西電気化学研究会	
			2024年度 関西電気化学奨励賞	
	縄手 祥希 ホスホニウムイオン液体電解質中におけるLIB用グラファイト負極特性評価		第 14 回高専-TUT 太陽電池合同シンポジウム	
			優秀口頭発表賞	
	庄野 光咲 PMMA膜におけるタンパク質の相互作用の解明		化学工学会第90年会	
			学生奨励賞	

第2章 研究に関する評価関係

科学研究費等受入実績調べ

(単位:件、円)

学 科 名	科学研究費補助金 外数(研究分担金)		共 同 研 究 (産学連携等研究費)		受託研究・受託事業 (産学連携等研究費)		補 助 金 事 業		奨 学 寄 付 金		う ち 県 内		う ち 県 外	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
令和2年度	21 (14)	21,132,163 【6,120,000】 (2,920,000) 【876,000】	25	18,386,280	8	82,910,278	12	181,197,588	76	9,681,000	29	4,276,000	47	5,405,000
令和3年度	25 (13)	31,788,197 【9,272,460】 (2,041,000) 【612,300】	14	10,570,000	5	38,882,999	8	15,950,000	65	14,234,000	29	3,254,000	36	10,980,000
令和4年度	27 (15)	23,310,000 【6,780,000】 (3,280,960) 【984,288】	13	6,985,000	8	29,263,000	6	5,700,000	76	17,916,000	35	12,420,000	41	5,496,000
令和5年度	25 (12)	24,380,000 【6,870,000】 (2,575,000) 【772,500】	21	17,127,000	13	38,853,294	4	7,200,000	153	19,194,400	74	9,780,000	79	9,414,400
令和6年度	22 (11)	24,930,000 【7,110,000】 (2,505,000) 【742,500】	22	14,963,000	9	4,661,056	5	3,350,000	300	30,345,000	135	13,150,000	165	17,195,000

外数【間接経費】

令和6年度科学研究費採択状況一覧

『配分額』は学内受入総額(学外分担者分除く直接+間接)を指す。

年度	種別	申請数	採択数	採択率	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	氏名	種別	配分額(千円)	課題番号	課	題
6年度	特別推薦研究	0	0	-			山田 裕久	新規	8,970	24K01617		水系LiBを実現させる負極疑似SEI用新規機能性Li/LiLPBハイブリッド膜の検討
	新学術領域研究	0	0	-			新井 由美	期間延長	0	20K00288		新聞小説を視座とする大正末～昭和戦前期の文学環境に関する基礎的研究
	学術変革領域研究(A)	0	0	-			宇田 亮子	期間延長	0	21K05219		標的がん細胞の殺傷と同時検出を可能にするpH応答性分子含有リボソームの開発
	学術変革領域研究(B)	0	0	-			道本 祐子	継続	650	21K00805		日本人EFL学習者の英語産出における統語構造の複雑性の発達
	基礎研究(S)	0	0	-			藤田 直幸	継続	910	21K04162		100MHz動作を狙ったサブミクロン軟磁性微粒子内包アルミニウムナノプレートの創成
	基礎研究(A)	0	0	-			上野 秀剛	継続	780	21K11842		生体情報を用いたプログラム理解のマイクロプロセス分析
	基礎研究(B)	2	1	50.0%	8,100	2,430	酒井 史敏	継続	910	22K04005		機械システムに対する反復学習同定法のためのパラメータ空間表現
	基礎研究(C)	50	15	30.0%	0	0	顯谷 智也子	継続	520	22K02908		協働学習におけるグループ構成パターンの構築と学習活性度の定量的効果測定の研究
					500	150	戸原 佑樹	継続	650	22K04147		電離圏直・水平構造観測を実現するロケットGNSS-TECトモグラフィ
					700	210	林 啓太	継続	858	22K04820		表面電位制御ベンシクルテンプレート法によるメッシュ状中空シリカ粒子の調製
					800	240	石丸 裕士	継続	910	22K03014		客観指標に基づいたポストコロ対応型グループ学習による高専生命科学授業の開発
					2,100	630	谷口 幸典	継続	2,730	22K03614		圧粉成形における非線形壁面摩擦率のモデル化とその数値解析への実装
					100	30	松尾 賢一	継続	130	23K02675		採点済み答案画像内の自由手書きされた回答文字の認識を可能にする前処理の実現
					600	180	直江 一光	継続	780	23K04483		ドライ培養液を用いた気相中での水素細菌培養によるCO2からの新規物質生産プロセス
					1,700	510	新井 由美	新規	2,210	24K03682		木村往八未公開自筆資料を基盤とした大衆文化形成過程の解明に関する領域横断的研究
					1,200	360	平 俊男	新規	1,560	24K07282		「力の流れ」に着目した力学的感性的の解明(深層学習アブローチによる実証的考察)
					1,800	540	中村 秀美	新規	2,340	24K15364		半導体製造プロセスで生じる金属廃棄物からの有価金属リサイクルシステムの構築
					1,100	330	宇田 亮子	新規	1,430	24K08608		グアニン四重鎖トポロジ認識のための酸性環境応答型ロープの分子設計
	挑戦的研究(開拓)	0	0	-								
	挑戦的研究(萌芽)	4	0	0.0%								
	若手研究	4	2	50.0%	400	120	板倉 和裕	継続	520	22K18085		ナードラ・モーディー政権下のインドにおけるムスリムの政治運動
					500	150	頭師 孝拓	継続	650	23K13163		CubeSatによる多点同時観測を可能にする超小型・省電力なプラズマ波動受信器
	研究活動スタート支援	2	1	50.0%	1,100	330	永井 歩美	継続	1,430	23K19128		大トルク3次元構造SRモータの回転方向制御とハイブリッド回転モータへの応用
	特別研究員奨励費	0	0	-								
	研究成果公開発表(ひらめき☆ときめきサイエンス)	2	1	50.0%	320	-	玉木 隆幸	新規	320	24HT0162		光加工を探索る"光で透明な材料は削れるか?"
	奨励研究	6	2	33.3%	460	-	福田 龍一	新規	460	24H02488		現実での体験があるから仮想空間での設計が活きる。現実-仮想空間ギャップ教材の開発
					450	-	加藤 綾子	新規	450	24H02479		化学発光で光の三原色を実現する深求型STEM実験教育の実践と効果の検証
	小計(代表)	70	22	31.4%	24,930	7,110			30,168			
	基礎研究(A) 研究分担者				20	6	板倉 和裕	継続	26	22H00049		分権化と集権化の政治学: インド28州から見る「民主主義」の展開と再生への道
	基礎研究(B) 研究分担者				55	17	上島 智弘	継続	72	23K20126		防災・災害復興に向けた地図・絵図資料の歴史GISデータ化
	基礎研究(B) 研究分担者				270	81	大谷 真弘	継続	351	23K21705		遅延時間がネットワークダイミクスに誘発させる安定化・多様化の基礎と革新的応用
	基礎研究(B) 研究分担者				200	60	岩田 大志	継続	260	23K23734		XR(リアル・バーチャル)太陽光型植物工場システムの開発
	基礎研究(B) 研究分担者				350	105	板倉 和裕	継続	455	23K28318		グローバル・アジェンダと国内政治: インドにおけるSDGs政策過程の比較分析
	基礎研究(C) 研究分担者	11	11	100.0%	250	75	新井 由美	継続	325	22K00289		日本近代文学と近代絵画の関係を中心とする学術領域横断的研究
	基礎研究(C) 研究分担者				30	30	新井 由美	継続	30	20K00346		新聞小説の多角的総論—1920年代から1940年代を中心に
	基礎研究(C) 研究分担者				200	60	玉木 隆幸	継続	260	22K02843		小中高生を対象とするロボットを用いたプログラミング教育の効果定量化手法の提案
	基礎研究(C) 研究分担者				50	15	藤田 直幸	継続	65	22K04767		レーザー誘起改質法による超短時間での電子貯蔵型WO3/W光電極の形成
	基礎研究(C) 研究分担者				80	24	福岡 寛	継続	104	22K04882		非平衡気相レーザープロセスによる複合ナノ粒子の形成過程の解明と複合構造制御
	挑戦的研究(開拓、研究分担者)				1,000	300	林 啓太	新規	1,300	24K21230		All-at-Once型流路デバイスを活用する生体膜モデル化Tetrahedron-Diagram解析法の構築
	小計(分組)	11	11	100.0%	2,505	743			3,248			
	合計	81	33	40.7%	27,435	7,853						

資料 4 2

令和6年度 受託研究・受託事業・補助金事業一覧

※企業等との守秘義務の関係上、個人を特定できる情報の掲載を割愛することといたしました。ご了承願います。

受託研究

学 科	氏 名	受託研究申込者	所 在 地	研 究 題 目	契約先 区分	研 究 期 間	研究経費受入額 (円)		
							直接経費	間接経費	合計
電気工学科	池田 陽紀	非公開			民	令和6年9月30日 ～ 令和7年2月28日	700,000	210,000	910,000
機械工学科	谷口 幸典	非公開			民	令和6年12月5日 ～ 令和7年5月31日	1,200,000	360,000	1,560,000
計	2件						1,900,000	570,000	2,470,000

受託事業

学 科 等	氏 名	受託事業申込者	所 在 地	事 業 題 目	契約先 区分	受 託 期 間	受 託 金 額 (円)		
							直接経費	間接経費	合計
電子制御工学科	玉木 隆幸	非公開		奈良高等ーイオンモール大和郡山による地域連携事業	民	令和6年4月15日 ～ 令和7年3月31日	461,539	138,461	600,000
広報センター長	玉木 隆幸	生駒市長 小紫 雅史	奈良県生駒市東新町8-38	令和6年度 出前授業	公	令和6年6月11日 ～ 令和7年3月31日	23,121	0	23,121
情報工学科	内田 眞司	郡山城にぎわいづくり実行委員会 会長 飯田 喜代親	奈良県大和郡山市北郡山町248番地4	郡山城天守台プロジェクトマップ作成 出展等業務委託	公	令和6年7月1日 ～ 令和6年12月7日	60,000	18,000	78,000
校長	近藤 科江	奈良県地域創造部長 毛利 嘉晃	奈良県奈良市登大路町30	奈良県アットブレナーシップ教育推進事業「モノづくりスタートアップ塾」	公	令和6年6月26日 ～ 令和7年1月31日	973,480	0	973,480
広報センター長	玉木 隆幸	生駒市長 小紫 雅史	奈良県生駒市東新町8-38	令和6年度いこまっこチャレンジ教室 (生駒市科学教室)	公	令和6年7月29日 ～ 令和7年3月31日	110,000	0	110,000
校長	近藤 科江	大和平野中央田園都市構想推進協議会 会長 山下 真	奈良県奈良市登大路町30	三宅サマースクールコンテンツ (モノづくり体験)	公	令和6年8月20日 ～ 令和6年11月29日	306,455	0	306,455
広報センター長	玉木 隆幸	橿原市長 亀田 忠彦	奈良県橿原市八木町1丁目1番18号	令和6年度サイエンスフェスティバル「プログラミングでロボットを動かそう」 出展業務	公	令和7年2月28日 ～ 令和7年3月9日	100,000	0	100,000
計	7件						2,034,595	156,461	2,191,056

補助金事業

学 科 等	氏 名	補助事業実施者	所 在 地	プロジェクト名	契約先 区分	補 助 期 間	補 助 金 額 (円)		
							直接経費	間接経費	合計
電気工学科主任	石飛 学	公益財団法人クリハラント記念財団 理事長 嶋田 雅景	大阪府大阪市北区西天満4-8-17 宇治ビルディング6F	電気工事士取得助成金	公	令和6年6月7日 ～ 令和7年3月31日	50,000	0	50,000
産学協働・地域創生 研究センター長	上野 秀剛	公益財団法人寺田科学技術育英会 代表理事 寺田 俊彦	奈良県大和高田市東雲町3番17号	研究クラスターと学チャレを通じた学生の 社会実装への参加(令和6年度公益財団 法人寺田科学技術育英会助成)	公	令和6年7月9日 ～ 令和7年3月31日	1,500,000	0	1,500,000
電気工学科	永井 歩美	公益財団法人津川モーター研究財団 代表理事 津川 晃弘	神奈川県足柄上郡松田町松田惣領1577	電動重機への適用を目指した高トルク密度 3次元構造SRモータの開発	公	令和7年1月1日 ～ 令和7年12月31日	1,200,000	0	1,200,000
電子制御工学科	玉木 隆幸	公益財団法人ちゅうでん教育振興財団 事務局長 真田 高志	愛知県名古屋市中東区東桜二丁目6番30号 東桜会館4階	多段階体験型課題解決プログラムにおける 教育効果の測定と分析・教育成果の定量化 と質的評価(2024年度 ちゅうでん教育振興 助成 高等専門学校の部(2025年度助成))	公	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日	500,000	0	500,000
教育研究支援室	島田 大嗣	公益財団法人東京応化科学技術振興財団 理事長 藤嶋 昭	神奈川県川崎市中原区中丸子150番地 東京応化工業(株)本社ビル2F	遊び心をくすぐる仕組みから学ぶ電子制御講座	公	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日	100,000	0	100,000
計	5件						3,350,000	0	3,350,000

資料 4 3

令和 6 年度 共同研究一覧

※ 企業等との守秘義務の関係上、個人を特定できる情報（企業名・所在地）及び研究題目の掲載を割愛することといたしました。ご了承願います。

	学 科	氏 名	契約先 区分	変更契約	研 究 期 間	研究経費受入額(円)			
						直接経費	間接経費	研究指導料	合計
1	機械工学科	谷口 幸典	民		令和6年5月23日 ～ 令和7年3月31日	1,000,000	300,000	0	1,300,000
2	物質化学工学科	山田 裕久	民		令和6年6月26日 ～ 令和7年3月31日	38,462	11,538	0	50,000
3	電気工学科	藤田 直幸	民		令和6年6月26日 ～ 令和8年3月31日	1,538,462	461,538	0	2,000,000
4	電気工学科	池田 陽紀	民		令和6年7月4日 ～ 令和7年2月28日	153,846	46,154	0	200,000
5	電子制御工学科	太田 孝雄	民		令和6年7月4日 ～ 令和7年3月31日	400,000	120,000	0	520,000
6	情報工学科	岩田 大志	民		令和6年7月4日 ～ 令和7年3月31日	200,000	60,000	0	260,000
7	情報工学科	上野 秀剛	民		令和6年7月29日 ～ 令和7年3月31日	1,153,846	346,154	0	1,500,000
8	機械工学科	福岡 寛	民		令和6年9月1日 ～ 令和7年3月31日	423,077	126,923	0	550,000
9	機械工学科	廣 和樹	民	期間延長	令和5年7月4日 ～ 令和7年3月31日	-	-	-	-
10	電子制御工学科	太田 孝雄	民		令和6年10月15日 ～ 令和7年3月31日	100,000	30,000	0	130,000
11	物質化学工学科	松浦 幸仁	民		令和6年12月5日 ～ 令和7年3月19日	384,616	115,384	0	500,000
12	機械工学科	廣 和樹	民	期間延長 研究費増額	令和5年7月4日 ～ 令和8年3月31日	110,000	33,000	0	143,000
13	情報工学科	上野 秀剛	民	期間延長	令和6年7月29日 ～ 令和8年3月31日	-	-	-	-
14	機械工学科	福岡 寛	民		令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日	461,538	138,462	0	600,000
15	情報工学科	上野 秀剛	民		令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日	461,538	138,462	0	600,000
16	物質化学工学科	中村 秀美	民	期間延長 研究費増額	令和4年4月1日 ～ 令和8年3月31日	384,615	115,385	0	500,000
17	物質化学工学科	片倉 勝己	民	期間延長	令和5年7月25日 ～ 令和8年3月31日	-	-	-	-
18	機械工学科	福岡 寛	民	期間延長 研究費増額	令和6年9月1日 ～ 令和8年3月31日	846,154	253,846	0	1,100,000
19	機械工学科	須田 敦	民	期間延長	令和6年2月5日 ～ 令和7年9月30日	-	-	-	-
20	物質化学工学科	山田 裕久	民	期間延長 研究費増額	令和6年6月26日 ～ 令和8年3月31日	76,924	23,076	0	100,000
21	電子制御工学科	太田 孝雄	民	期間延長 研究費増額	令和6年10月15日 令和8年3月31日	300,000	90,000	0	390,000
22	情報工学科	松尾 賢一	民	期間延長 研究費増額	令和4年4月1日 令和8年3月31日	400,000	120,000	0	520,000
23	電子制御工学科	太田 孝雄	民	期間延長	令和6年7月4日 令和8年3月31日	-	-	-	-
24	物質化学工学科	中村 秀美	民	期間延長 研究費増額	令和5年7月4日 令和8年3月31日	384,615	115,385	0	500,000
25	機械工学科	谷口 幸典	民	期間延長 研究費増額	令和6年1月12日 ～ 令和8年3月31日	1,000,000	300,000	0	1,300,000
26	電子制御工学科	樺 弘明	民	期間延長	令和4年6月13日 ～ 令和7年9月30日	-	-	-	-
27	物質化学工学科	中村 秀美	民	期間延長 研究費増額	令和5年7月31日 ～ 令和8年3月31日	1,538,462	461,538	0	2,000,000
28	物質化学工学科	中村 秀美	民	期間延長 研究費増額	令和5年5月23日 ～ 令和8年3月31日	153,847	46,153	0	200,000
	計	22件（期間延長のみの変更契約分は件数に含まない）				11,510,002	3,452,998	0	14,963,000

資料 4 4

令和 6 年度奨学寄附金一覧

※ 企業等との守秘義務の関係上、個人を特定できる情報を割愛することといたしました。ご了承願います。

No	寄 附 金 の 名 称	県内	県外	寄 附 金 額 (円)	寄 附 の 目 的	納 付 日
1	学生活動支援、起業家工房運営整備等助成金		○	1,000,000円	学生活動の支援、起業家工房の整備等に関する助成のため	R6.5.15
2	石飛学教授研究助成金		○	500,000円	石飛学教授の誘導加熱に関する学術研究助成のため	R6.4.26
3	2024年度旭硝子財団研究助成金		○	3,000,000円	学術研究のため	R6.5.10
4	奈良高専学生アイデアチャレンジへの助成のため	○		200,000円	学生アイデアチャレンジへの助成のため	R6.6.3
5	土井滋貴 嘱託准教授 研究助成金		○	30,000円	土井滋貴嘱託准教授のIoTおよびAIに関する学術研究助成のため	R6.6.11
6	福岡准教授研究助成金		○	1,300,000円	福岡准教授の赤外線カメラを活用した溶融解析に関する学術研究助成のため	R6.6.17
7	高専ワイヤレステックコンテスト2024におけるチーム「日本の農業ささえ隊」への技術実証支援		○	500,000円	高専ワイヤレステックコンテスト2024におけるチーム「日本の農業ささえ隊」への技術実証支援	R6.6.28
8	奈良高専の教育支援		○	100,000円	奈良高専の教育支援	R6.8.30
9	奈良高専学生教育助成金		○	50,000円	貴学の学生教育助成のため	R6.8.2
10	飯田教授研究助成金		○	650,000円	飯田教授の無人搬送車の制御に関する学術研究助成のため	R6.8.26
11	(公財)長岡技術科学大学技術開発教育研究振興会令和6年度研究助成		○	200,000円	「赤外線サーモグラフィで測定した温度分布と機械学習を組み合わせた樹液流量予測」に関する研究助成のため	R6.9.26
12	(公財)長岡技術科学大学技術開発教育研究振興会令和6年度研究助成		○	200,000円	「能動制御台車実現のための4輪同時制御システムの開発」に関する研究助成のため	R6.9.26
13	福岡准教授・谷口教授 研究助成金	○		750,000円	福岡准教授・谷口教授の流体解析に関する学術研究助成のため	R6.11.28
14	福岡准教授研究助成金		○	400,000円	福岡准教授の溶融解析に関する学術研究助成のため	R6.12.4
15	IT教育支援助成金		○	3,000,000円	奈良工業高等専門学校のIT教育支援のため	R6.12.26
16	ロボコン活動費	○		20,000円	ロボコン活動費	R6.12.30
17	教育助成金	○		5,000,000円	教育の助成	R7.2.4
18	石飛学教授研究助成金	○		2,000,000円	石飛教授のパワーエレクトロニクスに関する学術研究助成	R7.3.17
19	学生活動の支援、起業家工房の整備等に関する助成のため		○	1,000,000円	学生活動の支援、起業家工房の整備等に関する助成のため	R7.4.15
20	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費 24件	○		620,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	
21	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費 27件		○	790,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	
22	奈良工業高等専門学校創立60周年記念事業寄附金 106件	○		4,560,000円	奈良工業高等専門学校創立60周年記念事業のため	
23	奈良工業高等専門学校創立60周年記念事業寄附金 124件		○	4,475,000円	奈良工業高等専門学校創立60周年記念事業のため	
合 計				30,345,000円		

学会賞等の受賞状況(奈良高専在任期間中)

学科	氏名	年月	賞の名称	主催者	備考
物質化学工学科	伊月 亜有子	令和2年9月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	学生に寄り添った指導支援の実践
電気工学科	芦原 佑樹	令和2年9月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	ステークホルダー・コミュニケーションを通じた学生育成
電子制御工学科	玉木 隆幸	令和3年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	学生とのコミュニケーションを中心とする教育研究の実践
情報工学科	岩田 大志	令和3年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	高専間人事交流を活用したIoTシステムに関する教育研究の展開
電気工学科	石飛 学	令和4年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	日本を元気にするエンジニア人材の育成
情報工学科	上野 秀剛	令和4年4月	令和3年度 独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰 若手部門 理事長賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	シームレスな学生教育・研究・社会実装の結合
機械工学科	酒井 史敏	令和4年5月	2022年度システム制御情報学会学 会賞論文賞	一般社団法人システム 制御情報学会	射影型反復学習同定法のためのパラメータ空間表現 の推定
電子制御工学科	中村 篤人	令和5年4月	令和4年度 独立行政法人国立高等 専門学校機構教員顕彰 若手部門 優秀賞	独立行政法人国立高等 専門学校機構	多段階体験型学習に基づく課題解決能力を有する技 術者の育成
一般教科	森 弘暢	令和5年6月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	豊かな人間性を育むための教育に向けた取り組み
物質化学工学科	伊月 亜有子	令和6年4月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	学生に寄り添った支援の実践
情報工学科	岩田 大志	令和6年4月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	アクティブラーニングでの成功体験を通じた学生の就 職・進学マインドの養成

特許出願・登録状況

No	学科	氏名	特許出願日	出願番号	特許登録日	発明の名称	特許権者
1	電子制御工学科	早川 恭弘	2005. 12. 20	2005-365829	2009. 11. 27 (特許第4411439号)	靴底及び靴	国立高等専門学校機構
2	校長 電気工学科	谷口 研二 土井 滋貴	2019. 05. 15	2019-091803	2020. 10. 16 (特許第6779537号)	揺れ検知駆動装置および揺れ検知駆動方法	国立高等専門学校機構
3	電気工学科	石飛 学	2018. 01. 18	2018-006806	2022. 08. 04 (特許第7117725号)	インダクタ、インダクタを備えた装置及びインダクタの製造方法	国立高等専門学校機構 株式会社ダイヘン 株式会社アインド
4	情報工学科 電気工学科 情報工学科	松村 寿枝 小坂 洋明 上野 秀剛	2020. 04. 27	2020-78149	2023. 08. 01 (特許第7323936号)	疲労推定装置	国立高等専門学校機構
5	電気工学科	石飛 学	2022. 04. 28	2022-74890	2023. 09. 15 (特許第7350239号)	高周波電力供給システム	国立高等専門学校機構 株式会社ダイヘン 株式会社アインド
6	電気工学科	石飛 学	2020. 7. 16 2020. 7. 17	10-2020-7020723 201980009030.X	第10-2745695号 〔韓国〕 ZL 2019 8 0009030.X 〔中国〕	インダクタ、インダクタを備えた装置及びインダクタの製造方法	国立高等専門学校機構 株式会社ダイヘン

第3章 社会との連携，グローバル教育，男女共同参画推進関係

公開講座実施実績一覧（令和 5 年度）

講 座 名	開 催 日 時	対 象	募集人数 (受講者数)	担当学科 または委員会
からくり人形をつくろう	9月23日（土・祝） 13:00～15:00	小学生 （4～6年）と 保護者	30 （30）	機械工学科
デジタルファブリケーション入門～デジタル工作機械を使ってみよう～	9月2日（土） 10:00～15:00	小学校6年生、 中学校1・2年生	20 （18）	機械工学科
楽しいIoT教室 ～こんなものがインターネットにつながる！～	9月10日（日） 13:00～16:00	中学生 （1～3年）	16 （11）	電気工学科
電気工学科オンライン体験授業	第1回9月23日（土・祝） 15:00～15:45 第2回10月21日（土） 13:00～13:45 第3回12月3日（日） 11:00～11:45	中学生 （1～3年）	240 （240）	電気工学科
楽しく作るライン追跡ロボット ～君にもできるロボット製作～	8月5日（土） 10:00～15:00	小学生 （5・6年）と 保護者	32 （32）	電子制御工 学科
ビジュアルプログラミングで プログラミングを学ぼう （初級・中級）	8月5日（土） 10:00～16:00	小学生（4～6 年）と保護者、 中学生（1～3 年）と保護者	40 （34）	情報工学科
全日本小中学生ロボット選手権 奈良地区大会	説明会 8月24日（木） 10:00～15:00 走行会 9月23日（土・祝） 10:00～15:30 予選会 11月18日（土） 10:00～16:00	小学生（4～6 年）、 中学生（1～3 年）	44 （19）	総務課

公開講座実施実績一覧（令和6年度）

講 座 名	開 催 日 時	対 象	募集人数 (受講者数)	担当学科 または委員会
からくり人形をつくろう	9月21日(土) 13:00～15:00	小学生 (4～6年)と 保護者	30 (30)	機械工学科
デジタルファブリケーション入門～デジタル工作機械を使ってみよう～	6月22日(土) 10:00～15:00	小学校6年生、 中学校1・2年生	20 (20)	機械工学科
楽しいIoT教室 ～こんなものがインターネットにつながる！～	9月8日(日) 13:00～16:00	中学生 (1～3年)	16 (15)	電気工学科
楽しく作るライン追跡ロボット ～君にもできるロボット製作～	8月3日(土) 10:00～15:00	小学生 (5・6年)と 保護者	32 (24)	電子制御工 学科
ビジュアルプログラミングで プログラミングを学ぼう (初級・中級)	8月3日(土) 10:00～16:00	小学生(4～6 年)と保護者、 中学生(1～3 年)と保護者	40 (42)	情報工学科
全日本小中学生ロボット選手権 奈良地区大会	説明会 8月22日(木) 10:00～15:00 走行会 9月21日(土) 10:00～14:00 予選会 11月16日(土) 10:00～16:00	小学生(4～6 年)、 中学生(1～3 年)	44 (21)	総務課

令和 6 年度 学市連携事業一覧

学市連携「出前授業」

市		派遣講師	実施日	学校名	内 容	学年・組	人数
大和郡山市	1	電子制御工学科 玉木 隆幸	6月27日(木)	郡山西小学校	光を探る	小学6年生・3組	79
	2	一般教科 新野 康彦	7月8日(月)	郡山東中学校	超低温の世界を探る	中学1年生・1組	27
	3	電子制御工学科 橋爪 進	8月28日(水)	矢田南小学校	ロボットプログラミングを学ぼう	小学6年生・2組	38
	4	電子制御工学科 玉木 隆幸	9月13日(金)	郡山北小学校・ 郡山中学校・ 分教室「ASU」	光を探る	小学4年生～ 中学3年生・1組	15
	5	情報工学科 山口 賢一 岩田 大志	11月14日(木)	矢田小学校	パズルの達人	小学6年生+保護者 ・1組	46
	6	電気工学科 池田 陽紀 芦原 佑樹	2月7日(金)	平和小学校	磁石の不思議 君も磁石博士だ！	小学3年生・2組	44
	7	情報工学科 松村 寿枝	2月14日(金)	片桐西小学校	プログラミングを学ぼう	小学6年生・3組	73
	8	電気工学科 池田 陽紀 芦原 佑樹	2月27日(木)	郡山西小学校	磁石の不思議 君も磁石博士だ！	小学3年生・3組	83
							405
生駒市	1	一般教科 榊原 和彦	6月21日(金)	生駒北中学校	超低温の世界を探る	中学3年生・1組	24
	2	物質化学工学科 片倉 勝己	6月27日(木)	俵口小学校	電池づくりの達人 じぶんで作ろう！ いろいろな電池	小学4年生・3組	82
	3	情報工学科 松村 寿枝	2月28日(金)	俵口小学校	プログラミングを学ぼう	小学5年生・3組	61
							167

学市連携「科学教室（高専教室）」

市		テーマ名	担当学科	実施日	対 象	人数	備 考
大和郡山市	1	パソコンでアニメーションを作ろう	情報工学科 松尾 賢一 山口 賢一 上野 秀剛 教育研究支援室 西野 貴之 二宮 由成	①6月29日(土) ②7月6日(土) ③7月13日(土)	小学4～6年生	15	少年少女パソコン教室
	2	セッケンって油から作れるんだ～やってみて、感じて、語る科学実験	物質化学工学科 宇田 亮子	8月31日(土)	小学5・6年生	12	台風の影響により、午前・午後の申込分を午前に実施
	3	定規で曲線を描こう！	一般教科 飯間 圭一郎 山中 聡恵 鷺野 朋広 矢野 充志 豊田 洋平	11月17日(日)	小学3～6年生	19	
						46	

学市連携「科学教室（いこまっこチャレンジ教室）」

市		テーマ名	担当学科	実施日	対 象	人数	備 考
生駒市	1	デジタルファブリケーション入門	機械工学科 須田 敦寛 福岡 寛	10月6日(日)	小学4～6年生	16	
	2	聞いて、見て、感じよう、電気の世界！～放電の観察～	電気工学科 池田 陽紀	11月2日(土)	小学5・6年生	17	
						33	

資料 4 9

令和 6 年度 学市連携以外派遣事業一覧

実 施 な し

資料 5 0

令和 6 年度 展示会・地域連携事業一覧

	展示会・地域連携事業 詳細 (イベント名称・実施日・会場・出展者等)
1	大和郡山市 郡山城天守台登城サポート事業への学生ボランティア協力 令和6年5月12日(日) (於 郡山城天守台) 情報工学科 内田 真司・寮生
2	奈良県主催水素エネルギー普及啓発イベントにおける科学教室実施 令和6年8月22日(木) (於 イオンモール大和郡山) 物質化学工学科 山田 裕久
3	MOBIO-Café ここからはじまる産学連携『奈良高専』 令和6年8月28日(水) (於 クリエイション・コア東大阪) 出展者: 電子制御工学科 太田 孝雄
4	けいはんなビジネスメッセ2024 令和6年10月3日(木)～4日(金) (於 けいはんなオープンイノベーションセンター (KICK))
5	池田泉州銀行 個別相談会 令和6年10月8日(火) (於 池田泉州銀行 本店) 令和6年10月11日(金) (於 池田泉州銀行 GUTSU GUTSU)
6	ビジネスチャンス発掘フェア2024 令和6年11月27日(水)～28日(木) (於 マイドーム大阪)
7	イノベーションストリームKANSAI 8.0 令和6年11月28日(木)～29日(金) (於 グランフロント大阪 コングレコンベンションセンター) 出展者: 電子制御工学科 太田 孝雄 (MOBIOブースにおけるパネル展示のみ)
8	大和郡山市 郡山城天守台プロジェクトマッピング 令和6年12月7日(土) (於 郡山城跡) 情報工学科 内田 真司 (プロジェクトマッピング製作) ・一般教科 稲田 直久 (天体コーナー運営) 情報工学科 市川 嘉裕 (講演)
9	京都ビジネス交流フェア2025 令和7年2月13日(木)～14日(金) (於 京都パルスプラザ)
10	奈良クラブ×奈良県 脱炭素コラボイベントにおける出展協力 (水素ラジコンカー操縦体験等) 令和7年3月8日(土) (於 ロートフィールド奈良) 機械工学科 谷口 幸典・須田 敦・物質化学工学科 山田 裕久

令和6年度施設開放状況一覧

年度	日付	使用目的	使用団体	選択 教室3	選択 教室4	選択 教室5	教室(1E)	教室(5E)	大規模 習室 (ラーニング コモンズ)	情報処理 演習室	CAD 演習室	物理化学 実験室	電子工学 実験室	第一会館 講義室 (大規模 習室)	本館 演習室 (大規模 習室)	情報処理 演習室	大会議室 多目的室	第1 体育館	第2 体育館	弓道場	弓射場	フール(更 衣室共)	陸上 競技場	イン フィールド	テニス コート	7-ホール 場	使用人数
R8年度	R6.5.19	第78回大和郡山市民体育大会	大和郡山市体育協会																							30	30
	R6.12.15	大和郡山市ラグビーカーニバル	大和郡山市ラグビーフットボール協会																					200			200
計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	200	30	0	230

留学生年度別受入一覧表

年度	機械工学科		電気工学科		電子制御工学科		情報工学科		物質化学工学科		計		在籍数		退学数		卒業数		
	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	進学	帰国	就職
R2		1 マレーシア				1 マレーシア	1 インドネシア		1 インドネシア		2	2	4	6			2	2	0
R3				1 モンゴル		1 マレーシア			1 インドネシア		1	2	4	5			1	1	0
R4						1 マレーシア					3			9					2
R5									1 ラオス	1 マレーシア	1	2	4	6			4	0	0
R6							1 カンボジア		1 モンゴル		2	0	4	4			2	1	0
				1		1 マレーシア	1 モンゴル			1 マレーシア	1	3	4	5			2	0	0
											4		9						2

資料 5 3

国際交流 派遣・受入事業一覧(令和6年度)

国際交流派遣						
No.	日 程	内 容 (引率教員)	派遣学生		派遣先	
			学年	人数	国・地域	学校名・企業名等
1	令和6年8月5日(月) ～ 8月14日(水)	明志科技大学主催「2024 Summer Camp」 (情報工学科 内田 眞司 ※往路のみ)	本科5年, 専攻科2年 (5C 2名, 2AM 1名)	3名	台湾	明志科技大学
2	令和6年8月12日(月) ～ 9月13日(金)	探求活動, 語学研修【トビタテ! 留学JAPAN】 (引率なし)	本科2年 (2C)	1名	オーストラリア	サンバシフィックカレッジ
3	令和6年8月18日(日) ～ 8月31日(土)	プロジェクト体験型研修【豊橋技術科学大学主催「高専生海外研修」】 (引率なし)	本科4年 (4M)	1名	マレーシア	豊橋技術科学大学マレーシア海外拠点 (ペナン)
4	令和6年8月25日(月) ～ 8月31日(土)	英語での文化・学校紹介, テーマプレゼンテーション, 文化施設視察など (一般教科 松井 良明, 松井 真希子)	本科1年(4名), 2年(2名), 3年(2名) (1S 2名, 1I 1名, 1C 1名, 2M 2名, 3M 1名, 3E 1名)	8名	香港	香港專業教育學院 (香港IVE)
5	令和6年8月23日(金) ～ 9月18日(水)	研究室でのプロジェクト活動, 研究発表など【JASSO(協定校派遣)】 (引率なし)	専攻科1年 (1AM 1名, 1AI 1名)	2名	シンガポール	ナンヤン ポリテクニク
6	令和7年2月23日(日) ～ 3月1日(土)	英語での文化・学校紹介, テーマプレゼンテーション, 大学・企業見学など (物質化学工学科 片倉 勝己 伊月 亜有子)	本科1年 (1E 4名, 1S 1名, 1C 1名)	6名	タイ	キングモンクット工科大学トンプリ校付属高等専門学校(KOSEN KMUTT), DMG MORI Thailand
7	令和7年3月9日(日) ～ 3月15日(土)	英語での共同プロジェクト成果発表会, 学校紹介, 日本文化の紹介など (情報工学科 内田 眞司) (電気工学科 髙谷 智也子)	本科2年(10名), 3年(8名), 4年(1名) (2M 2名, 2E 1名, 2S 1名, 2I 2名, 2C 4名, 3M 1名, 3E 3名, 3I 1名, 3C 3名, 4C 1名)	19名	シンガポール	ナンヤン ポリテクニク リパブリック ポリテクニク
8	令和7年3月24日(月) ～ 3月27日(木)	英語での研究発表, 大学・文化施設視察など (一般教科 松井 真希子)	本科5年, 専攻科1年 (5E 1名, 1MC 1名)	2名	台湾	国立勤益科技大学

国際交流受入							
No.	日程	担当教員	担当学生		受入校		
			学年・所属など	人数	国・地域	学校名	人数
1	令和6年8月16日(金) ～ 8月24日(金)	グローバル教育センター委員	本科1～3年 1年24名, 2年3名, 3年5名	32名	香港	香港VTC/IVE 香港專業教育學院 ・職業訓練局	21名 (学生19名, 教員2名)
2	令和6年9月30日(月) ～ 12月22日(日)	機械工学科(福岡研究室) 情報工学科(松尾・松村研究室)	チューター 5年1名, 専攻科1年1名 チューター 専攻科2年1名	3名	シンガポール	ナンヤン ポリテクニク	2名
3	令和6年9月30日(月) ～ 12月22日(日)	機械工学科(平研究室) 機械工学科(須田研究室)	チューター 5年2名 チューター 5年2名	4名	シンガポール	リパブリック ポリテクニク	2名
4	令和6年12月12日(木)	グローバル教育センター委員	本科1～3年 1年20名, 2年5名, 3年1名	26名	韓国	ドゥウォン工科大学	25名(入学予 定学生19名, 教職員6名)
5	令和7年3月3日(月) ～ 4月30日(水)	電気工学科(大谷研究室)	チューター 5年3名	3名	香港	香港VTC/IVE 香港專業教育學院 ・職業訓練局	2名

資料 5 4

教員の兼業状況

年 度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
承認件数	5 3 件	5 3 件	4 9 件	4 1 件	4 6 件

資料 5 5

非常勤講師の配置状況

(令和 6 年度)

学 科	科目等	人数 (延べ)	授業時間数／週		備 考
			前期	後期	
一般教科	国 語	1	4	4	国語Ⅰ，国語表現法
	社 会	3	2 2	2 2	地理，歴史，地域学，現代社会と法
	数 学	3	1 2	1 0	数学特論 α，数学特論 β，応用数学 α，応用数学 β
	物 理	1	4	2	物理Ⅱ
	生 物	1	6	4	生物
	体 育	1	4	2	保健・体育Ⅱ
	英 語	4	2 0	2 0	英文法Ⅱ，英文法Ⅲ，英語Ⅴ
	芸 術	2	0	1 2	美術，音楽
機械工学科	—	3	2	6	材料学Ⅱ，機械設計製図Ⅰ
電気工学科	—	3	4	1 0	電気工学演習Ⅰ，アナログ回路，電気電子工学実験Ⅲ，制御工学Ⅰ
電子制御工学科	—	2	8	6	熱力学，電子制御工学総合演習Ⅱ，システム要素設計，ロボティクスⅠ，ロボティクスⅡ
専攻科	—	5	4	1 0	技術者倫理，特殊加工学，実用技術英語（電気電子・情報系），特修英語Ⅰ，特修英語Ⅱ，プレゼンテーション英語
留学生	日本語	1	4	4	留学生の日本語
	電 気	1	2	2	電磁気学，電子工学
	情 報	1	2	0	論理回路Ⅰ
	計	3 2	9 8	1 1 4	

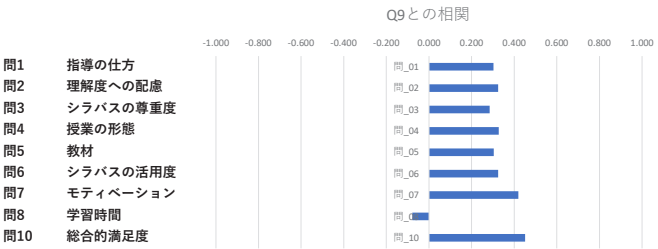
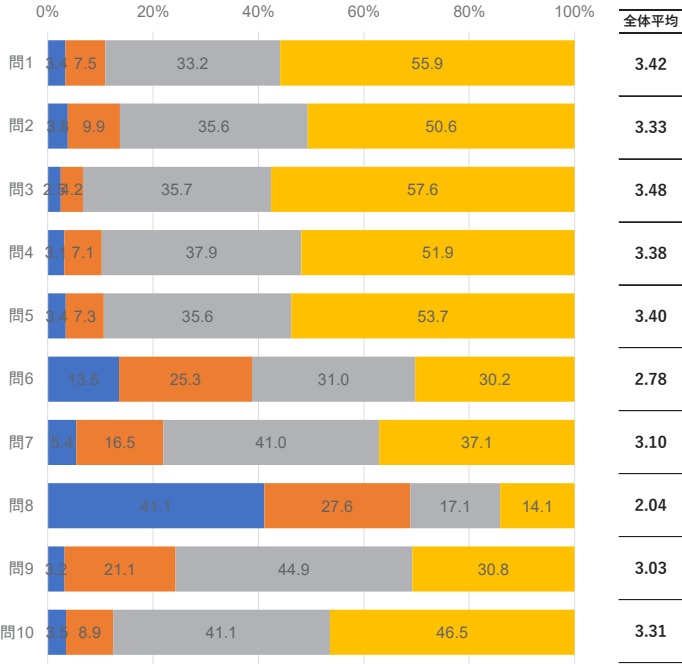
授業評価アンケート

全体集計

グラフ凡例				
問1～7	①思わない	②あまり思わない	③ややそう思う	④そう思う
問8～10	選択肢は各質問内容欄を参照			
配点	1	2	3	4

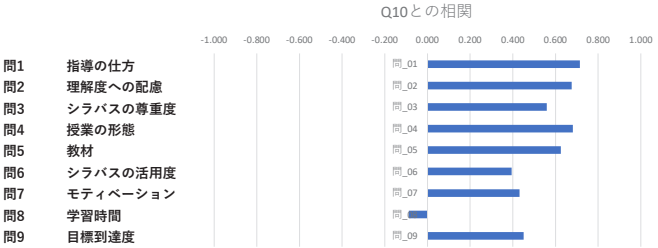
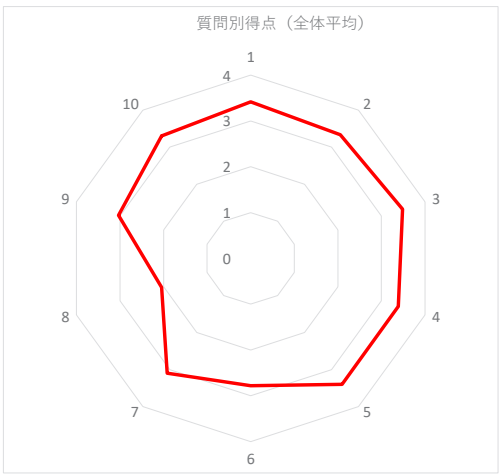
2024年度

番号	内容
問1	担当教員の指導(話し方・問いかけ・指示・板書等)は適切であり、授業の進行や内容は整理されていて理解しやすかったと思いますか。 思わない(1)、あまりそう思わない(2)、ややそう思う(3)、そう思う(4)
問2	担当教員は学生の理解度を確認しながら授業を進めていたと思いますか。 思わない(1)、あまりそう思わない(2)、ややそう思う(3)、そう思う(4)
問3	授業の進め方や授業内容は、最初の授業で説明されたシラバスに沿っていたと思いますか。 思わない(1)、あまりそう思わない(2)、ややそう思う(3)、そう思う(4)
問4	授業の形態(講義、演習、実験、実習、グループワーク等)は内容を理解するうえで適切であり、到達目標(シラバス参照)を達成するための工夫があったと思いますか。 思わない(1)、あまりそう思わない(2)、ややそう思う(3)、そう思う(4)
問5	授業で使った教材(教科書、参考図書、配布資料・課題・宿題等)は、内容を理解するうえで適切であったと思いますか。 思わない(1)、あまりそう思わない(2)、ややそう思う(3)、そう思う(4)
問6	あなたは授業概要の把握や予習のために、積極的にシラバスを活用できたと思いますか。 思わない(1)、あまりそう思わない(2)、ややそう思う(3)、そう思う(4)
問7	あなたはこの授業の内容を理解するために努力(予習・復習、質問等)をして、積極的に内容の理解を目指す行動がとれたと思いますか。 思わない(1)、あまりそう思わない(2)、ややそう思う(3)、そう思う(4)
問8	あなたがこの科目の学習を行った時間(授業時間、予習・復習、課題・宿題、試験勉強等を含む)はどのくらいですか。週当たりの大まかな平均値で答えてください。 120分未満(1)、120分～180分(2)、180分～270分(3)、270分以上(4)
問9	あなたはこの授業でどの程度到達目標を達成できましたか。優・良・可の基準で自己採点してください。 不可(1)、可(2)、良(3)、優(4)
問10	あなたのこの授業に対する総合的満足度はどのくらいですか。 不満(1)、やや不満(2)、やや満足(3)、満足(4)



相関係数

0.303
0.324
0.285
0.328
0.303
0.325
0.419
-0.078
0.451



相関係数

0.714
0.677
0.559
0.681
0.625
0.394
0.432
-0.087
0.451

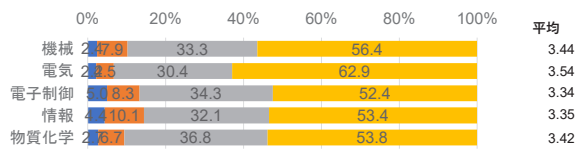
昨年度まで、全科目の1/3程度の授業アンケートを分析用アンケートとし、集計していたが、令和6年度より全科目の授業アンケートを集計するように変更した。

【授業内容に関する質問項目】である問1～5については、いずれも昨年度より若干高い値（+0.01～+0.07）であった。

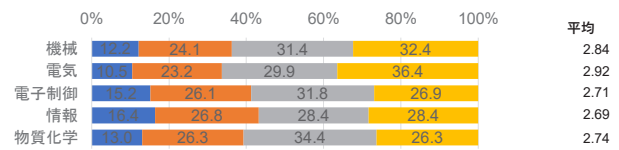
【自学自習と学習時間に関する質問項目】である問6～8については、問6「あなたは授業概要の把握、予習のために、積極的にシラバスを活用できたと思いますか。」の平均が2.78（令和5年度2.72）であり、積極的にシラバスの活用を促す工夫が必要である。また、問8「あなたがこの科目の学習を行った時間（授業時間、予習・復習、宿題、試験勉強等含む）はどのくらいですか。週当たりの平均値で答えてください。」の平均が2.04（令和5年度2.27）であり、質問項目を正しく理解せずに回答している学生もいると考えられるが、学習習慣が身につけているとは言えず、改善のための方策が必要である。

【学習到達度、学習満足度に関する質問項目】である問9、10については、問9「あなたはこの授業でどの程度到達目標を達成できましたか。」の平均が3.03（令和5年度2.96）、問10「あなたのこの授業に対する総合的満足度はどのくらいですか。」の平均が3.31（令和5年度3.27）であり、昨年度より若干高い値であり、学生は概ね授業に対して満足していると考えられる。

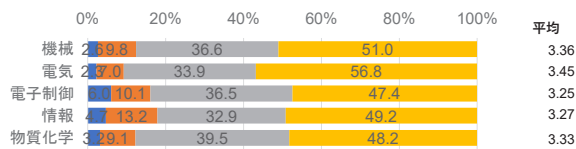
問1 担当教員の指導(話し方・問いかけ・指示・板書等)は適切であり、授業の進行や内容は整理されていて理解しやすかったと思いますか。



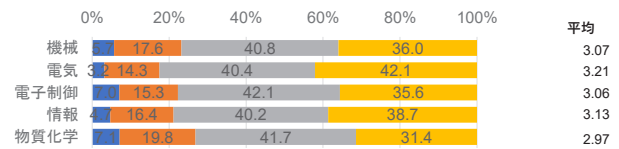
問6 あなたは授業概要の把握や予習のために、積極的にシラバスを活用できたと思いますか。



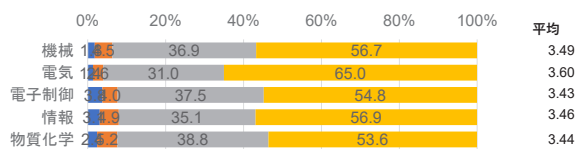
問2 担当教員は学生の理解度を確認しながら授業を進めていたと思いますか。



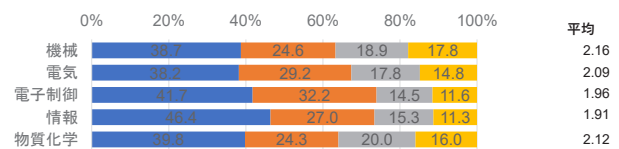
問7 あなたはこの授業の内容を理解するために努力(予習・復習、質問等)をして、積極的に内容の理解を目指す行動がとれたと思いますか。



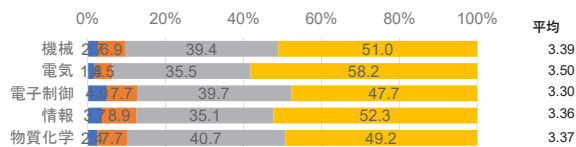
問3 授業の進め方や授業内容は、最初の授業で説明されたシラバスに沿っていたと思いますか。



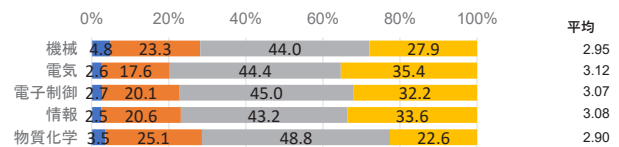
問8 あなたがこの科目の学習を行った時間(授業時間、予習・復習、課題・宿題、試験勉強等を含む)はどのくらいですか。



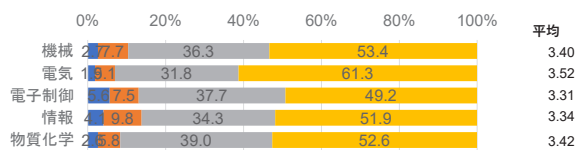
問4 授業の形態(講義、演習、実験、実習、グループワーク等)は内容を理解するうえで適切であり、到達目標(シラバス参照)を達成するための工夫があったと思いますか。



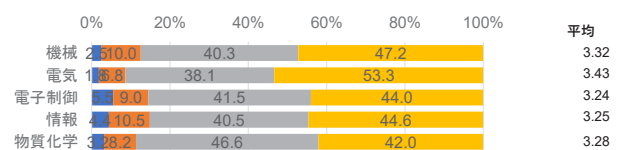
問9 あなたはこの授業でどの程度到達目標を達成できましたか。優・良・可の基準で自己採点してください。



問5 授業で使用した教材(教科書、参考図書、配布資料・課題・宿題等)は、内容を理解するうえで適切であったと思いますか。



問10 あなたがこの授業に対する総合的満足度はどのくらいですか。



【全体】

総合満足度に該当する、将来像実現のために高専生活は役立ったか、およびこれからのキャリア形成に役立ちそうか、の設問に対して、平均がともに4.2以上となっており、全体としては十分な満足度を得るものであったといえる。また専門科目の授業、実験実習等、卒業研究や特別研究等の研究活動および研究指導が平均4.0以上であった。これらについては、満足、やや満足での回答が大半であり、十分な満足度を得るものであったといえる。その他平均が4.0以上であった設問として、実践的技術者に必要な基礎知識や技術、進学・就職に向けた取り組み、問題を発見する力、問題解決・課題達成に向けて創造する力、実験・実習工場等施設・設備の満足度、コミュニケーション力、就職・進学に関する指導や支援、図書館の充実、物事を論理的に思考・表現すること、授業等の学習、自ら学ぶ力、が該当する。

本校は卒業研究や特別研究等での研究指導、就職・進学に関する指導や支援などの項目については、非常に高い満足度であるが、一方で、寮での指導や支援、授業外の学習支援、福利厚生施設・コミュニケーションスペース等に関する満足度が低く、これらの点について改善の必要があると考えられる。

以下に、日本人学生と留学生との比較、性別による比較、学年による比較、分野別の比較、全国高専との比較した結果を記載する。

【日本人・外国人留学生比較】

総合的なキャリア形成への役立ち度において、留学生は日本人学生よりも高い評価となっている。授業関連では専門科目の授業満足度は日本人学生と比較して留学生の評価が低くなっている。一方、実験実習等への満足度については留学生の評価が日本人学生よりも高くなっている。また、ICTを活用した学習環境への満足度については、日本人学生と比較して留学生の評価が低くなっている。

【性別】

性別による比較では、総合的なキャリア形成への役立ち度については男子学生が女子学生に対してわずかに高い評価となっている。一方、授業関連では一般科目の授業、専門科目の授業、実験実習等のいずれにおいても女子学生のほうが男子学生より高い満足度を示している。問題解決・課題達成に向けて創造する力については、男子学生のほうがやや高い評価となっている。

【学年による比較】

学年による比較では、専攻科生のほうが多くの項目で高い満足度や成長実感を示しているが、ICTを活用した学習環境に関しては本科生のほうが専攻科生より高い満足度を示している。これらの結果から、より専門性の高い専攻科に進学することで、学習内容や研究、自己成長への満足度が向上する傾向が示唆される。

【分野別】

各分野の学生の評価を比較すると、総合的なキャリア形成への役立ち度は情報系の学生が最も高く（4.51）、ついで電気・電子系（4.41）、機械・材料系（4.27）、化学・生物系（4.21）の順になった。専門科目の授業満足度についても同様の傾向となっている。一方、実験実習等への満足度については化学・生物系が4.55で最も高く、機械・材料系が3.99で最も低い結果となった。

情報系は全体的なキャリア形成への役立ち度、問題解決能力、コミュニケーション能力の成長実感で高い評価を得ており、実験実習では化学・生物系が非常に高い満足度を示していることがわかる。

全国高専との比較

全国の高専との比較では、総合満足度に該当する、これからのキャリア形成に対する役立ち度で全国平均より高い評価となっている。一方、授業関連においては一般科目、専門科目、実験実習、いずれの授業満足度も全国平均を下回る評価となっている。また学習支援・環境に関しても、寮での指導や支援、学校内の自学自習に用いる学習環境・設備、福利厚生施設、ICTを活用した学習環境に対する満足度など、いずれも全国平均を下回る評価となっており、改善の必要がある。

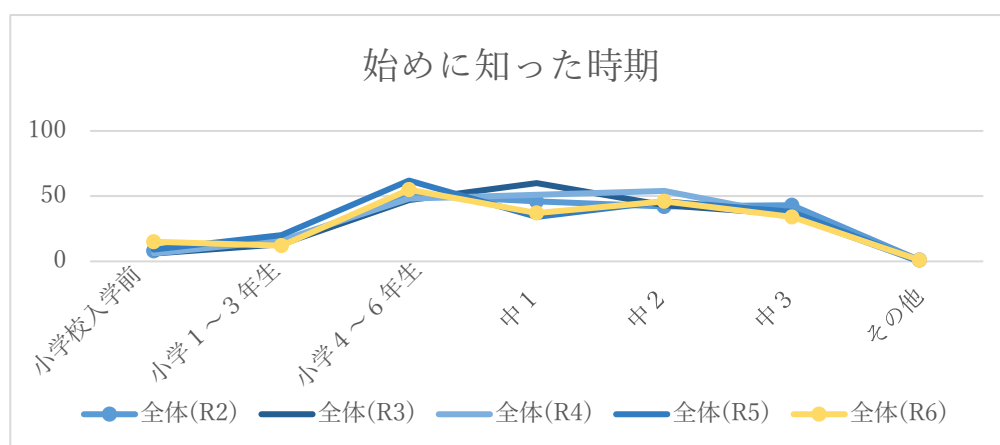
なお、分野別では情報系分野の成長実感に関する項目については、コミュニケーションと人間力、物事を論理的に思考・表現する力、問題解決・課題達成に向けて創造する力など、複数の項目で全国平均を上回っている。

令和2～6年度入学生アンケートの集計結果

令和2年度から令和6年度の5カ年の入学者より徴収した入学動機アンケートのうち、質問の共通項を抜き出し傾向を比較したところ、5カ年においてその傾向に大きな変化は見られなかった。また、先に作成された平成26年度～31年度(5カ年)分の傾向とよく似ており、当時のコメントの内容と今回のコメントはほぼ同じ趣旨・内容になっていることが興味深い。

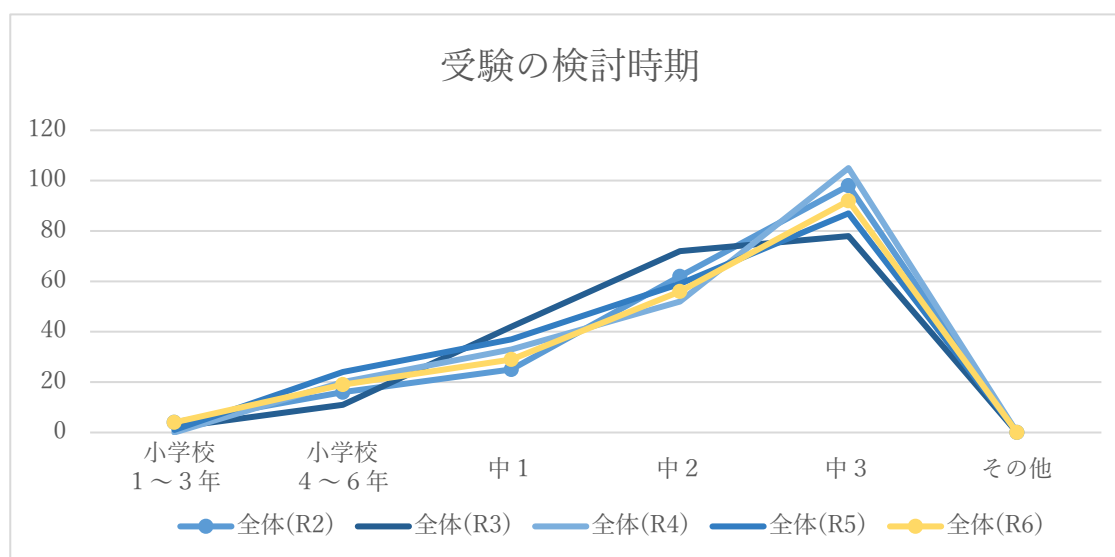
1. 始めに知った時期

5カ年で「小4～小6」が安定して多い傾向にある。中学生になってからは学年で大きな差はないが、理想的なのは中学受験を始める小4以降から「高専」を認知してもらうことだと考える。



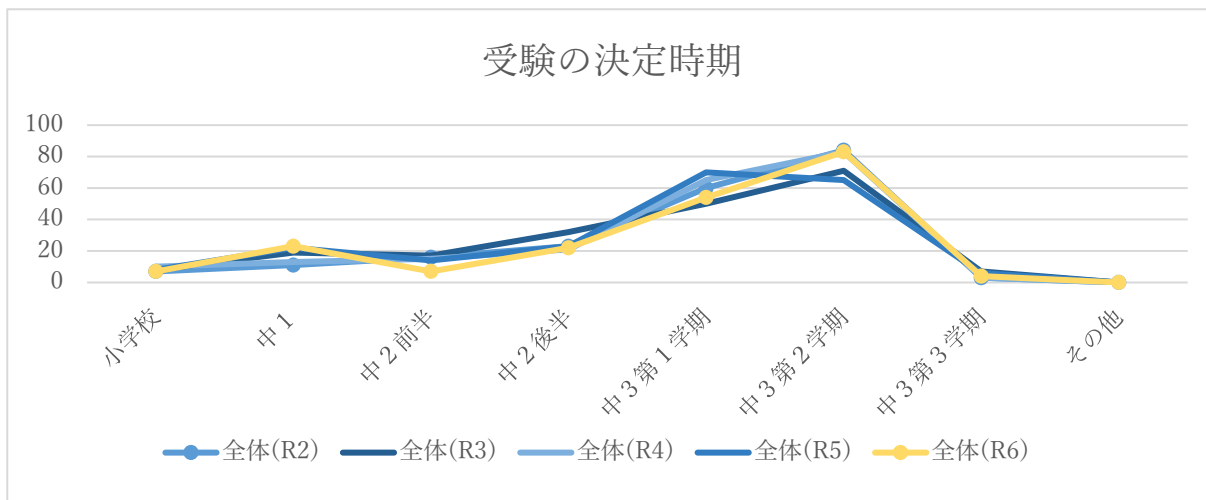
2. 受験の検討時期

現実に受験を控えた中3の時期が検討をする時期のピークであると言える。中3の60%程度の志願者が本校を受験できる学力の見込みは中2時点の学力と考えていることも参考になるのではない。5年間の比較でも大きな変化はない。



3. 受験の決定時期

本校を受験して合格が見込める学力をある程度確認する時期が、中3の2学期をピークとなっている。中3の1学期も第2学期に次ぐ志願者が決定する時期である。

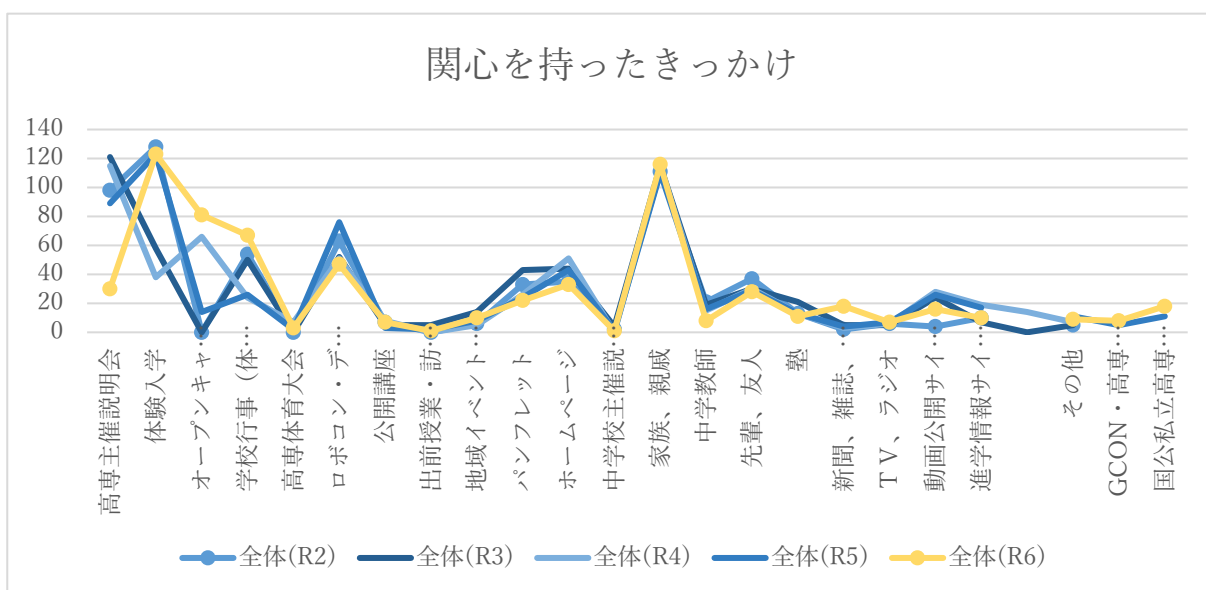


4. 関心を持ったきっかけ

5年間の比較でも大きな変化はない。5カ年度で安定したきっかけは「家族・親戚」である。高専主催説明会も有力なきっかけであるが令和6年度は大きく数値を下げている。「体験入学」は実施していれば関心を持つきっかけになるので、イベントとして重要である。

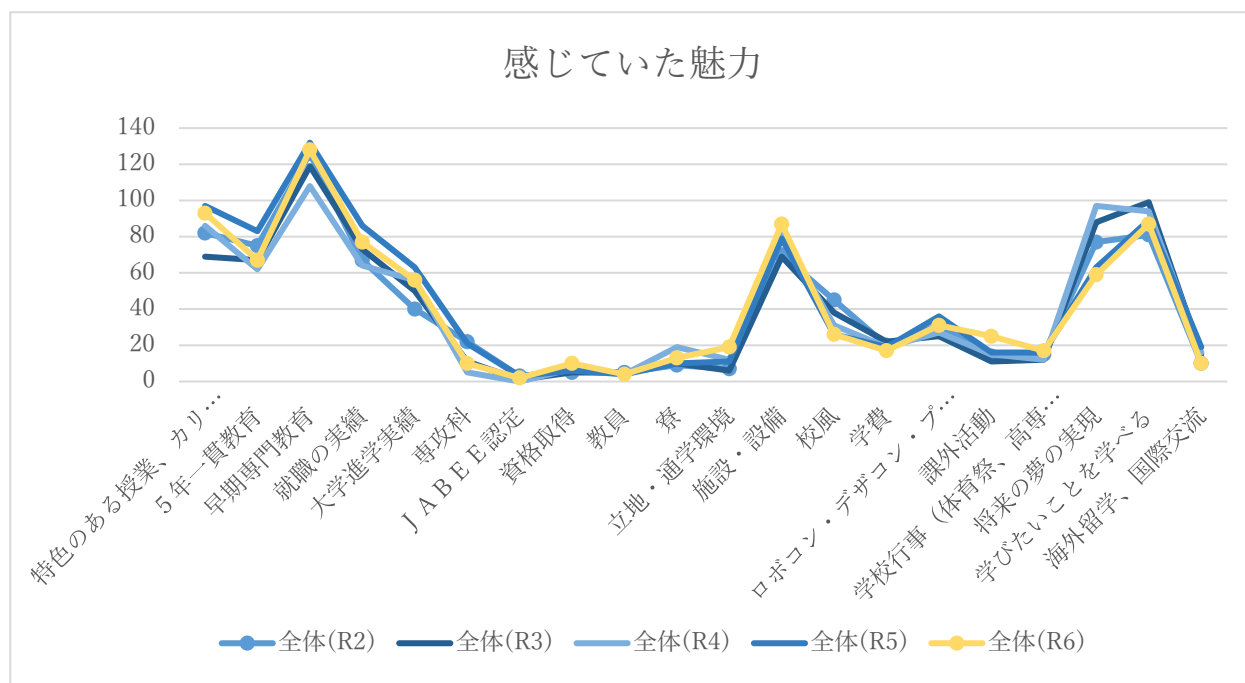
ロボコン、プロコン等は高専のポジティブなイメージづくりに寄与していると考えられる。

体験入学への参加を促すためのすそ野拡大で実施している科学教室等については地域イベントとして実施することが、より効率的であると考えられる。ホームページやSNSからの情報発信も志願者増につなぐためには重要であり、先輩・友人といった身近な人の満足度も影響を及ぼすので在学生の満足度をできる限り高いレベルで維持できるようにすべきであろう。



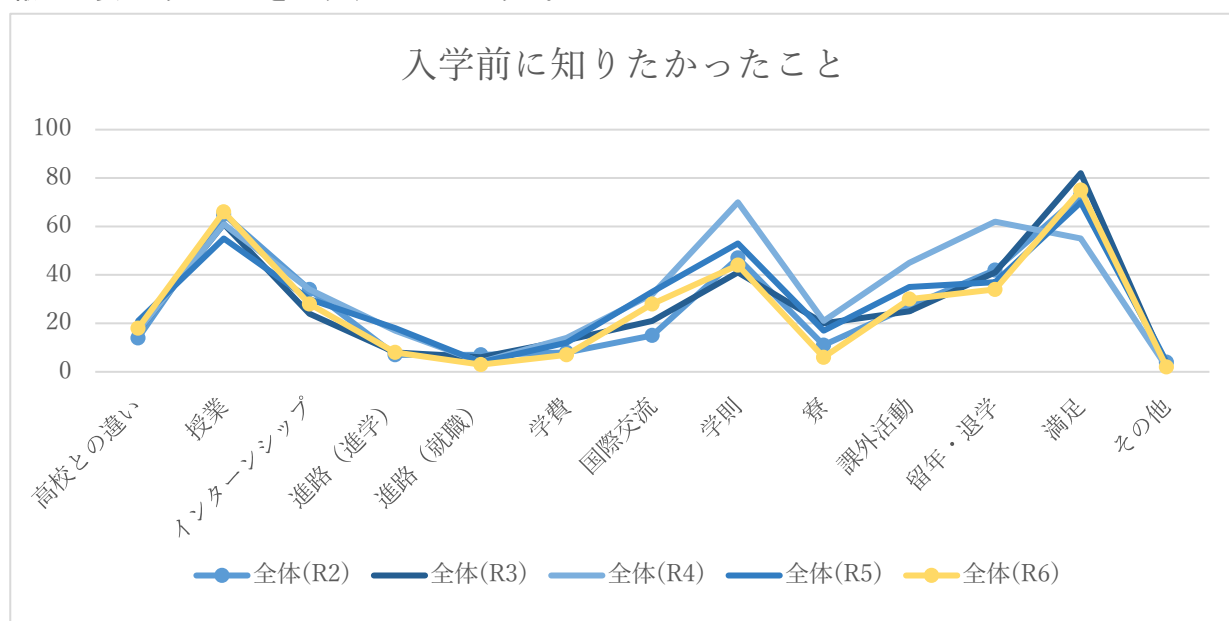
5. 感じていた魅力(従来の「志望動機」にあたる)

「特色ある授業、カリキュラム」、「早期専門教育」、「就職実績」、「大学進学実績」、「施設・設備」、「将来の夢の実現」、「学びたいことを学べる」といった実利・実践的、具体的な内容にアピールポイントがあるように思われる。5年間の比較でも大きな変化はないが令和6年度分について施設、設備についての数値がやや増加した。



6. 入学前に知りたかったこと(令和2年度より「関心をもった経緯」より分離)

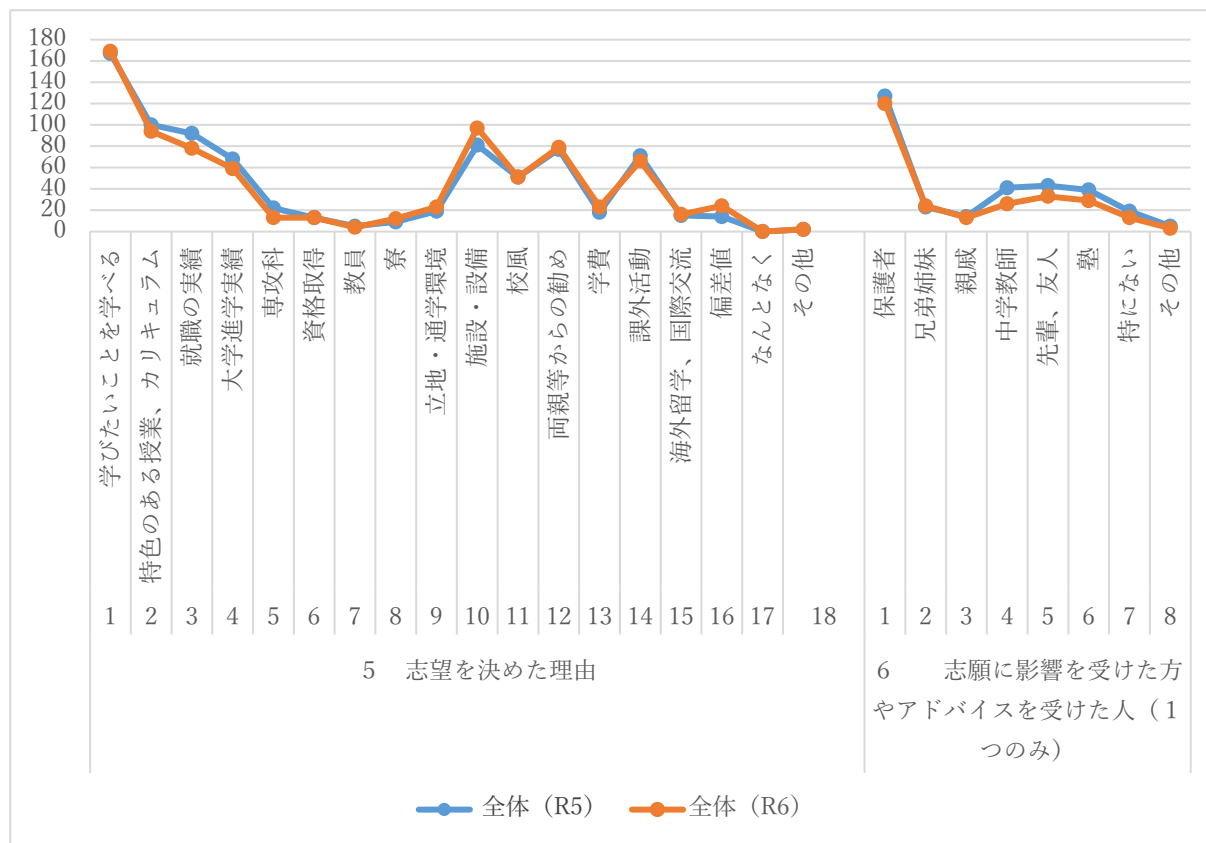
5年間の比較でも大きな変化はない。「授業」、「学則」、学校生活全体の「満足」への関心は、自己が学校生活を送る上で重要であることを志願者の多くが考えていると思われる。「留年・退学」についても気になるところがあるようだ。入学前に志願者に周知することは、本校での学校生活が学業・課外活動共にいかに充実して楽しいものであるか、を「見える化」することが本校の広報に重要であることを示唆するものである。



7. その他(令和6年度アンケートより)

(1) 令和5～6年度の比較で「GC&N・高専女子フォーラム」、「国公立高専合同説明会(KOSEN FES)」が「関心を持ったきっかけ」として上昇している。(5→8、11→18)

(2) 「志願に影響を受けた方やアドバイスを受けた人」において、保護者が最も多く、中学校教師、学習塾、先輩・友人がほぼ同程度である。



(3) 高専機構が発行している『高専』という選択。」を読んだ入学者が、令和4年度から過半数を超えた。「キラキラ高専ガールになろう!」、「KOSEN×GIRLS」は2～3割に留まり、あまり購読されていない。

令和6年度 アドミッションポリシーの適合割合の確認（まとめ）

◆アドミッションポリシーの妥当性及び入学学生の適合度の確認のため、本科1年生学級担任および専門科目担当教員においてはクラスの学生の様子から、専攻科1年生の指導教員においては研究室の所属学生の様子から、それぞれのアドミッションポリシーにどの程度適合しているか、おおよそのパーセンテージでお答えください。
大変答えにくい質問だと思いますが、（適合している学生／受け持たれている学生）×100%を基準にお考えください。

◆アドミッションポリシー

【本科】

- （１）技術者や研究者になって、社会の役に立ちたい人
- （２）基礎的な学力を身に付けていて、自ら進んで学べる人
- （３）科学や技術に関心があり、仲間と協力して新しいものを創造したい人
- （４）他者への思いやりがあり、責任感を持って誠実に行動できる人

【専攻科】

- （１）豊かな人間性を有する技術者になりたい人
（求める要素：人間性）
- （２）自らの専門分野を生かし、さらに応用する力を育みたい人
（求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力）
- （３）技術を通して国際社会や地域に貢献したい人
（求める要素：主体性・協働性・多様性）

【システム創成工学専攻】

- （４）創造性を高め、新しいシステムをつくり出したい人
（求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力）

【物質創成工学専攻】

- （４）環境、エネルギー、バイオ、新材料およびこれらを融合したプロセスに関して
その課題発見と解決に貢献したい人
（求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力）

◆回答

回答者		（１）	（２）	（３）	（４）
本科1年生	1 M	78%	69%	79%	84%
	1 E	84%	75%	74%	88%
	1 S	90%	89%	83%	89%
	1 I	75%	83%	80%	88%
	1 C	79%	73%	73%	81%
専攻科1年生	1 A M	99%	99%	99%	99%
	1 A E	100%	100%	100%	100%
	1 A I	95%	94%	94%	94%
	1 M C	85%	80%	75%	83%

◆評価

本科：機械工学科では、アドミッションポリシーの項目（２）において適合割合が69%であるが、その他の項目の適合割合は70%を超えている。電気工学科、電子制御工学科、情報工学科、物質化学工学科では、アドミッションポリシーの全ての項目において適合割合が70%を超えていると回答されている。これらのことから本科のアドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れがある程度できていると判断できるが、受験生に対して本校のアドミッションポリシーの認知度をさらに向上させる必要がある。

専攻科：システム創成工学専攻（全コース）では、アドミッションポリシーの全ての項目において適合割合が90%を超えており、物質創成工学専攻では、アドミッションポリシーの全ての項目で適合割合が70%を超えていると回答されている。このことから専攻科のアドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れができていると判断できる。

令和6年度 内部質保証に係るカリキュラムレベルの点検表（学科主任）まとめ

1. 教育の内部質保証システム		検討部門
(1) 学校の「理念と目標」及び学科・専攻科の3つの方針（DP、CP、AP）が、社会の状況等の変化を踏まえた上で、現状、適切であると言えるか？		
一般	・問題ない	
機械	・問題ない	
電気	・問題ない	
電子制御	・問題ない	
情報	・問題ない	
物質化学	・問題ない	
2. 教育組織及び教員・教育支援者等		検討部門
(1) 必要な教員が適切に配置されているか？		
一般	・問題ない	
機械	・問題ない	
電気	・問題あり → 専門教員は博士号を取得している必要があるため、強い研究思考を持っている人が必然的に多くなり、どうしても偏った人材が集まります。教育の場では多様な視点が求められるため、我々が技術的にも文化的にも視野を広げなければいけないと思います。しかしながら、ここに集まった不器用なタイプは、慌ただしい状況下において隙間時間をつくるのが苦手なため、外に目を向ける余裕や、学業以外の学生生活（部活動など）に触れる機会を増やす必要があると感じます。費用を抑えて部活動を維持する方法、過保護な学習支援の抑制、効果的に学生を育てる一般と専門教員の融合教育（一般教員の学科配属等）各種手続きの省力化（押印なし、Forms等を活用した積極的なDX化）や業務外注など、目先の効率にとらわれない業務ダイエツと教員の余裕づくりに力を注いでいきたいと考えています。厳しい状況なので、広報等、費用をかけてプロのコンサルタントにメスを入れてもらってもいいのではと思います。	企画会議
電子制御	・問題あり → 改組後、ロボティクス情報コースに専門性のある教員が不足しないのかを具体的なコースカリキュラムを通して検討し、若い専門性のある教員採用計画を進めていただきたい。	教務部門
情報	・問題ない	
物質化学	・問題ない	
(2) 教員の能力向上を図る取組（研修・FD）が適切になされているか？ 本年度、別紙のような研修（FD・SD）を実施した。		検討部門
・本年度の研修は、適切であったか？		
一般	・問題ない	
機械	・問題ない	
電気	・問題あり → 他の会議や業務と重なっていることが多く、また学生サポートに要する時間が増加しているため、平日の勤務時間内に教員がなかなか集まらない状況です。難しいことを承知で書きますが、一部の研修を任意参加にして時間外（17時以降、残業ではなく研鑽の機会を与えるサービスとして）に実施できる方法があれば、逆に教員が集まってくるのでは？ 方法があれば試してみたいです。	総務部門
電子制御	・問題ない	
情報	・問題ない	
物質化学	・問題ない	
・今後、FDで取り上げて欲しい内容や、具体的な講師の候補などがあれば記入ください。		検討部門
一般	「内容」についてのことでありませんが（研修やFDは適切に行われていると感じますが）、教員の参加をより増やす方策を考えて頂きたい（と同時に主任として参加教員を増やす方策を考えていきたい）と感じております。	総務部門
電気	現場に寄り添った研修、実践テクニック、初心に戻れるような研修 ・部活、授業、保護者、学校運営、広報等に関する失敗・経験話、現場スキル ・合わない上司・部下との付き合い方、好転方法 ・効率的な業務のこなし方、業務を削減してくれるデジタル機器の使いかた ・学生の目が輝き、笑顔を増やす方法 ・内面を研鑽できる研修 ・普段触れない世界（哲学、文化、海外等）に触れる研修（ダイバーシティ）（講演者） ・経験と失敗を多く積んだベテラン教員やベテランエンジニア ・スキルをお持ちの臨床心理士、医者など（臨床心理士の研修はとても参考になっています） ・違う世界を経験してきた人（ダイバーシティ）南極越冬経験者、現在のウクライナやガザ地区を実際に見てきた人、住職、等	総務部門
(3) 技術職員や事務職員が適切に配置されているか？		検討部門
一般	・問題ない	
機械	・問題ない	
電気	・問題あり → 事務職員の方々の多忙さが年々増している様子です。教員へのタスク分散も実施されていますが、教員も回っていないため互いに悪循環しており、押印の見直しやDX化による手続きの簡素化、事務係と教員のタスクがわかりやすく管理しやすいシステムづくりを急がないといけないです。	企画会議
電子制御	・問題ない	
情報	・問題ない	
物質化学	・問題ない	

3. 学習環境及び学生支援等		検討部門
(1) 本校では、担任や主任、教科担当者、各種委員会委員が中心になって、学生の学習支援、学生生活支援、進路指導などを行う体制をとっているが、現状の体制は機能していると言えるか？また、学科における学生支援の体制に問題はないか？		
一般	・問題ない	
機械	・問題ない	
電気	よりサポートが必要な学生は増加傾向にあります。多忙化に加えて、特に対応が必要な学生に時間を要し、それ以外の学生サポートに割ける時間が減少し、教員と学生の距離が年々遠ざかっているように感じます。一方Teams等のお陰で、学生の状況確認と迅速な連絡が取りやすくなりました。教員が教員らしく教育できるような環境づくりに力を注いでいきます。	学生部門
電子制御	・問題ない	
情報	・問題ない	
物質化学	・問題ない	
4. 教育課程・教育方法		検討部門
(1) 現在実施されている教育課程は、社会情勢の変化などを踏まえて、適切な科目配置になっているか？また、CPに適合しているか？さらにDPを達成するための配置となっているか？		
(令和6年度は回答を要しない。カリキュラム改訂以降に回答を求める予定)		
(2) 学科で実施している創造力・実践力を育む教育方法の工夫について、挙げてください。また、学校全体として、改善すべき点があれば挙げてください。		検討部門
・学科での取り組み内容		
一般	一般教科は多分野にわたる教科の“集合体”であり、日々それぞれの教科の特性を生かした工夫をしております。理系科目を中心として、座学で学んだことと実際の現象を結びつける「実験」や、計算力を確実にするための「ティーチングアシスタント」を実施し、また文系科目を中心としては、コミュニケーション能力をつけるための「グループワーク」を取り入れた授業の実施や、持続的な社会発展に貢献できる人材を育てるために「地域の文化や産業にも目を向ける」ことにも力を入れています。一方で、グローバルな社会で活躍できる人材を育てるための実践的な外国語コミュニケーションスキルを高めるトレーニング、また生涯にわたってスポーツや武道などの身体運動に親しむ実践的な態度や知識を育成することを意識した授業、および、芸術にも興味や関心を持つための授業を展開しています。	
機械	「設計工学（5年）」等で問題解決型の授業を行っている。	
電気	まず1年生の専門科目の中で、暗記勉強から脱却し、基礎を組み合わせる物事を考え判断していく練習や、能動的に授業やテストに取り組む練習を行っています。また実習系科目で電気回路を触って考えたり、グループディスカッションを通してプレゼンテーションする場をつくっています。3年生の座学では、電気技術、SDGsと本学科で挑戦している研究内容をリンクさせ、特に関心を持った領域についてグループで調査報告を行っています。4年生では家電の中身（実物）を調べる授業や、生産ラインを構築するラダー図等を学び、5年生になると各種応用領域に展開し、組み込み技術を習得する機会も設けています。並行で、2年生から5年生までの実験科目を通し、各種測定器の使い方、自ら考えプログラミングを行うマイコン・CPU制御、ディスカッションからSDGsに関わる課題と解決策を見いだして具現化（電気機器を製作）する実習など、創造力と実践力を育むトレーニングを行っています。また、集大成となる卒業研究では、世の中の各種課題やNeedsに応えるため、研究開発を実施しています。一方本学科では、電気主任技術者と電気工事士の資格取得に関する認定を受けており、実践力が養えるカリキュラムを構築しています。	
電子制御	創造力や実践力を育む教育として、電子制御工学科では1年生から4年生まで実験の中でプロジェクトベース学習（PBL）を取り入れ、現実の問題を解決するPBL学習を行い、創造的な問題解決能力や実践的なスキルを養っている。具体的には、5人程度のグループに分かれ、与えられた課題に対して自立移動ロボットをベースとしたロボットシステムを作り問題を解決する方法をディスカッションする。これにより、学生が自分の考えを明確にし、他者の意見を評価する能力を身につけることができている。また、4年生で実施しているインターンシップでは、高専外での実践的な経験を通じて実社会の問題に取り組む機会を提供している。	
情報	情報アクティブラーニングI、II科目、3、4年生対象の合同実習科目、8～9名/班の構成で10週程度のグループワークを行い、教員が設定した大まかなテーマに対し、テーマの具体化のための企画レベルから実現レベルまでをグループで行い、最終週に成果をポスター発表する。半期ごとに班構成を変えて、3、4年の2年間で計4つの班でのグループワークを経験する。教員が設定したテーマは、「生成AIを用いて何かを作る」「学科広報コンテンツを作る」など多岐に渡るが、共通しているのは情報分野で学んだことを活かしたモノづくり、システムづくりに取り組むことが前提となっている。	
物質化学	昨年度に引き続き、物質化学工学科1年～5年生のTeamsを立ち上げた。学生チャレンジプロジェクトの案内、学科広報などを通して、学科学生間の縦のつながりを促進した。	
・学校全体として改善すべき点など		検討部門
一般	一般教科の特性と専門学科の特性を“かけ合わせた”教育を実施できるよう、一般教科と専門学科の協働をより一層深めるべきであると考えています。	教務部門
機械	それぞれの所属学科だけの知識では解決できない問題に学科横断で取り組む授業を低学年で実施するとさらに創造力・実践力が育まれると思われる。	教務部門
電気	想像力や実践力を育む教育には、マンネリ化しない学生を能動的にする教材が求められ、これらの開発に教員の時間と余裕が必要です。また、学生のモチベーションを上げるには、普段から教員が夢や技術の話語る余裕が必要。年々このような時間を設けることが難しくなっています。	教務部門
電子制御	具体的な改善点ではないが、低学年から学生が主体的にコトを探求し、その延長線上の高学年で専門性を深められるカリキュラムであれば良いと思う。	教務部門
情報	R9年度改組に向けて、既に1年「情報リテラシー」科目で2年前から導入済の全学共通の「数理DS/AIの実習」について、R9年度新カリの目玉の一つである、全学横断の情報共通教育科目の一貫であることを入試広報に取り入れたいか？	総務部門
物質化学	なし	

(3) 次回のカリキュラム改訂の検討を行っているか？		検討部門
一般	・行った	
機械	・行った	
電気	・行った	
電子制御	・行った	
情報	・行った	
物質化学	・行った	
(4) (カリキュラム改訂の検討を行っている場合) 講義・演習・実験・実習のバランスが適切かの検討を行っているか？		検討部門
一般	・行った	
機械	・行った	
電気	・行った	
電子制御	・行った	
情報	・行った	
物質化学	・行っていない	
(5) (カリキュラム改訂の検討を行っている場合) 効果的な授業方法の検討を行っているか？		検討部門
一般	・行った	
機械	・行った	
電気	・行った	
電子制御	・行った	
情報	・行った	
物質化学	・行っていない	

5. 学習・教育の成果		検討部門
(1) 卒業生や進路先関係者等の意見から判断して、本校の教育は十分な成果を上げていると考えられるか？(学校全体に対する検討希望や提案と、学科としての自己点検結果)		検討部門
一般	・問題ない	
機械	・問題ない	
電気	・問題あり → 卒業生・修了生が進学および就職した大学や企業から、本学科と専攻科のコースについて高い評価をもらっています。進学後、博士課程に残る学生の比率も高い。一方で、精神的に弱い者やコミュニケーションが苦手な者も増えており、大きな課題です。以前は苦手に対する対応の仕方等、在校時に学科教員とやり取りを繰り返してトレーニングをしていましたが、近年、教員にその余裕がなくなってきました。	学生部門
電子制御	・問題ない	
情報	・問題ない	
物質化学	・問題ない	
(2) 卒業後の進路状況(就職・進学)から判断して、本校の教育は十分な成果を上げていると考えられるか？(学校全体に対する検討希望や提案と、学科としての自己点検結果)		検討部門
一般	・問題ない	
機械	・問題ない	
電気	・問題あり → 本校に対する企業からの評価は高いですが、前述の通り右下がり傾向にあります。教員同士が学生について話し合える環境をつくった上での自由な教育の推進、過保護？な支援の抑制が求められていると感じます。とにかく、本校教員が学生と向き合える時間を増やさないといけないです。	企画会議
電子制御	・問題ない	
情報	・問題ない	
物質化学	・問題ない	

6. 点検内容		検討部門
(1) この点検項目について追加、不要、修正などの意見があるか？		検討部門
一般	・問題ない	
機械	・問題ない	
電気	・問題ない	
電子制御	・問題ない	
情報	・問題ない	
物質化学	・問題ない	

点検評価：総務委員長

内部質保証とは、PDCAサイクルを適切に機能させることによって、質の向上を図り、教育・学習等が適切な水準にあることを学校の責任で説明し証明していく学校内の恒常的・継続的プロセスのことであり、この点検表はカリキュラムレベル(学科レベル)のチェックにあたるものであり、各科の状況を各科主任に取りまとめでいただいた。「学校の理念と目標及び3つの方針」については各科とも問題なしとの回答であったが、「教育組織及び教員・教育支援者」、「教員の能力向上を図る取組」、「学習環境及び学生支援」、「教育課程・教育方法」、「学習・教育の成果」においては、いくつかの問題提起がなされており、学校全体(企画会議)や各部門で対応を検討する必要があると考えられる。

令和6年度アセスメントプラン実施確認表

番号	項目	対象	実施方法	実施日等	IR データ
①	入学試験	入学者	【本科・推薦】 適性検査・面接	1月18日（土） （可否判定1月21日（火）） 2月1日（土）（追） （可否判定2月4日（火）） 【運営会議，教職員会議審議】	○
			【本科・学力】 学力検査	2月9日（日） （可否判定2月12日（水）） 【運営会議，教職員会議審議】	○
			【編入学】 学力検査・面接	6月2日（日） （可否判定6月4日（火）） 【運営会議審議】	
			【専攻科・推薦】 面接	5月16日（木） （可否判定5月21日（火）） 【運営会議審議】	
			【専攻科・学力】 学力検査・面接・TOEIC	6月15日（土） （可否判定6月18日（火）） 【運営会議審議】	
②	調査書・推薦書	入学者	提出された調査書・ 推薦書	本科・推薦 12月24日（火）～1月9日（木） 本科・学力 1月22日（水）～1月28日（火） 編入学 5月20日（月）～5月24日（金） 専攻科・推薦 5月7日（火）～5月10日（金） 専攻科・学力 6月3日（月）～6月7日（金）	○
③	AP の適合割合確認	入学者	提出された調査書 適性検査 学力検査 面接	①，②と同様 【運営会議，教職員会議審議】	
④	AP の適合割合確認	本科1年学級担任 本科1年 専門科目授業担当 専攻科1年指導教員	アドミッションポリシー の適合割合の確認 （アンケート）	提出期限3月5日（水） 【R7年4月総務委員会報告】（予定）	
⑤	休学率・留年率・退学率	本科2～5年	進級認定資料 卒業認定資料	【R7年4月教務委員会報告】（予定）	○

⑥	授業アンケート	本科 1～5 年 専攻科 1・2 年	授業アンケート (Forms)	前期集中科目 提出期限 9 月 30 日 (月) 後期集中・通年科目 提出期限 1 月 28 日 (火) 【 R7 年 4 月総務委員会報告】(予定)	○
⑦	成績評価	本科 1～5 年 専攻科 1・2 年	成績根拠資料 (定期試験, 課題等)	卒業認定 2 月 25 日 (火) 【教務委員会, 運営会議, 教職員会議審議】 進級認定 3 月 7 日 (金) 【教務委員会, 運営会議, 教職員会議審議】	○
⑧	情報交換ノート	本科 1～5 年	学級担任・科目担当者情 報交換ノート	前期中間 提出期限 6 月 21 日 (金) 前期末 提出期限 8 月 30 日 (金) 後期中間 提出期限 12 月 16 日 (月) 学年末 提出期限 2 月 19 日 (水) 【学級担任による確認】	
⑨	学修満足度調査	本科 2～5 年	ディプロマポリシー, 卒 業・進級認定の認知度と学 習環境・達成度に関するア ンケート	実施 4 月 4 日 (木) 【5 月教務委員会報告】	
		本科 1～5 年 専攻科 1・2 年	学びの状況調査 (高専機構)	回答期限 11 月 29 日 (金) 【12 月企画会議報告】	
⑩	ポートフォリオ	本科 1～5 年	e ポートフォリオ (WebClass)	前期中間入力期限 7 月 31 日 (水) 前期末入力期限 10 月 31 日 (木) 後期中間入力期限 12 月 26 日 (木) 総括入力期限 2 月 28 日 (金) 【随時, 学級担任による確認】	
⑪	内部質保証に係るカリキュラム点検	学科主任	内部質保証に係る カリキュラムレベルの点検表	提出期限 2 月 20 日 (木) 【3 月総務委員会報告】	
⑫	グループ FD	教員	成績根拠資料状況確認表 グループ FD 報告書	報告書提出期限 3 月 31 日 (月) 【R7 年 4 月総務委員会報告】(予定)	
⑬	公開授業アンケート	保護者・教職員	公開授業参観報告	前期提出期限 7 月 12 日 (金) 後期提出期限 12 月 26 日 (木) 【学級担任, 学年主任, 担当教員に報告】	
⑭	授業チェックシート	教員	授業チェックシート (Forms 入力)	入力期限 3 月 10 日 (月) 【R7 年 4 月総務委員会報告】(予定)	
⑮	卒業研究論文評価	教員	卒業論文 卒業研究発表会	卒業認定 2 月 25 日 (火) 【教務委員会, 運営会議, 教職員会議審議】	
⑯	進路状況	卒業生	大学編入学等受験状況及 び就職先一覧	9 月以降随時報告 【11 月進路対策協議会報告】	

⑰	卒業時・修了時アンケート	本科 5 年 専攻科 2 年	卒業生・修了生アンケート	回答期限 2 月 28 日（金） 【3 月企画会議，運営会議報告】	
⑱	進学先・就職先アンケート	企業・大学等	卒業生就職先アンケート	隔年実施（令和 7 年度実施予定） ※令和 5 年度に実施	

単位：％

本科	(1) 人文・社会・自然についての豊かな教養を身に、自主的・継続的に学習ができる。 【基礎力】	(2) 各専門科目の学習成果目録・教習目標に導ける知識・技術・能力を有する。 【専門応用力】	(3) 多様な個性や価値観を持つ他者と意思疎通し、同じ目的に向ける協働ができる。 【協働力】	(4) 技術者としての倫理観を身に、責任ある行動をもって社会に貢献できる。 【社会貢献力】
1. ポリシーを満たすまでの能力は身につかなかった	5.03	4.46	2.79	2.79
2. ポリシーをほぼ満たす能力が身についた	40.22	35.20	30.17	31.28
3. ポリシーを完全に満たす能力が身についた	35.76	34.08	40.22	40.79
4. ポリシー以上の能力が身についた	18.99	26.26	26.82	25.14

システム創成工学専攻

専攻科	(A) 幅広い視野と教養	(B) 技術者、科学者としての高度な教養	(C) 工学の基礎	(D) 研究成果の発表力	(E) 技術者に必要な英語力	(F) 専門分野の知識	(G) システムの設計力	(H) 問題解決能力
1. ポリシーを満たすまでの能力は身につかなかった	2.78	2.78	0.00	5.56	8.33	0.00	0.00	0.00
2. ポリシーをほぼ満たす能力が身についた	13.89	13.89	19.44	19.44	38.89	16.67	23.33	10.00
3. ポリシーを完全に満たす能力が身についた	61.11	58.33	50.00	41.67	33.33	50.00	56.67	60.00
4. ポリシー以上の能力が身についた	22.22	25.00	30.56	33.33	19.44	33.33	20.00	30.00

物質創成工学専攻

(F) 専門分野の知識2	(G) 物質・材料の創出力	(H) 優れた技術・研究能力
0.00	16.67	0.00
66.67	66.66	66.67
33.33	16.67	33.33
0.00	0.00	0.00

共通

卒業生等の学習成果目録について要領を要したら、自由に記述してください。		専攻科2年
今後重要になるリや持続可能な開発目標についての授業を多く入れて欲しい	本科5年	
デザイン思考の導入やモノ、コトづくりへの関心向上	0A0教育	
コミュニケーションをとる場がないためコミュニケーションが落ちたように感じる	実験の内容とそれに必要な専門科目を導く順序を適切にすればもっと良くなると思う。	奈良高専やネットワークで見ることのできる雑誌を増やして投稿論文や国際学会のmanuscriptの執筆時、閲覧できる雑誌数がありに少なかったです
修学旅行を無くすなど、若人の青春を奪うようなことはしない方がいいと思う。	電子制御工学科所属ですが、実習範囲が広く多いので一つ一つの学習内容が濃い気がします	IIILという機能は知っており多用していましたが、やはり不便です。
機械工学科	他学科交流、多学年交流を全学年で行いたい	高専組織内で見ることのできる雑誌が増えることは、ディプロマポリシーにも記述されている。高専生全体の「専門分野の知識」「技術者に必要な英語力」を段階に上昇させると価値は低いかもかもしれませんが、具体的ににはIEEEやXSE等各学科の特色をもった生徒の成長の幅が大きいことと、また英語の学習については必ず必要があると思う
0A0教育に力を入れて欲しい	専門科目においてやる気のある先生とない先生の差がありすぎる。独自の資料を作ってくださる方からインターネットから拾ってきたものをただ板書するだけなど。どうか質を平均化して欲しい。	今後の高専教育の向上につながると思います。
奈良高専のしなやかな組織はとても良かったと思います。エンジニアとしての視点が多く持つことができて、たくさんさんの知識、興味を得ることができています。こればかりキュラムに組み込むことでもっと生徒の成長の幅が大きいことと、また英語の学習については必ず必要があると思う	女性エンジニアは全く無意味。やる気のある男の子を削ぐことに意味を感じない。	
スケジューリング能力も並ぶ位大事だと思いました。	女性エンジニアは全て(4名から記載あり)	特になし(2名から記載あり)
女性エンジニアは全て(4名から記載あり)	特になし(4名から記載あり)	

【評価】
(本科)
本科においてDPを満たさないという自己評価は全ての項目の平均で4を下回り、95%以上のものが一定の水準にあると自己評価している。卒業単位が揃っていることは、学校の評価としてもDPを満たしていることと同値である。
(専攻科)
このことから、本校の専攻科のDPが適切であり、卒業生がDPを満たしていることと判断できる。
(専攻科)
このことから、本校の専攻科のDPが適切であり、修了生がDPを満たしていることと判断できる。
ただし、専攻科生全体の約9%が「技術者に必要な英語力」がポリシーのレベルまで到達していないと自己評価しており、昨年度の結果と同様に改善が見られていない。さらに、物質創成工学専攻の専攻科生の約17%が「物質・材料の創出力」がポリシーのレベルまで到達していないと自己評価しているなど、0Fの点検及び教育改善が必要である。

令和6年度 授業チェックシート集計結果

設問番号・内容																		※「13. 試験・レポート・課題の回数および返却率」の掲載			
1		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	14 授業時間外に行った学習指導等について		はい／総数						
学生に授業到達目標・教育方針等の説明をしましたか？		開講時にシラバスの内容を説明しましたか？	授業はシラバスの内容に沿って実施したか？	適切な教材を用いていますか？	学生の授業中の反応をチェックして、活用していますか？	課題・レポート等を適切に実施したか？	成績評価の根拠資料(定期試験、小テスト、課題など)は適切に保存していますか？	学生の興味や理解度を高める工夫をしましたか？	授業アンケートなどの点検結果を来年度の授業に反映しますか？	学生が授業に自律的に取り組む仕組みを行っていますか？	オフィスアワー	補習・補講	課題・レポート	追試験・追実験	その他						
本 科	一般教科	国語	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	5/5	8/8	8/8	8/8	8/8	6/8	3/8	7/8	4/8	0/8				
		社会	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	3/3	4/4	0/4	0/4	4/4	3/4	4/4	0/4	0/4				
		英語	18/18	18/18	15/18	18/18	18/18	18/18	6/6	18/18	18/18	9/14	18/18	5/18	11/18	4/18	2/18	0/18			
		体育	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	5/5	9/9	9/9	9/9	9/9	7/9	3/9	5/9	2/9	0/9			
		数学	21/21	21/21	21/21	21/21	21/21	21/21	2/2	21/21	19/21	19/21	18/21	20/21	7/21	19/21	8/21	1/21			
	専門学科	理科	13/13	13/13	13/13	13/13	13/13	13/13	0/0	13/13	11/13	11/12	10/13	10/13	0/13	8/13	1/13	0/13			
		芸術	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	1/2	0/2	1/2	0/2	0/2			
		機械	42/42	40/42	40/42	41/42	40/42	42/42	17/18	42/42	40/42	39/42	36/42	32/42	5/42	18/42	8/42	2/42			
		電気	39/39	39/39	39/39	38/39	39/39	39/39	11/17	39/39	39/39	17/31	33/39	15/39	7/39	25/39	16/39	1/39			
		電子制御情報	18/18	18/18	18/18	18/18	18/18	18/18	7/7	18/18	17/18	18/18	13/18	13/18	3/18	13/18	4/18	0/18			
小計	物質化学	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	16/16	37/37	36/37	33/37	29/37	26/37	9/37	23/37	13/37	0/37				
	物性化学	32/32	32/32	32/32	32/32	32/32	32/32	16/16	32/32	32/32	26/31	23/32	25/32	8/32	18/32	8/32	1/32				
	総数	243/243	243/243	238/243	241/243	243/243	243/243	90/97	243/243	231/243	191/229	199/243	164/243	59/243	145/243	66/243	5/243				
割合	100.0%	100.0%	97.9%	99.2%	100.0%	100.0%	92.8%	100.0%	95.1%	83.4%	81.9%	67.5%	24.3%	59.7%	27.2%	2.1%					
専 攻 科	一般教科 (専攻科)	国語	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	0/1	0/1	1/1	0/1	0/1				
		社会	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0				
		英語	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	2/3	3/3	0/3	0/3	3/3	0/3	1/3			
		数学	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	0/0	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	0/1	0/1	0/1	0/1			
		理科	2/2	2/2	2/2	1/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	0/2	0/2			
	専門学科 (専攻科)	機械	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	7/8	6/8	8/8	5/8	0/8	4/8	0/8	1/8			
		電気	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	8/9	9/9	6/9	6/9	7/9	2/9	1/9	6/9	1/9	1/9			
		電子制御情報	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	1/3	2/3	0/3	2/3	0/3	0/3			
		情報	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	6/6	8/8	8/8	6/8	8/8	5/8	0/8	5/8	0/8	0/8			
		物質化学	9/9	9/9	9/9	8/9	9/9	9/9	8/8	9/9	9/9	5/9	9/9	4/9	1/9	6/9	0/9	0/9			
小計	総数	44/44	44/44	44/44	42/44	44/44	44/44	39/40	44/44	40/44	32/44	40/44	21/44	2/44	29/44	1/44	3/44				
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	95.5%	100.0%	100.0%	97.5%	100.0%	90.9%	72.7%	90.9%	47.7%	4.5%	65.9%	2.3%	6.8%				
	合計	287/287	287/287	282/287	283/287	285/287	285/287	129/137	285/287	271/287	223/273	239/287	185/287	61/287	174/287	67/287	8/287				
割合	100.0%	100.0%	98.3%	98.6%	99.3%	100.0%	93.5%	100.0%	94.4%	81.7%	83.3%	64.2%	21.3%	60.6%	23.3%	2.8%					

【備考】 一般教科の回答数は科目ごとに集計している(複数クラスを担当しているも1とカウントする)。そのため昨年度の回答数とは単純には比較できないことに注意。

【評価】

・専門学科で概ね40前後の専門科目が開講されているので、授業チェックが実施されていく必要がある。
 ・基本12項目では、昨年度100%ではなかった項目のうち問2、6、7、9の4項目で100%となり、改善がみられる。また問10では昨年より本科で5ポイント程度、問11では低い水準ではあるものの本科で6ポイント程度の向上がみられた。一方で、問12は昨年度よりもポイントが下がりがり低い水準にある。これらの問1～問12の項目は100%を目指す項目であるので改めて全教員に周知・依頼をする必要がある。

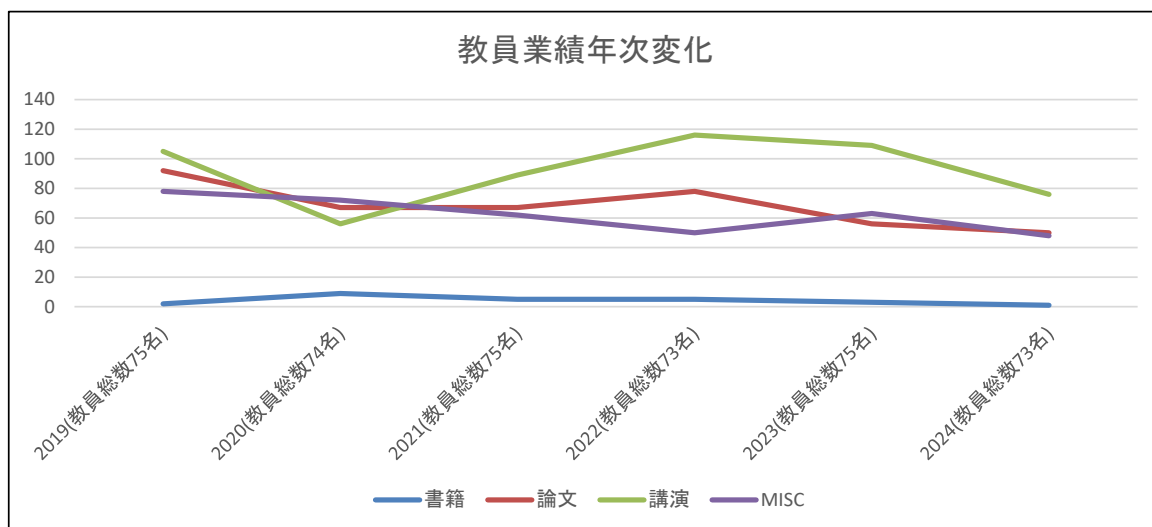
・問14「授業時間外に行った学習指導等について」では「オフィスアワー」「追試験・追実験」において昨年度よりポイントが下がっている。これらは学生の求めや必要に応じて実施するものである。問14「授業時間外に行った学習指導等について」では「追試験・追実験」において昨年度よりポイントが下がっている。これらは学生の求めや必要に応じて実施するものである。問14「授業時間外に行った学習指導等について」では「追試験・追実験」において昨年度よりポイントが下がっている。これらは学生の求めや必要に応じて実施するものである。

著書・研究論文等の発表件数調べについて(2019年～2024年)まとめ

【Researchmapを使った研究活動の集計方法】

- ①毎年1月20日を前年研究業績入力締め切り日とする。
毎年1月23日～1月30日の間で3日程度のダウンロード期間(今年度は1月27日～30日)を定め、総務課で Researchmapのデータをダウンロードする。
- ②書籍、論文、MISC、講演・口頭発表の項目について、過去5年分件数を学科ごとに集計し、自己点検・評価報告書に結果を記載する。
項目分類については各分野の慣例に従う。

【集計結果】



		校長	一般教科	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	総計
2019 教員総数75名	書籍		2						2
	論文	5	6	15	11	15	22	18	92
	講演		14	20	31	8		32	105
	MISC	9	6	7	8	9	23	16	78
2020 教員総数74名	書籍		8					1	9
	論文	8	9	9	4	8	18	11	67
	講演		4	7	20	8		17	56
	MISC	5	2	4	8	5	36	12	72
2021 教員総数75名	書籍	1	3			1			5
	論文	3	7	3	9	11	16	18	67
	講演		5	18	28	10	4	24	89
	MISC	10	5	14	7	2	18	6	62
2022 教員総数73名	書籍	1	3			1			5
	論文	6	6	16	5	17	14	14	78
	講演		9	24	40	5		38	116
	MISC	5	1	8	9		19	8	50
2023 教員総数75名	書籍		2				1		3
	論文	6	11	3	9	7	9	11	56
	講演		2	21	31	16	1	38	109
	MISC	5	3	14	7	3	23	8	63
2024 教員総数73名	書籍			1					1
	論文	1	4	9	5	11	14	6	50
	講演		4	27	8	15		22	76
	MISC	3	2	24	5	1	11	2	48

【評価】

教育研究活動による社会への貢献を目的として、日常的に自己の専門分野に関する研究を行い、研鑽に努めている。その成果は、書籍、学術論文、学会発表等の形で公表され、最近1年間の実績は書籍1件、学協会等への発表論文50件、国内外における学協会等での発表76件、その他48件となっており、ほぼ例年通りの成果発表が行われていると評価する。

教育方針等に係る質問集計(令和6年度運営諮問委員会) 集計表

	1. 教育方針等について					3. 数理・データサイエンス・AI教育プログラムについて		
	(1) DPが「教育理念」、「人材養成目的」と整合しているか	(1) 整合していないと回答される場合、整合していない点について理由等	(2) DPが社会の情勢に適合しているかの観点から、妥当であるか	(2) 妥当でない点と回答される場合、適合していない点について理由等	2. 改組について	(1) 本プログラムの実施体制(g.6)や授業の質向上に関する取り組み(g.7-p.8)についてどう思われますか?	(1) 改善の必要があると回答された場合、可能でしたら改善案をお聞かせください	(2) 本プログラムに関する意見や育成する学生像に対する要望などがありましたら記載ください
豊橋技術科学大学 角田 範義	整合している	なし	妥当である	なし	なし	妥当である	なし	期待しています
大和郡山市長 上田 清	意見なし		意見なし		意見なし	意見なし		
奈良先端科学技術大学院大学 松本 健一	整合していない	整合しているとは思いますが、特に「教育理念」どの整合性がより明確となるような文言としてはどうでしょうか。 例えば、「教育理念」として「創造の意欲」を掲げておられるので、(1)において、「自主的・継続的に創造性豊かな学習ができる」かどうか、(4)において「活用できる」「創造性を発揮できる」などです。 また、「幅広い視野」を掲げておられるので、(1)において、自主的・継続的・多面的に学習ができる」かどうか、(4)において「多面的に活用できる。」かどうか、(5)において「課題を多面的に捉え解決する技術者・研究者」などです。 なお、「自律と愛護」については、(2)の「協働」が対応しており、すでに整合性がよくわかるようになっていくように思います。	妥当である	なし	なし	妥当である	なし	特に、演習・PBL科目において、上級生・専攻生(すでにその科目を履修し合格している生徒)がTAなどとして積極的に参画する体制とすることは、担当教員の負担軽減と共に、TAを担当する生徒の実践力等の養成につながると思います。すでにそのような体制となっておりまして、ご放念ください。
大和郡山市立郡山東中学校 前田 典子	整合している	なし	妥当である	なし	なし	妥当である	なし	なし
奈良経済産業協会 二神 洋二	整合している	なし	妥当である	なし	なし	妥当である	なし	我が国を取り巻く環境は、産業構造・環境問題・地政学的リスク・人口減少・デジタル化からの脱却・多様な人材の活用等課題山積です。これら難しい環境下で高専が担う役割は、益々重要になります。世の中の流れを的確につかんでこれからの有為な人材の輩出をより一層願います。
奈良新聞社 高瀬 法義	整合している	なし	妥当である	なし	産業界ではAI技術の導入は喫緊の課題であり、その人材の育成は社会が求めることだと思います。	妥当である	なし	奈良高専の強みでもある「ものづくり」のための人材育成と融合したプログラムの確立を。
奈良県教育委員会 小倉 隆男	整合している	なし	妥当である	なし	なし	妥当である	なし	なし
DMG森精機 中務 陽介回答 (出席者:廣野 陽子)	整合している	なし	妥当である	なし	なし	妥当である	なし	なし

令和6年度 F・D・S・D研修実施一覧

	日 時	場 所	テーマ	担当者	参加者
F D①	令和6年6月5日(水) 13時30分～14時24分 ※教務委員会と共催	Teams	WebClassの運用と使用方法の講習	教務委員会教務主事補 情報工学科・教授 松村 寿枝	34名 教員31名 職員3名 技術0名
F D②	令和6年11月28日(木) 13時30分～15時00分 教職員会議開始前	大視聴覚室	ピア・サポーターってなに？ ～ピア・サポーターの目的と最近の事例紹介～	教務委員会教務主事補 物質化学工学科・准教授 石丸 裕士	36名 教員24名 職員12名
F D③ S D①	令和6年11月29日(金) 13時30分～15時00分 ※ハラスメント防止委員会と共催	Teams	ハラスメントの防止及び排除のために	NPO法人こころ塾 企業サポーター部門 中原 未知生 氏 産業カウンセラー キャリアコンサルタント	39名 教員21名 職員18名 上記は当日出席者
S D②	令和6年12月13日(金) 14時00分～16時00分	ものづくり実験実習棟 多目的室	事務DX化の先にある新たな可能性-三重 大学モデル	三重大学 財務部財務管理 チーム調達室室長 平山 亮	29名 教員1名 職員28名
F D④ S D③	令和7年2月3日(月) 13時30分～14時30分 ※人権教育推進・いじめ防止対策委員会主催 ※学生支援センターと共催	合同教室	言葉のちから～学生支援にいかすシステム ムズアプローチ～	遠野浩子カウンセラー (大阪大谷大学人間 社会学部心理・福祉 学科 准教授)	37名 教員28名 職員5名 技術4名
F D⑤	令和7年2月5日(水) 13時30分～15時00分	大視聴覚室	教育改善への生成AIの活用 ～先生も楽しむ授業～	一関工業高等専門学校 小林 淳哉 校長	35名 教員29名 職員6名
S D④	令和7年2月20日(木) 13時30分～14時00分	合同教室	令和9年度認証評価受審に向けて	事務部長	33名 教員13名 職員20名
F D⑥ S D⑤	令和7年3月10日(月) 14時00分～15時30分 ※ダイバーシティ推進委員会と共催	ものづくり実験実習棟 多目的室	ジェンダー平等をめざして ～学生たちになにをどう伝えますか？～	奈良県女性センター (いきサボ座)	19名 教員11名 職員4名 技術3名 非常勤職員1名
F D⑦	令和7年3月18日(火) 14時00分～16時00分	合同教室	高専での授業や特別活動などへの ピア・サポーターの適応について	下関市立大学	24名 教員18名 職員6名

あ と が き

教育・研究の高度化，教育機関の個性化・多様化，教育の成果（アウトカムズ）の可視化，組織運営の活性化等の要求から高等教育機関における内部質保証システムの重要性は今後もますます高まると予想される。本報告書は，本校の内部質保証の評価点検結果をまとめたものであり，各部門の総括と重点課題，各学科の総括，機関別認証評価の観点に合わせた自己点検評価からなる本文編と，関係する資料からなる資料編で構成されている。

今年度は主に，本文は令和6年4月から令和7年3月まで，資料は令和2年4月から令和7年3月までの5年間を対象としてまとめている。

本校は外部評価として，運営諮問会，認定専攻科審査，専攻科特例認定審査，機関別認証評価等を受けている。また，日本工学教育協会が認定する「国立高専教育国際標準（KOSEN International Standard：KIS）」が始まり，令和10年に本校も受審する予定である。なお，KIS評価・認定プロセスは，日本技術者認定機構（JABEE）の定める認定機関認証評価基準を満たしていると認証されている。

さて，令和6年度の運営諮問会は「奈良先端科学技術大学院大学との「高専－大学院連携教育プログラム」」をテーマに開催され，外部有識者の皆様から本校専攻科教育に対するご意見，ご助言をいただいた。これらを踏まえることで本校の教育プログラムの一層の発展が見込まれている。また，本年6月には大学改革支援・学位授与機構の助成事業「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）」として本校の「専門にもAIにも強い人材を輩出する奈良高専モデルによる高度情報人財育成」が内定した。これを受け，本年度の運営諮問会では「奈良高専の改組実施について」（案）をテーマとすることを予定している。令和9年の改組を中心とした本校が推進する各種の取組みについて，委員の皆様には関連なご議論をお願い申し上げる。

本報告書は，平成13年12月発行からはじまった「自己点検・評価報告書－奈良高専の教育・研究・社会貢献への取組みと課題」以来，形式や内容をリニューアルしながら，過去の「報告」に重点をおいたものから，「点検評価」に重点を移し教育の外部評価，内部質保証に資するよう改善を続けている。

最後に，ご多忙の中，本報告書の執筆，編集にご尽力頂きました教職員の方々に深甚な謝意を表します。

令和7年10月

奈良工業高等専門学校 副校長（総務・広報担当） 平 俊男

奈良高専の教育・研究・社会貢献への取り組みと課題
—自己点検・評価報告書—

令和7年10月発行

編 集 奈良工業高等専門学校総務委員会
発 行 独立行政法人 国立高等専門学校機構
奈良工業高等専門学校
〒639-1080 奈良県大和郡山市矢田町2-2
TEL 0743-55-6013
URL <https://www.nara-k.ac.jp/>